



第7図 A地区北西造構群分布図

(1) 板石積石室墓(S I)

A地区北西遺構群内に8基分布する。いずれも中世の遺構や近世以降の耕作によって上部を削平されており、板石が全て抜かれているものや、大部分抜かれているものがほとんどであった。しかし、他の墓制との切りあいは見られない。

S I 101(第9図) 堀り込みのみを検出した板石積石室墓。北側を中世の溝に切られているが方形プランで一角が弧状を呈すると思われる。

S I 102(第10図) 円形プランの石室。北側半分はコンクリート壁によって破損している。南側半分で長軸縦置きの石材が9枚検出された。北側の4ヵ所の掘り込みと合わせると13枚の石材を用いていると思われる。無著鐵1(第107図1)が出土している。

S I 103(第11図) 15枚の石材を長軸縦置きに用いた円形プラン石室である。外側に階段状に一段の堀り込みが検出されておりドーム状の石組みが考えられる。柳葉鐵1(第107図3)が出土している。

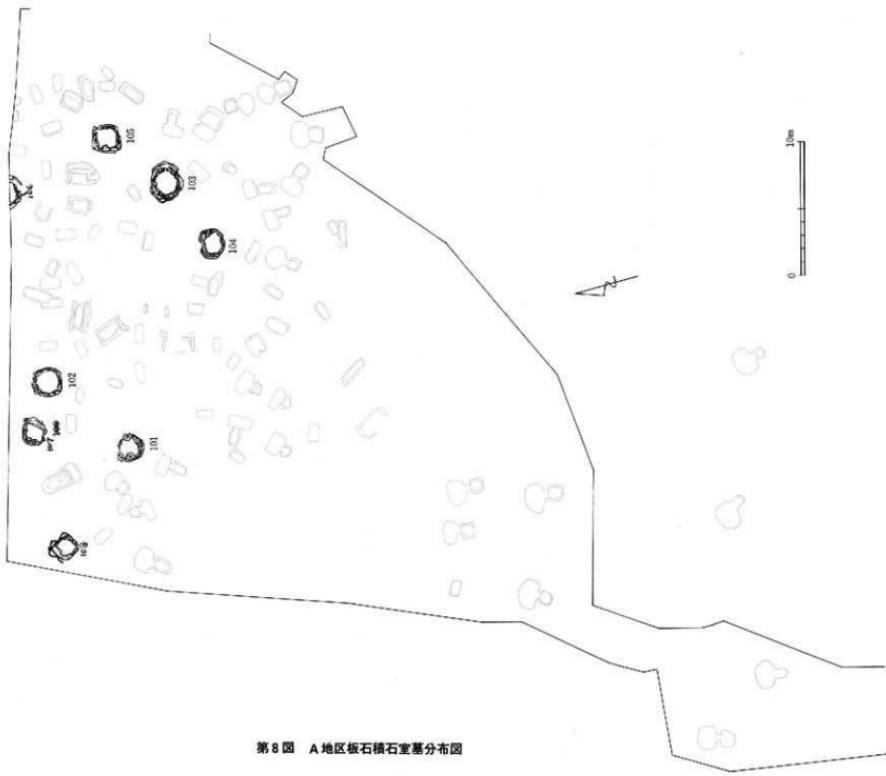
S I 104(第12図) 石材は1枚しか残っていないが堀り込みから13枚の石材を用いた長方形プランの石室である。西壁と北壁の交点は直角に組んであるが、南壁から東壁にかけては弧状を呈する。

S I 105(第13図) 3枚ほど石材が欠けているが14枚~15枚の石材を長軸縦置きに用いた方形プランの石室である。一角のみ弧状に組まれている。階段状に一段の堀り込みがみられる。ドーム状の石組みが考えられる。

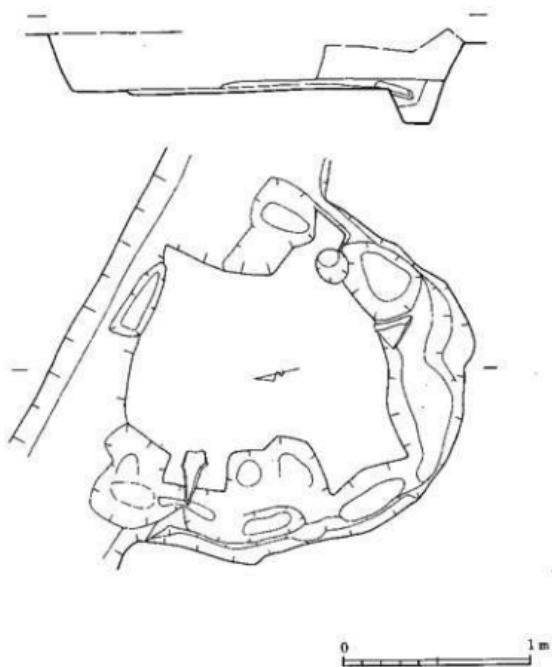
S I 106(第14図) 土取りによって北半分が削平されているが円形プランの石室と思われる。残存する石材は床面に弧状に組まれた長軸縦置きの4枚とその上段に2枚が見られる。堀り込みは4枚の石材のものほかに2ヵ所確認された。

S I 107(第15図) 石材は全て抜かれしており、堀り込みも大半が原形を留めていない。床面のプランから一角を弧状に組んだ方形の石室と思われる。

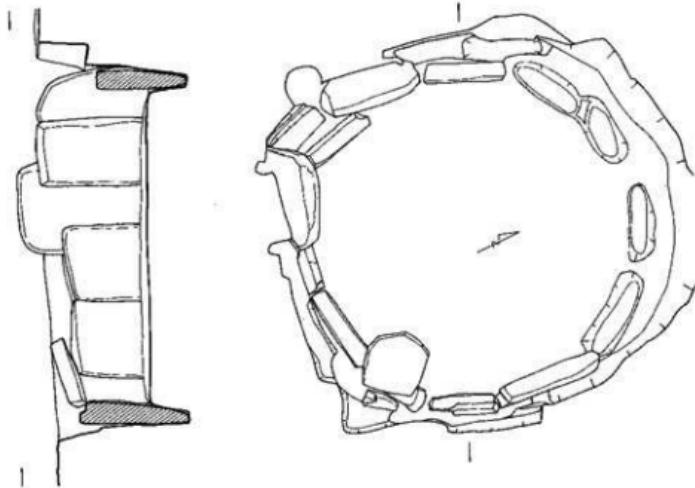
S I 108(第16図) 石材は全て抜かれているが検出された堀り込みから、一辺に3枚の石材を用いて一角を弧状に組んだ方形の石室である。



第8図 A地区板石積石室分布図

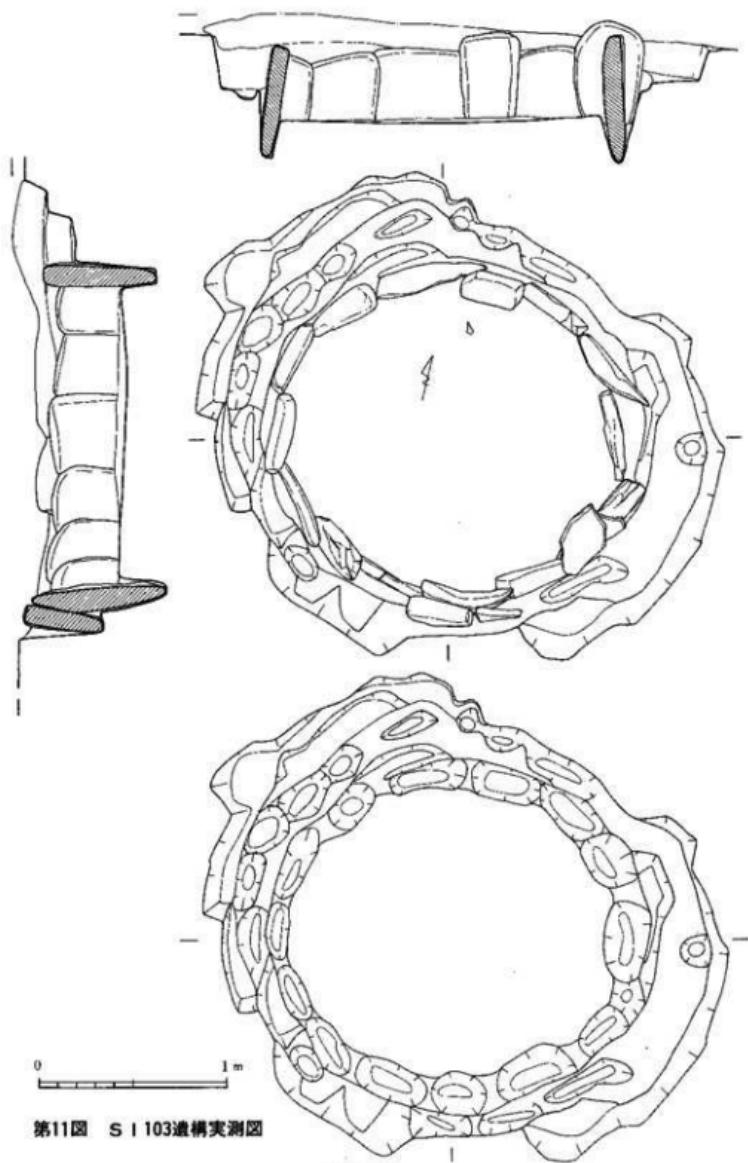


第9図 S 1 101造構実測図

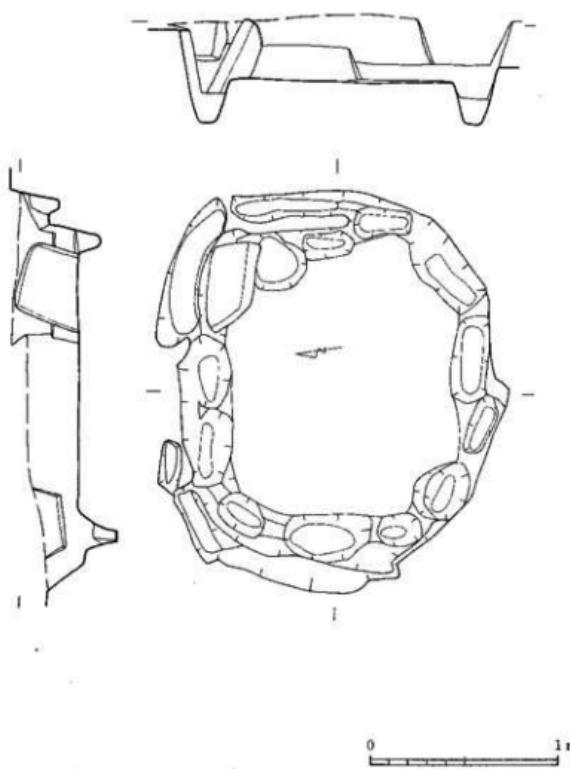


0 1m

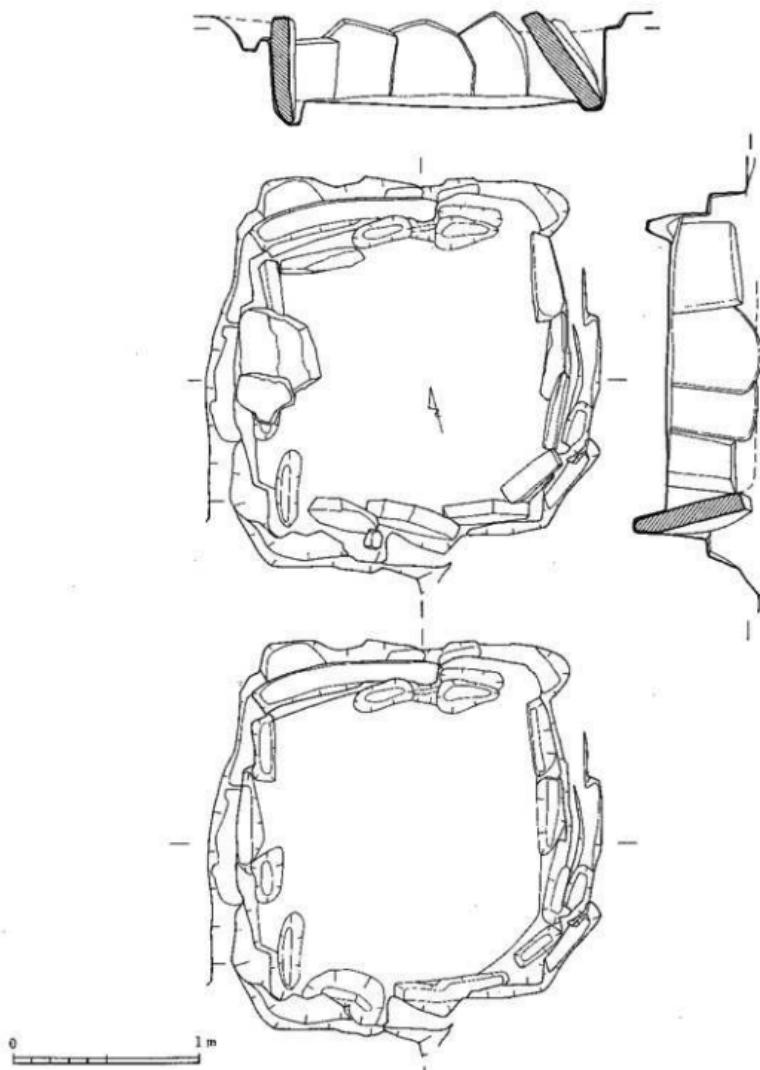
第10図 S I 102造構実測図



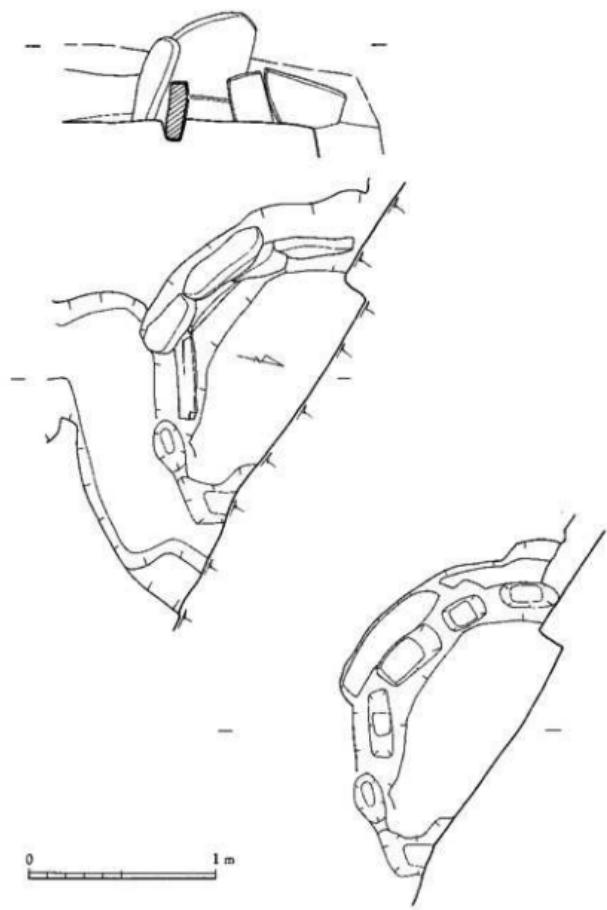
第11図 S I 103造構実測図



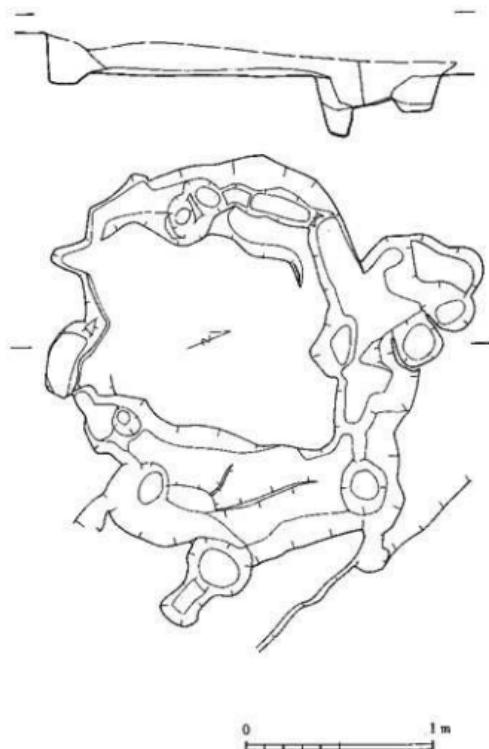
第12図 S I 104造構実測図



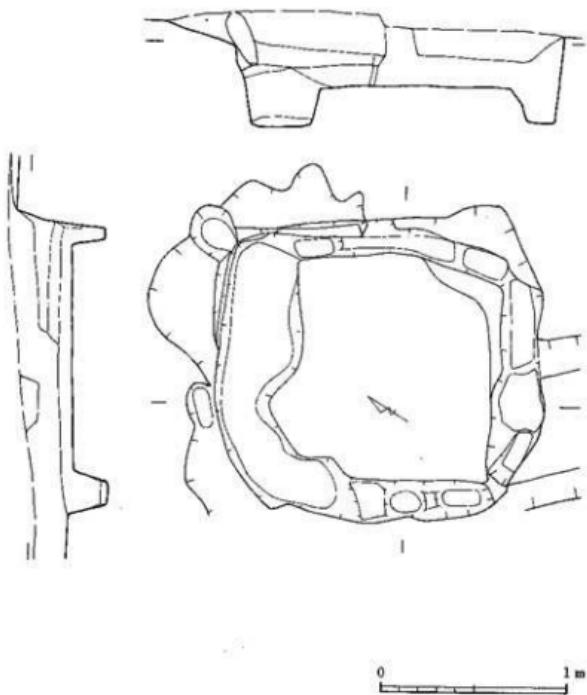
第13図 SII 105遺構実測図



第14図 S I 106遺構実測図



第15図 S 107遺構実測図



第16図 S I 108遺構実測図

(2) 土壙墓 (S K)

A地区北西遺構群内に木棺墓6基と木蓋土壙墓52基の合計58基の土壙墓が分布する。多くの土壙墓が中世の遺構や近世以降の耕作によって上部を削平されている。しかし、他の墓制との切りあいは見られない。

木棺墓 (S K 1～S K 6)

S K 1 (第18図) 4辺の堀り込みが検出された。長軸辺より短軸辺の堀り込みが深い。南北方向に主軸を持ち東側長軸辺の片方が短軸辺より外に張り出す。内寸は約150cm×70cmを測る。鐵1 (第106図31) が出土している。

S K 2 (第18図) 長軸辺の堀り込みのみの検出である。南側は堀り込みが緩やかに傾斜する。管玉1 (第106図②) と矢柄片と思われる木質部 (第106図32) が出土している。

S K 3 (第19図) 両側の短軸辺の堀り込みと長軸辺の一部でわずかな堀り込みを確認した。内寸で約170cm×80cmを測る。

S K 4 (第19図) 短軸辺の堀り込みのみの検出である。長軸長約120cmを測る。

S K 5 (第20図) 4辺の堀り込みが検出された。短軸辺の堀り込みが深く堀り込んである。長軸辺が両側とも短軸辺より外に張り出す。東側の長軸辺の立上がりの掘り込みが緩やかに傾斜する。内寸は約110cm×50cmを測る。南角の床面から鐵長身の鐵4 (第106図18～21) が出土した。また、傾斜面などの床面近くから土器片数点が出土しているが流れ込みと思われる。

S K 6 (第20図) 両側の短軸辺と一部長軸辺の堀り込みが検出された。内寸約110cm×70cmを測る。

木蓋土壙墓 (S K 7～S K 58)

S K 7 (第21図) 長方形プランで断面方形の大型土壙。角をほぼ直角に堀り込む。床面中央に劍1 (第106図4)、壁際に鐵2 (第106図5・6) を出土している。

S K 8 (第21図) 隅丸長方形プランを呈する中型土壙。断面逆台形だが一部壁が内側に傾く。

S K 9 (第22図) 長方形プランで断面方形の中型土壙。角ほぼ直角に堀り込む。

S K 10 (第22図) 長方形プランで断面方形の大型土壙。一方の角は隅丸である。

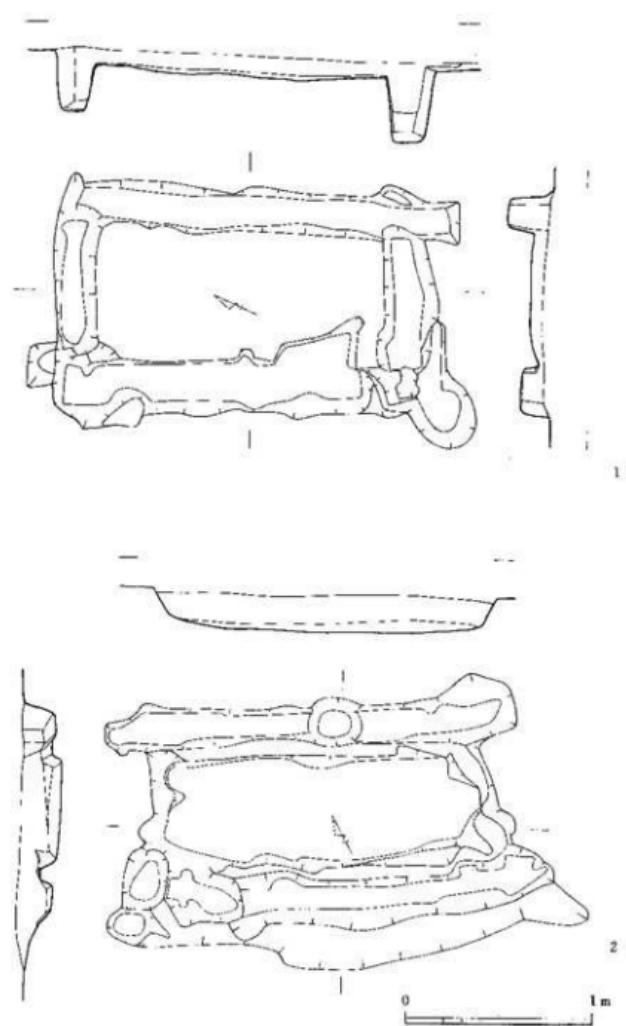
S K 11 (第23図) 楕円形プランで断面逆台形の小型土壙。中世の柱穴で床面壁面が破損する。

- S K12 (第23図) 長方形プランで断面方形の中型土壙。角をほぼ直角に堀り込む。
- S K13 (第24図) 長方形プランで断面方形の小型土壙。中世の柱穴のため一部壁が破損する。
- S K14 (第24図) 長方形プランの断面逆台形の中型土壙。
- S K15 (第25図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。北壁の一部が中世の柱穴で破損する。
- S K16 (第25図) 長方形プランの断面台形の大型土壙。床面中央に剣1 (第106図7) が出土している。
- S K17 (第26図) 長方形プランの断面方形の大型土壙。角をほぼ直角に堀り込む。
- S K18 (第26図) 四隅長方形プランの断面逆台形の小型土壙。床面が2段になる。
- S K19 (第27図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。確認面で堀り込みが見られるが中世以降のものと思われる。鎌3 (第106図8~10) が出土している。
- S K20 (第27図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。角をほぼ直角に堀り込む。
- S K21 (第28図) 弧なやや幅広長方形プランの小型土壙。断面は逆台形。
- S K22 (第28図) 幅広長方形プランの中型土壙。断面は方形。
- S K23 (第29図) 東側が直角に掘り込まれているが、西側が弧状を呈する若干四隅長方形気味の不定型の大型土壙。東壁は中世の掘り込みで破損している。断面は逆台形を呈する。
- S K24 (第29図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。
- S K25 (第30図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。
- S K26 (第30図) やや幅広の長方形プランの中型土壙。床面中央に剣1 (第106図15) が出土している。確認面の西側に木蓋用と思われる堀り込みの一部が検出された。
- S K27 (第31図) 幅広の長方形プランの中型土壙。断面は方形を呈する。床面から浮いた状態で土器片1が出土している。
- S K28 (第31図) 楕円形気味の不定型プランの小型土壙。断面は逆台形。中央寄りの西側床面に鎌1 (第106図14) を副葬している。また、北壁際では浮いた状態で土器片1が出土している。
- S K29 (第32図) 長方形プランの断面逆台形の中型土壙。
- S K30 (第32図) やや幅広の長方形プランの大型土壙。断面は方形を呈する。北西角が中世の柱穴によって一部破損している。
- S K31 (第33図) 四隅長方形プランの大型土壙。断面は袋状を呈する。

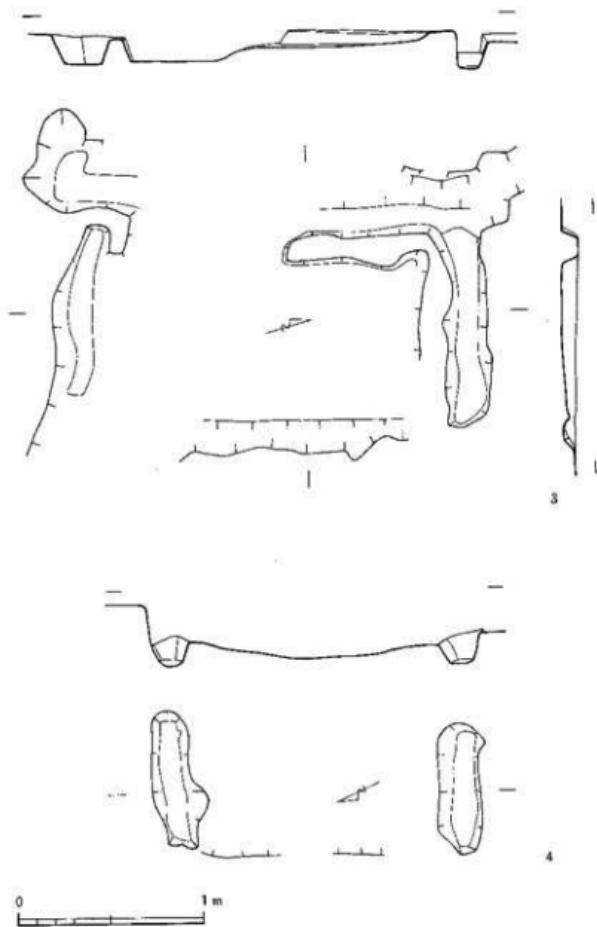


第17図 A地区土壠基分布図

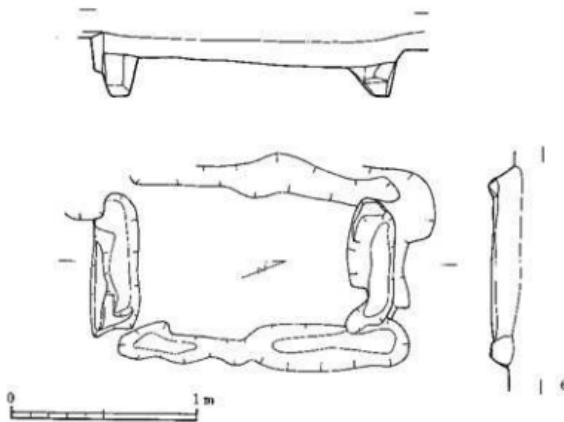
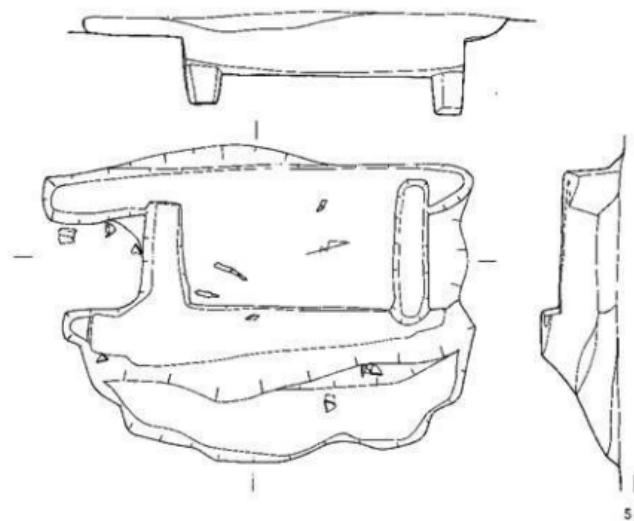
- S K32 (第33図) やや幅広の長方形プランの小型土壙。断面は方形を呈している。南東壁際の床面に鐵1 (第106図13) を出土している。
- S K33 (第34図) やや幅広の長方形プランの小型土壙。断面は方形を呈している。
- S K34 (第34図) 長方形の断面台形の中型の土壙。掘り込み面の周囲に木蓋用の掘り込みが巡っている。
- S K35 (第35図) 長方形プランの断面逆台形の小型土壙。
- S K36 (第35図) 長方形プランの断面方形の中型土壙。土壙の掘り込み面に長軸132cm、短軸110cmの木蓋用の掘り込みが検出されている。南東側の掘り込みが若干広くなっている。
- S K37 (第36図) 長方形プランの中型土壙。断面は袋状の台形を呈する。
- S K38 (第36図) 椎円形プランの断面方形から台形状の大型土壙。南壁が中世の柱穴や地下式横穴墓の豎杭などによって毀損している。西寄りの床面に鐵1 (第106図11) が出土している。
- S K39 (第37図) 長方形プランの中型土壙。断面は袋状の台形を呈する。掘り込み面に長軸125cm、短軸75cmの木蓋用の掘り込みが見られる。
- S K40 (第37図) 隅丸長方形プランの断面方形の中型土壙。北東角寄りの床面に鐵1 (第106図16) と矢柄 (第106図17) が出土している。
- S K41 (第38図) 長方形プランの断面方形の中型から大型にかけての土壙。北側は土取りによって崩壊している。
- S K42 (第39図) 幅広長方形プランの断面方形の中型土壙。
- S K43 (第39図) 隅丸長方形プランの断面逆台形の小型土壙。
- S K44 (第39図) 長方形プランの断面逆台形の小型土壙。
- S K45 (第40図) 幅広長方形プランの断面台形の中型土壙。残存壁の状態からかなり内側へ傾く壁面が推定される。
- S K46 (第40図) 長方形プランの大型土壙であるが北東角が崩れている。断面は一部逆台形を呈しているが基本的には方形である。
- S K47 (第41図) 隅丸長方形プランの断面逆台形の中型土壙。
- S K48 (第41図) 幅広長方形プランの断面方形の小型土壙。南角や北壁際の床面を中心にして鐵6 (第106図22~30) が出土している。しかし、10cmほどしか壁面が残存しておらず原位置での出土かは明確ではない。



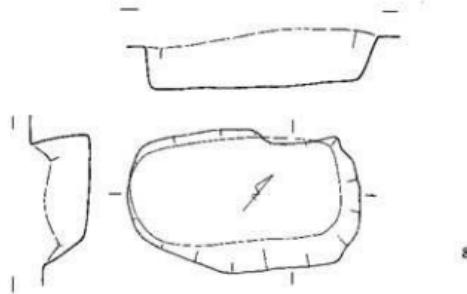
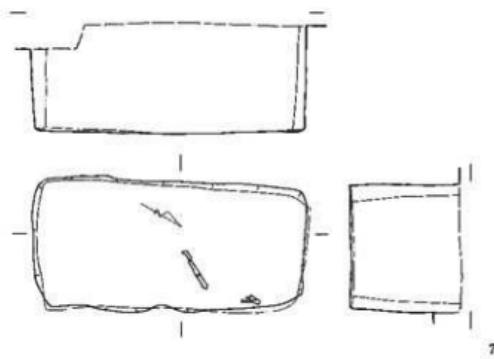
第18図 SK 1, 2 造構実測図



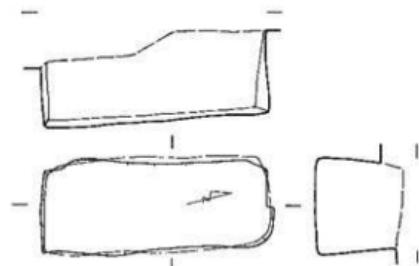
第19図 SK 3, 4 遺構実測図



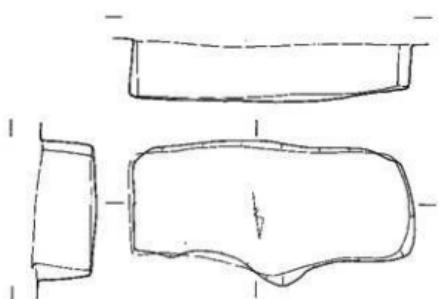
第20図 SK 5, 6 遺構実測図



第21図 SK 7・8 造構実測図



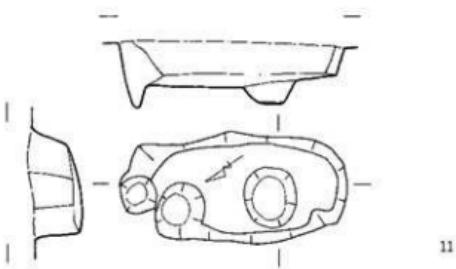
9



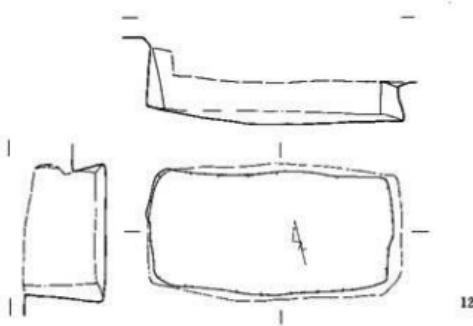
10

0 1 m

第22図 SK 9・10遺構実測図



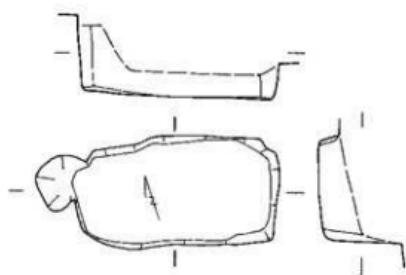
11



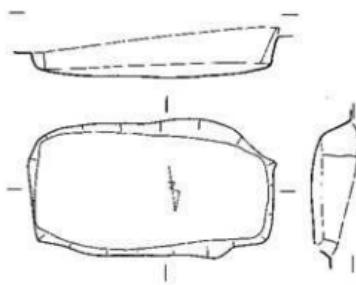
12



第23図 SK 11・12遺構実測図



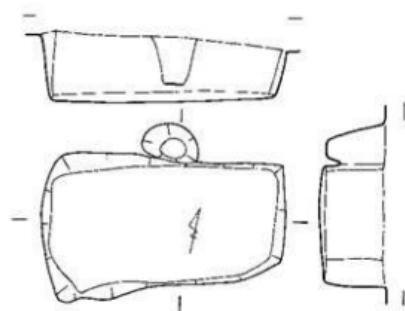
13



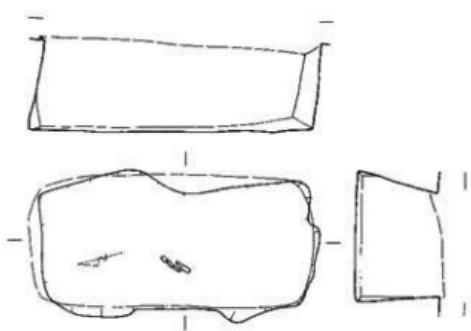
14



第24図 SK 13・14遺構実測図



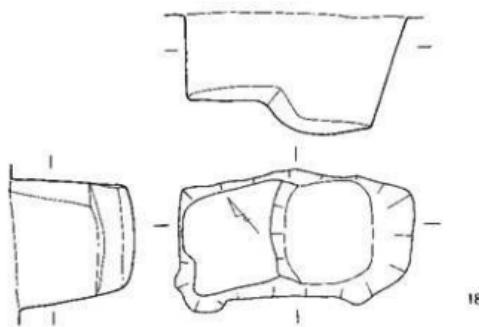
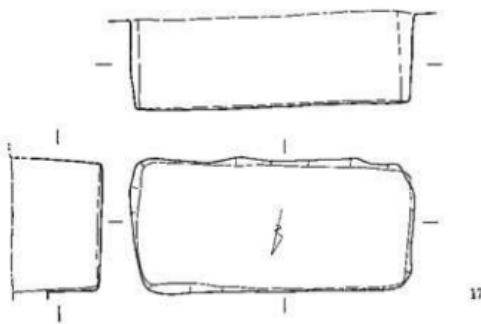
15



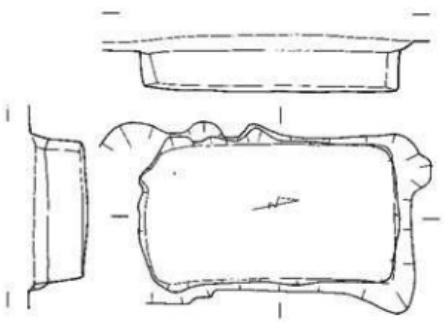
16



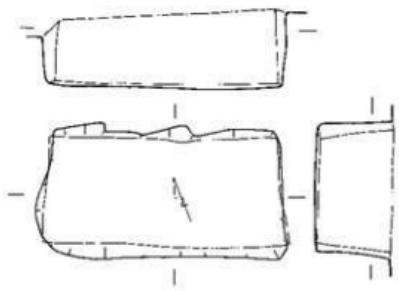
第25図 SK 15・16造構実測図



第26図 SK 17・18遺構実測図



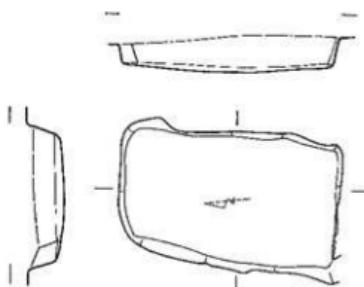
19



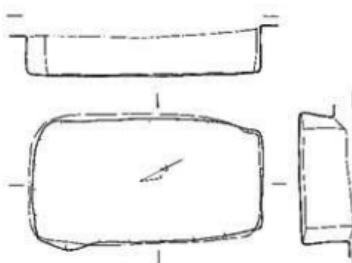
20



第27図 SK 19・20遺構実測図



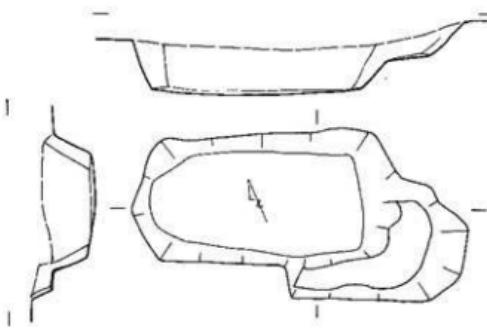
21



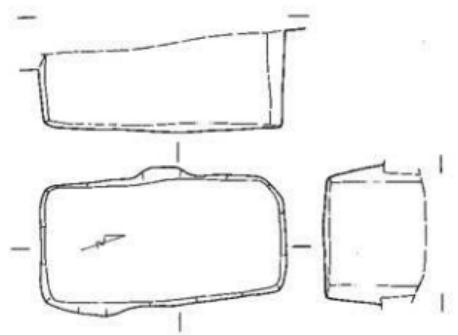
22



第28図 SK 21・22遺構実測図



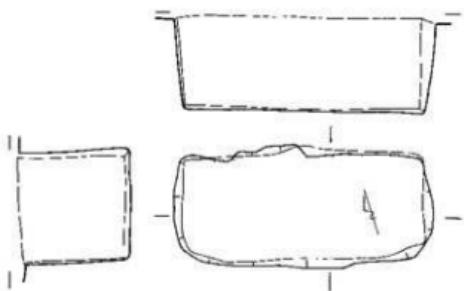
23



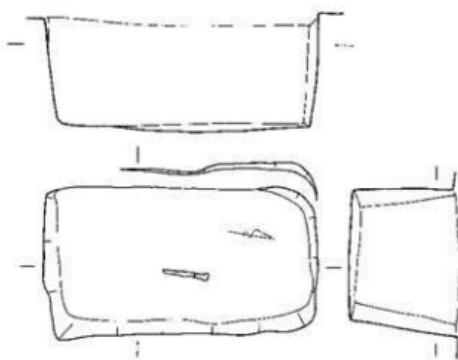
24



第29図 SK 23・24造構実測図



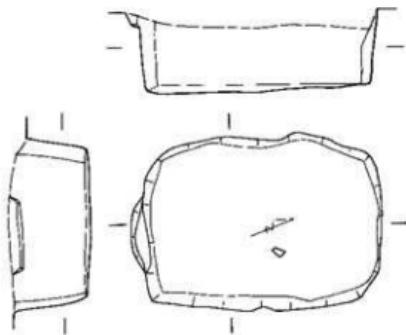
25



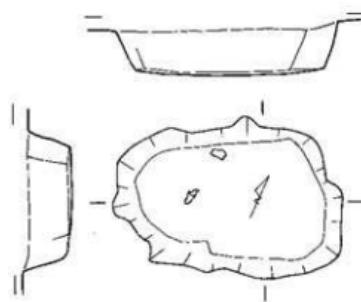
26



第30図 SK 25・26造構実測図



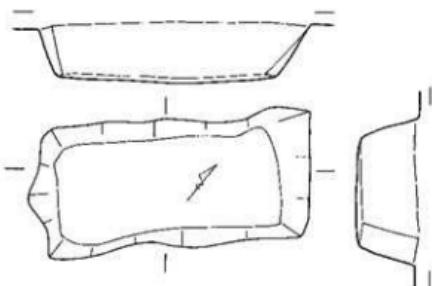
27



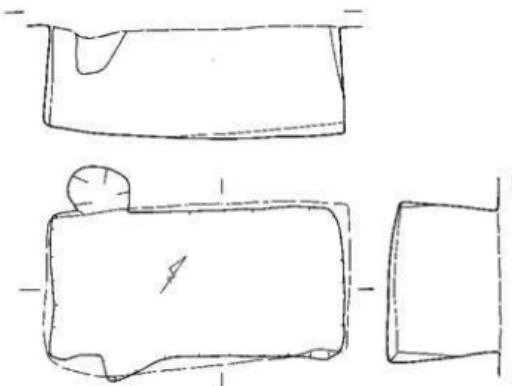
28



第31図 SK 27・28遺構実測図



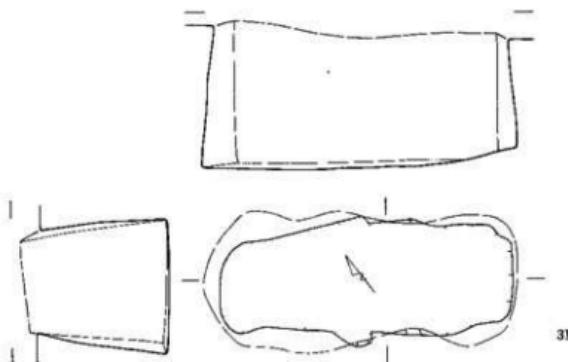
29



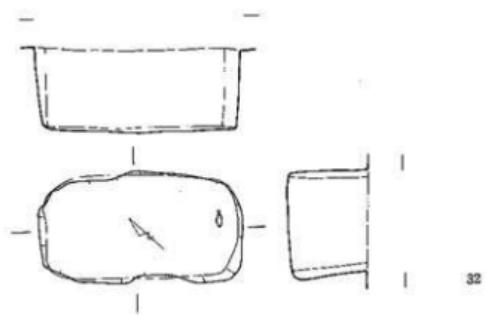
30



第32図 SK 29・30造構実測図



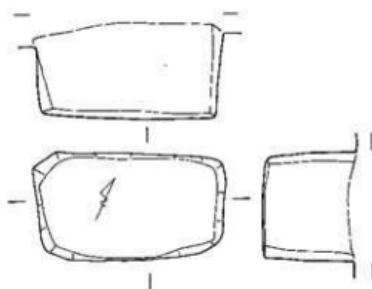
31



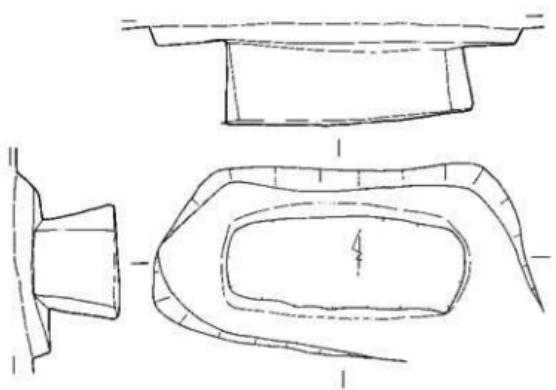
32



第33図 SK 31・32造構実測図



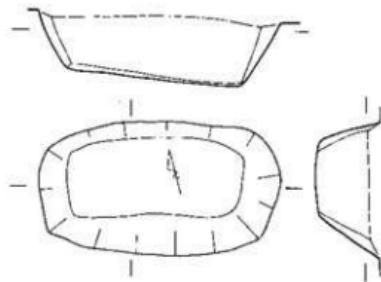
33



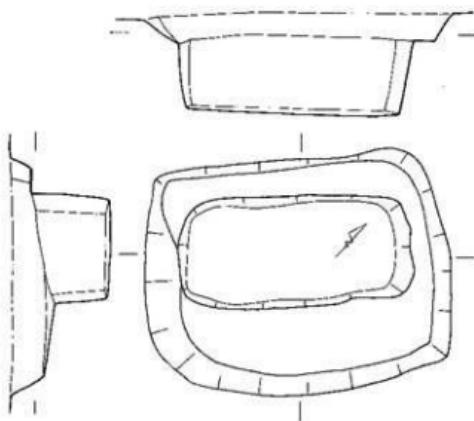
34



第34図 SK 33・34造構実測図



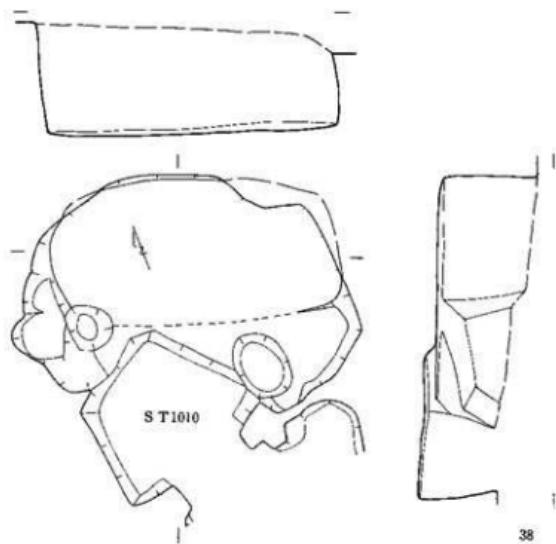
35



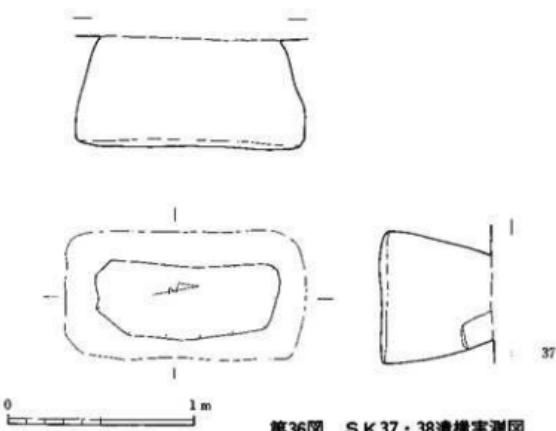
36



第35図 SK 35・36遺構実測図



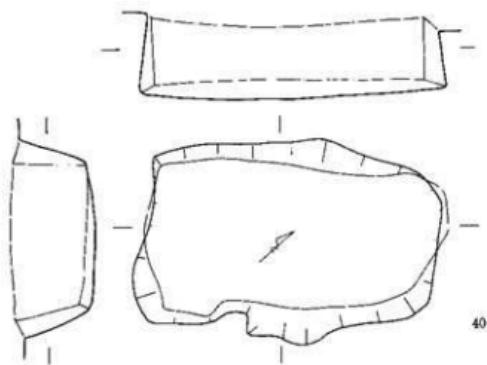
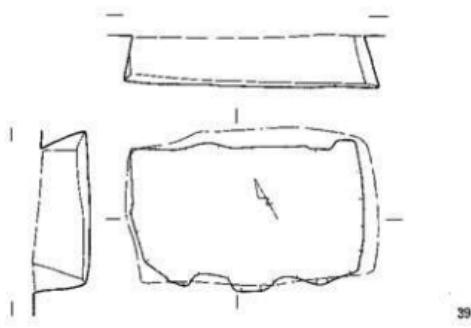
38



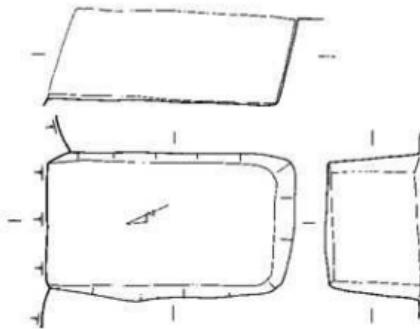
37

0 1 m

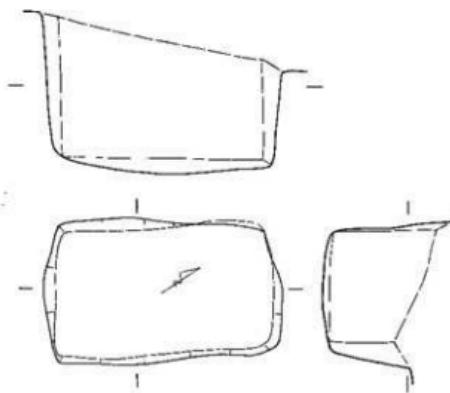
第36図 SK 37・38造構実測図



第37図 SK 39・40造構実測図



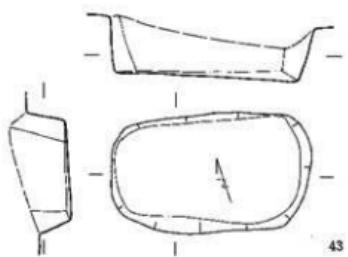
41



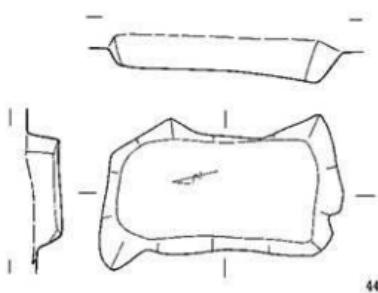
42



第38図 SK 41・42構造実測図



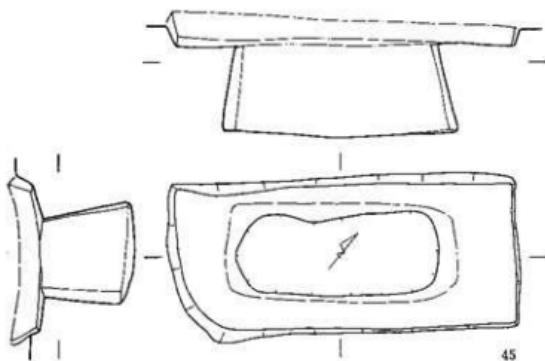
43



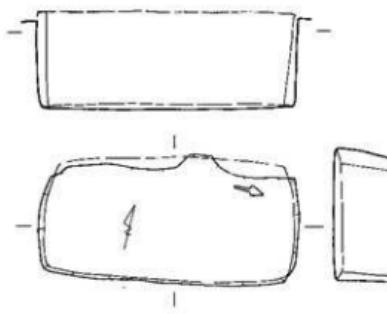
44



第39図 SK 43・44遺構実測図



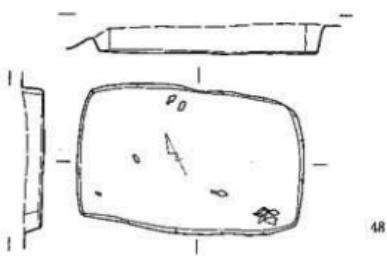
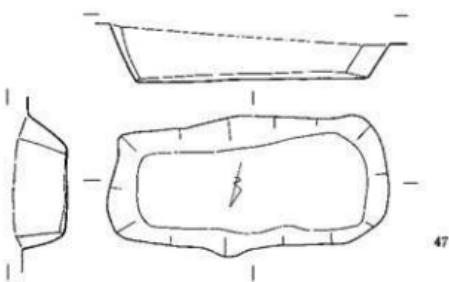
45



46

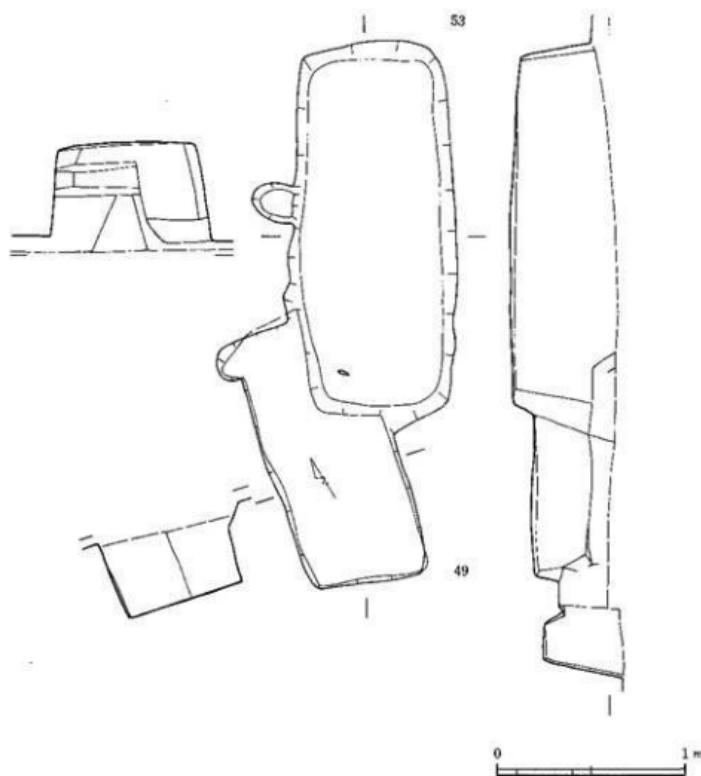


第40図 SK 45・46遺構実測図

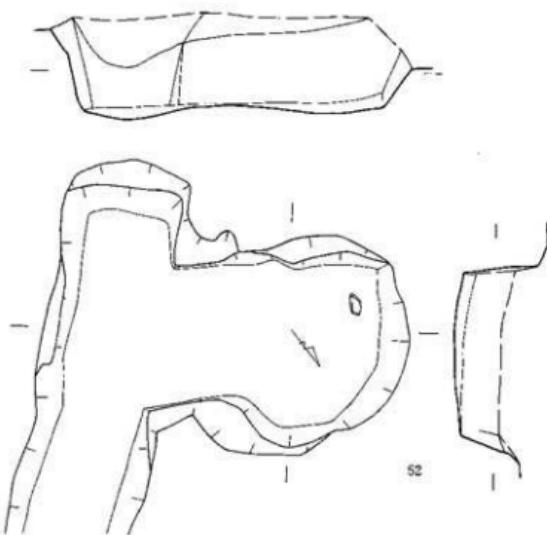
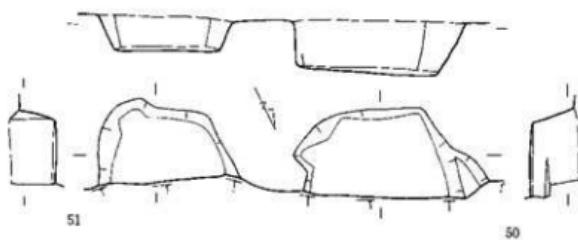


0 1 m

第41図 SK 47・48遺構実測図

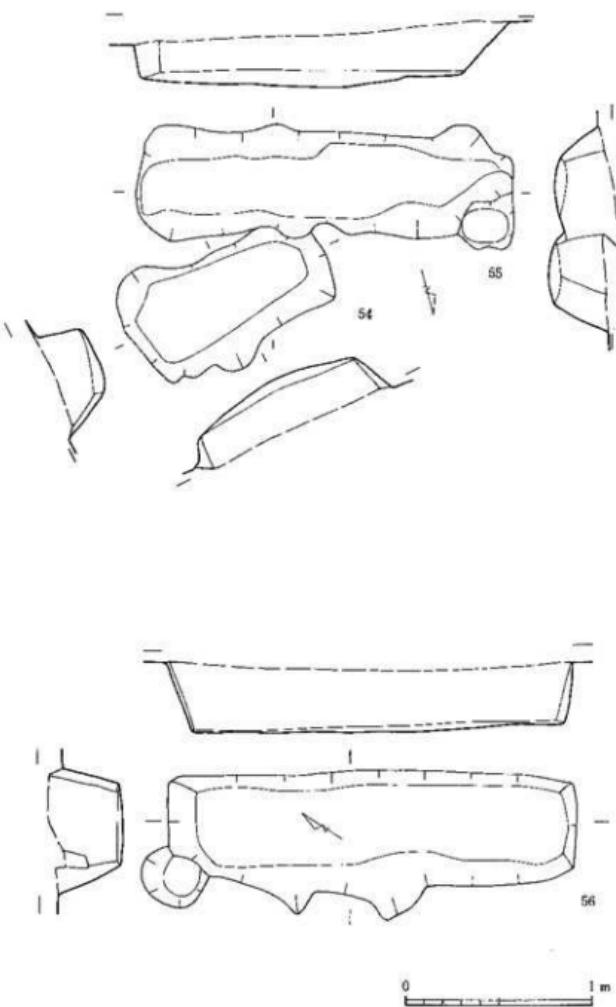


第42図 SK 49・53遺構実測図

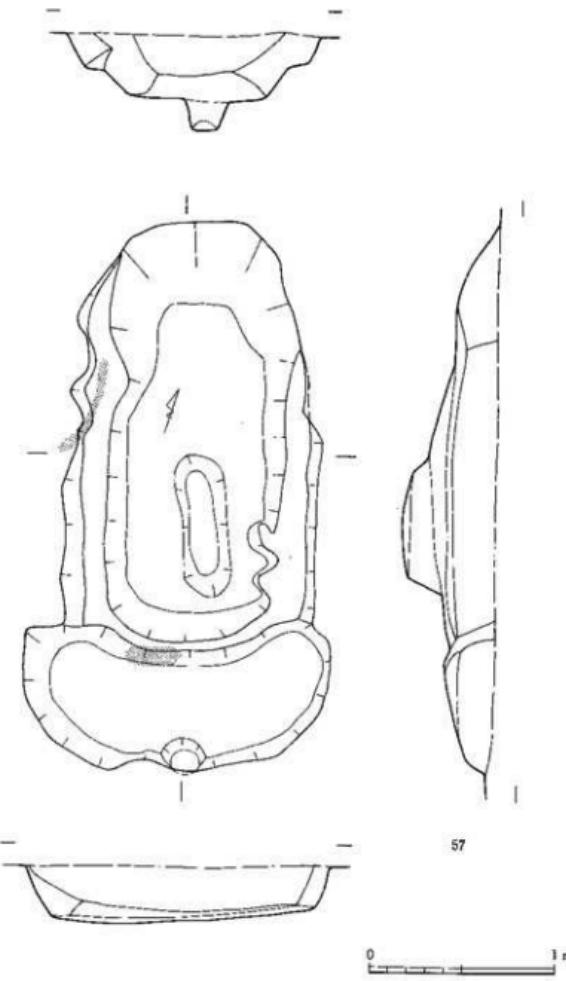


0 1 m

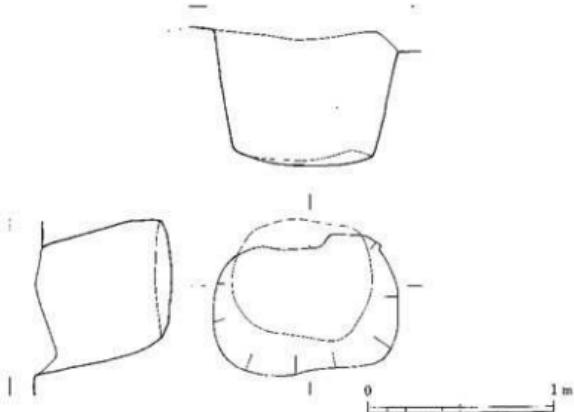
第43図 SK 50・51・52造構実測図



第44図 SK 54・55・56遺構実測図



第45図 SK 57遺構実測図



第46図 SK 58遺構実測図

S K49（第42図） 長方形プランの断面方形の中型土壙。北側をS K53によって切られている。西壁寄りの床面に欠損した剣1（第106図12）が出土している。

S K50・S K51（第43図） いずれも北側を土取りによって大半を毀損している。

S K52（第43図） 近世以降の搅乱によって東側が毀損している。西壁際に浮いた状態で土器1が出土している。

S K53（第42図） S K49と切りあって検出された。長方形プランでやや逆台形状の断面を呈する。埋土中に針状の鉄片が数点見られる。

S K54（第44図） S K55と隣接して検出された。断面逆台形の小型土壙。

S K55（第44図） 断面逆台形の大型の細長土壙。西側を中世の柱穴で破損している。

S K56（第44図） 断面逆台形の大型の細長土壙。長方形プランを呈する。

S K57（第45図） 楕円形プランを基本とする主土壙と三ヵ月形の浅い上壙の組み合わさった変形の大型土壙。主土壙は三段に掘り込まれており二段目が床面と思われる。上面では朱が検出されている。

S K58（第46図） 円形プランの小型上壙。床面は北側に入り込む形になっている。

(3) 地下式横穴墓 (S T)

A地区北西遺構群北側で16基、同南側で8基、B地区遺構群で43基合計69基の地下式横穴墓が検出された。

A地区遺構群北側

16基の地下式横穴墓が検出された、この内8基は横口系の豊坑をもつ地下式横穴墓で、他は狭門閉塞の地下式横穴墓である。主軸に規則性は見られないが大半は微高地頂部より若干下がった同等高線上に分布し、標高の高い方向に玄室を掘り込んでいる。

S T1001 (第48図) 長方形プランで断面台形の大型土壙を玄室にする。長辺中央に半円形プランの小型の横口系の豊坑を持つ。玄室は豊坑より深く掘り込まれている。豊坑と玄室の間は一段高い段道で続く。狭門に当る位置には右側壁に板閉塞の溝が掘り込んである。狭門から玄室にかけて高壇の环部片 (第105図52) が出土した。

S T1002 (第48図) やや幅広長方形プランで断面方形の大型土壙を玄室にする。長辺中央に半円形プランの小型の横口系の豊坑を持つ。玄室は豊坑より深く掘り込んである。豊坑と玄室の間には段道があり狭門に当る位置の床面には板閉塞の溝が掘り込んである。

S T1003 (第59図) やや幅広長方形プランで断面方形の大型土壙を玄室にする。長辺中央より右側に長方形プランの横口系の豊坑を持つ。玄室は豊坑より深く掘り込んである。豊坑と玄室の間には段道があり狭門に当る位置の床面には板閉塞の溝が掘り込んである。床面より鐵3 (第106図33~35) が出土したほか豊坑検出レベルで長頸壺 (第104図39) の胴部が出土している。

S T1004 (第59図) 四丸長方形プランの玄室の長辺側に長方形の横口系の豊坑を掘り込む。段道は細くくびれる。豊坑から段道までの床面は同レベルで、玄室は一段下がる。

S T1005 (第50図) 幅広長方形プランで断面台形の土壙を玄室にする。長辺中央に円形状の横口系の豊坑を掘り込む。段道はわずかに見られ一段低く玄室が造られている。やや東よりの床面に紡錘車1 (第106図①) が出土している。

S T1006 (第50図) 幅広長方形プランの小型土壙を玄室にする。片袖氣味に位置する長方形プランの横口系の豊坑は玄室より深く掘り込んでいる。玄室より一段高く短い段道が造られている。狭門壁に板閉塞の溝が掘り込まれている。

S T1007 (第51図) 平入り楕円形プランの玄室に細長い長方形プランの豊坑を持つ。板

閉塞の溝が狭門壁際に掘り込んである。

S T1008 (第51図) 隅丸長方形プランの玄室の長辺側東寄りに一段高く隅丸長方形の横口系の竪坑を造る。北東角床面に劍1 (第106図36) が出土している。また竪坑検出レベルの玄室上部から長頸壺 (第104図37) が完形で出土した。

S T1009 (第52図) 長方形プランの断面方形の玄室に方形プランの竪坑を持つ。床面は竪坑から玄室にかけてフラットである。

S T1010 (第53図) 狹門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井は崩壊しているがドーム形と思われる。やや東側に狭道が偏る。竪坑を搅乱で毀損する。

S T1011 (第54図) 狹門閉塞のタイプ。円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井はドーム形を呈する。やや南寄りに方形プランの小型の竪坑が掘り込まれている。竪坑から玄室にかけて床面は傾斜する。奥壁際に劍1 (第107図37) と鎌1 (第107図38) が出土している。

S T1012 (第55図) 狹門閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井はドーム形だが高さ50cmと低い造りである。右袖際に鎌1 (第107図39) が出土している。

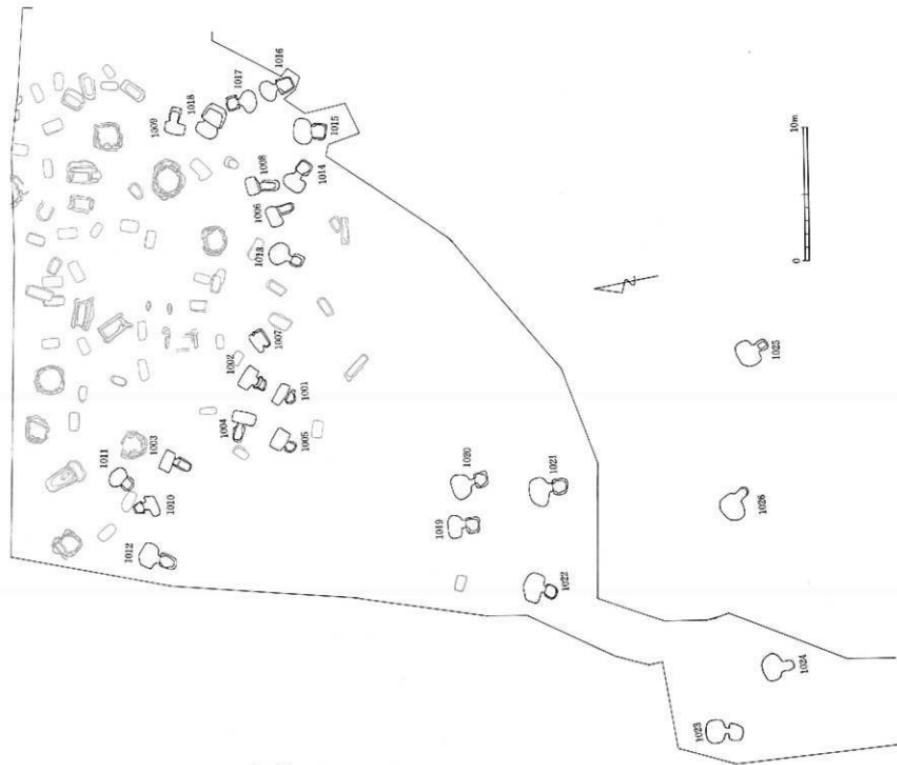
S T1013 (第56図) 狹門閉塞のタイプ。円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室で天井は崩壊する。狭道は長めで竪坑から狭道にかけて床面が傾斜する。さらに玄室は一段下がって掘り込まれている。確認面全域にかけて搅乱のため上部が毀損している。

S T1014 (第57図) 狹門閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井は平造りで高さ約50cmと低い。奥壁中央に鎌2 (第107図40・41) が出土している。

S T1015 (第58図) 狹門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井部は崩壊している。狭道から玄室にかけて傾斜する。右壁際に鎌5 (第107図42~46) が出土した。また、竪坑上部および南側に土器 (第102図17、第104図49、第105図56・57) が集中して出土した。

S T1016 (第59図) 狹門閉塞のタイプ。楕円形状プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井は平造りで低い。竪坑と玄室のほぼ同規模である。狭道は玄室側に開き気味に造られている。劍1 (第107図47) が出土している。

S T1017 (第60図) 狹門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井部はドーム形で低い造りである。中央よりやや狭門側に鎌3 (第107図48~50) が出土している。



第47図 A地区地下式横穴墓分布図

S T 1018 (第61図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井部は崩壊している。羨門の天井は押し潰されてしまっている。豊坑の規模が玄室より大きく掘り込まれている。剣2 (第108図55・52) が出土している。

A 地区遺構群南側

8基が分布する。S T 1019~S T 1022の4基の羨門閉塞タイプの一群、羨門閉塞タイプのS T 1023と豊坑上部閉塞タイプのS T 1024、さらに豊坑上部閉塞タイプのS T 1025とS T 1026の3グループの分布が見られる。いずれも豊坑から北方向に向って玄室が構築されている。

S T 1019 (第62図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランでやや右寄りに両袖を持つ平入り構造の玄室。天井部はドーム造りである。右袖際に鎌1 (第107図53) が出土している。

S T 1020 (第63図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。天井は崩壊する。羨道は若干長いが幅が狭い。豊坑は羨門に向って傾斜し、さらに玄室は一段下がって掘り込まれている。奥壁際の中央に鎌4 (第107図55~58)、右角に剣1 (第108図54) が出土している。天井部はドーム造りである。

S T 1021 (第64図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランのやや右寄りに両袖を持つ平入り構造の玄室。天井部はドーム造りである。羨道は若干細長く造られている。豊坑から羨道にかけて床面がやや傾斜する。

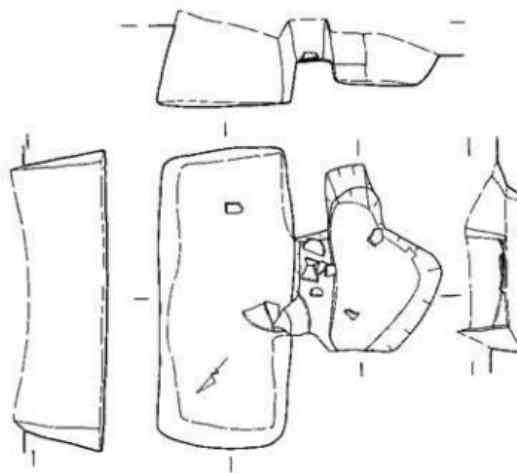
S T 1022 (第65図) 羨門閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ玄室。天井部は崩壊している。豊坑から羨道に向って床面が傾斜する。奥壁中央に剣1 (第107図59)、右角に剣1 (第107図60) が出土している。

S T 1023 (第66図) 羨門閉塞のタイプ。隅丸長方形プランでやや右寄りに両袖を持つ玄室。天井部は崩壊している。羨門は細長く造られている。豊坑は玄室より一段深く掘り込まれている。右壁奥で剣(第107図51)、羨門近くで剣(第107図52)、鎌が出土している。

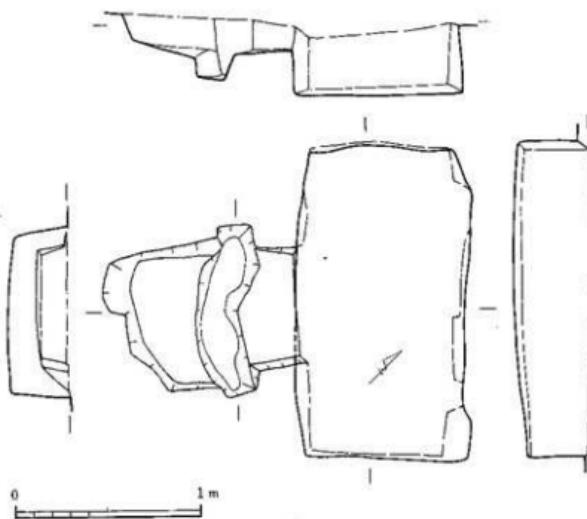
S T 1024 (第67図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から羨道にかけて天井部が崩壊している。

S T 1025 (第68図) 豊坑上部閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ玄室。天井は寄棟造りを呈する。豊坑上面には専用の方形の掘り込みがあり2段掘りになっている。豊坑の周囲に粘土を敷き、大型の偏平石で閉塞する。さらに丸石で隙間を充填している。右壁側に剣1 (第107図63)、鎌2 (第107図61・62) が出土している。

S T 1026 (第69図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランでかなり右側に寄った両袖を



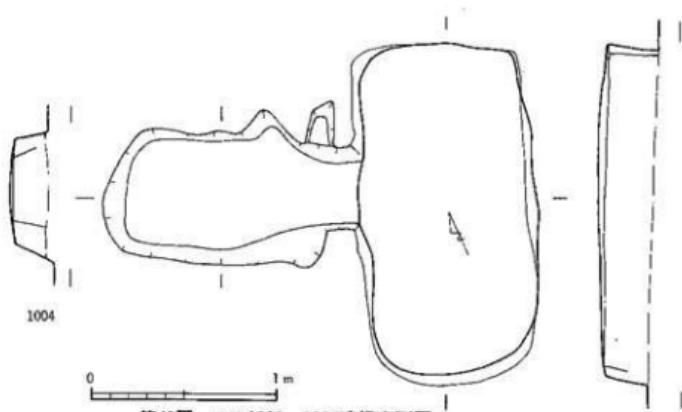
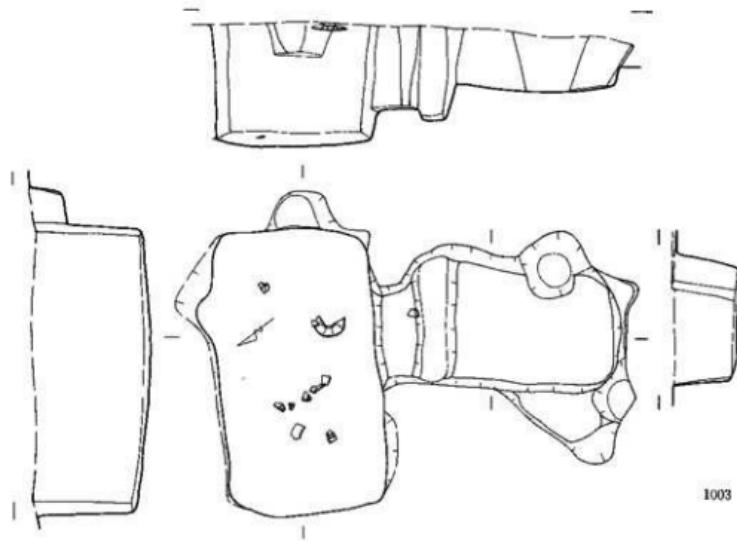
1001



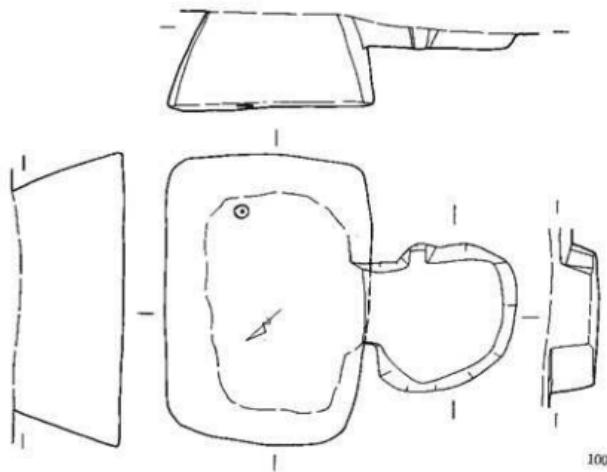
1002



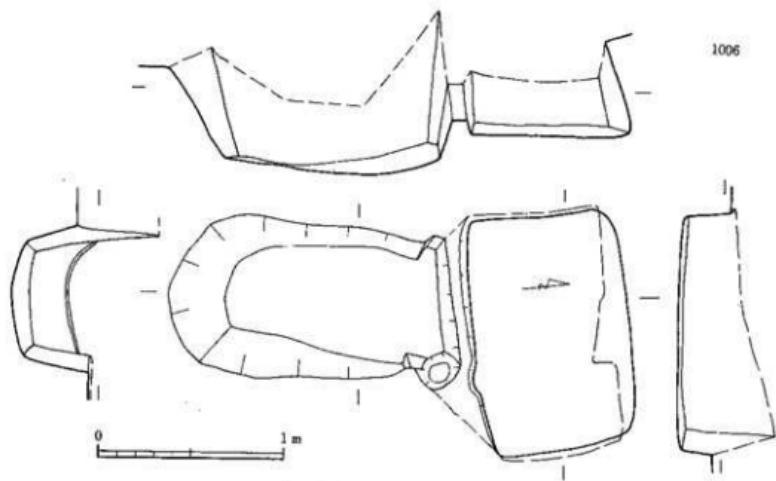
第48図 S T 1001, 1002遺構実測図



第49圖 ST 1003, 1004遺構測定圖

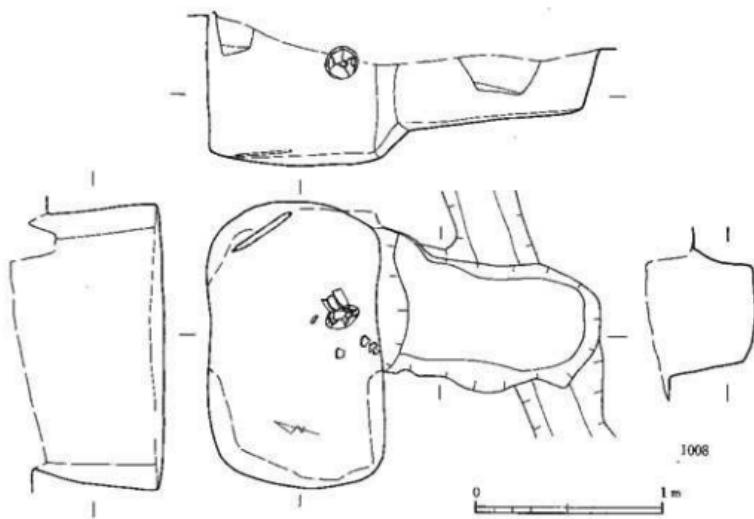
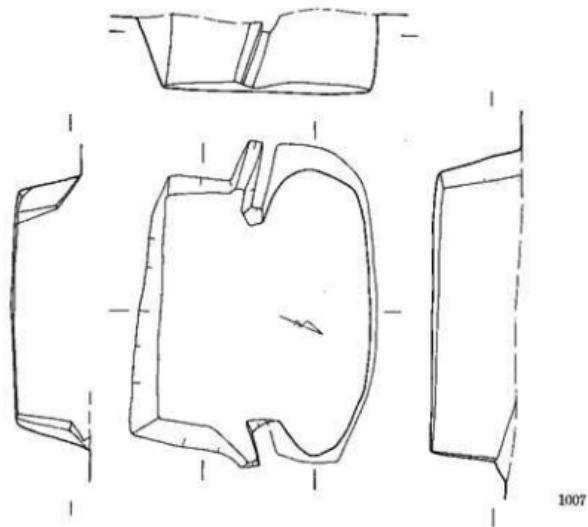


1005

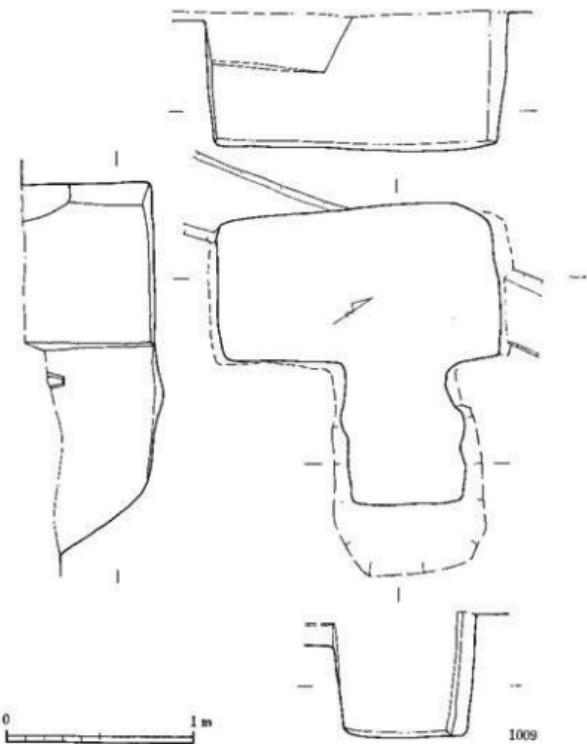


1006

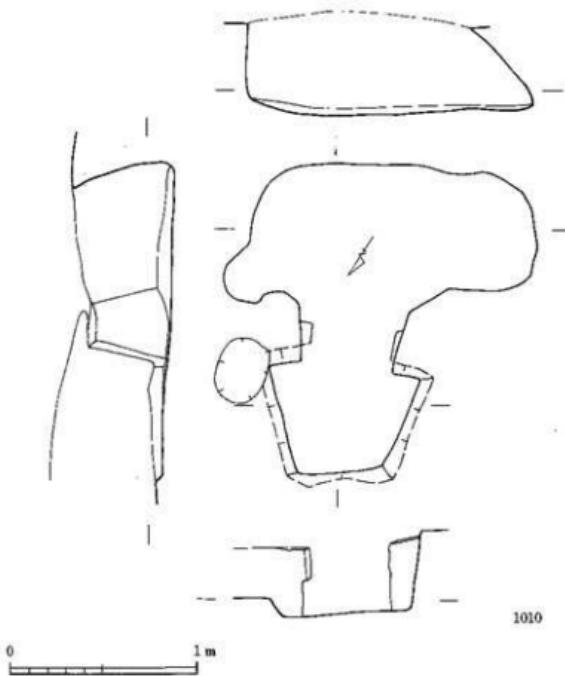
第50図 ST 1005, 1006遺構実測図



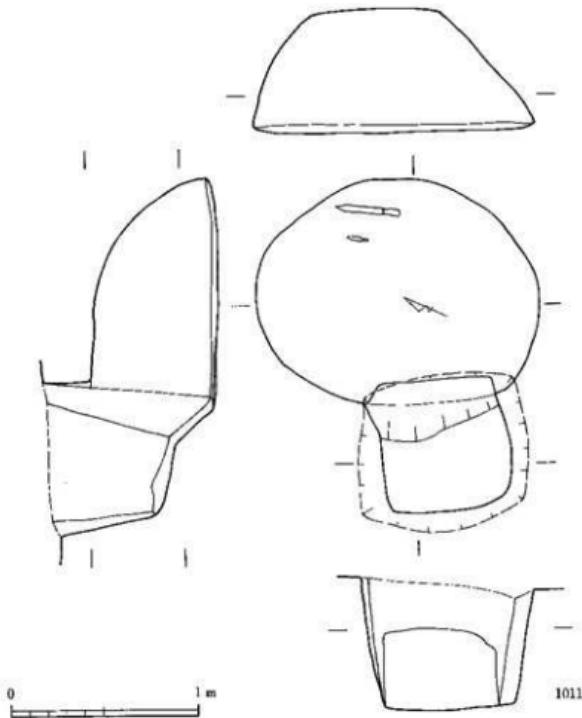
第51図 ST 1007, 1008遺構実測図



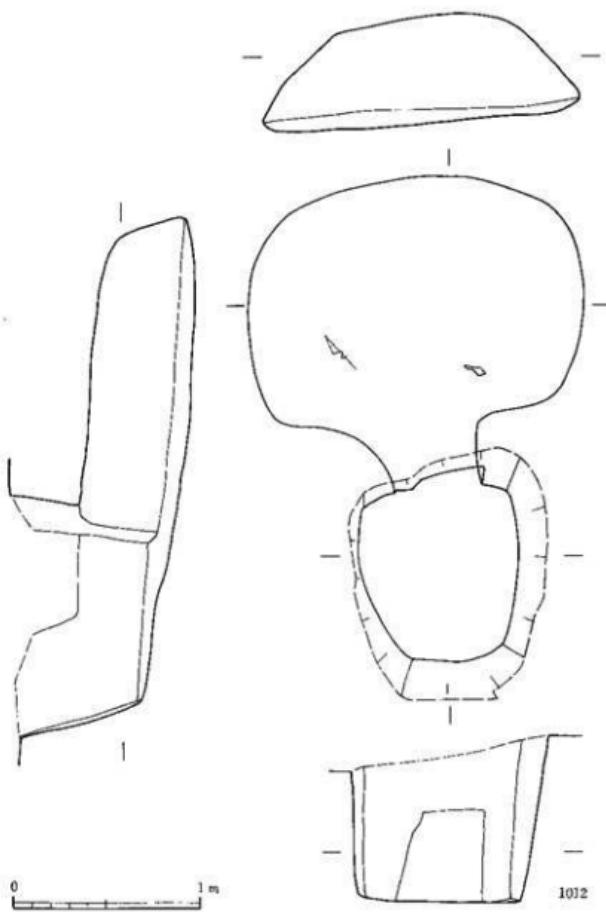
第52図 ST 1009遺構実測図



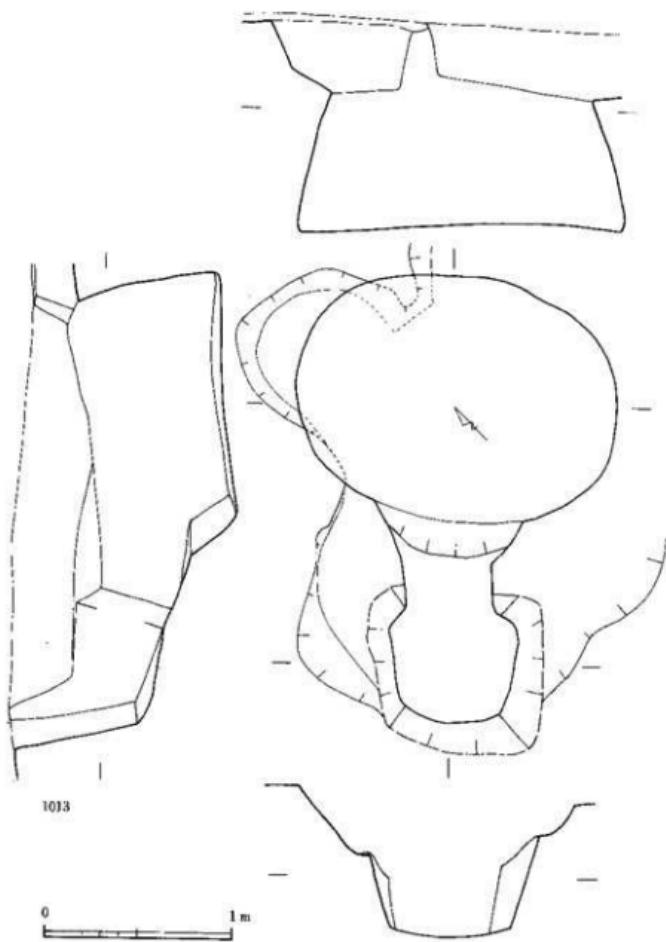
第53図 ST 1010遺構実測図



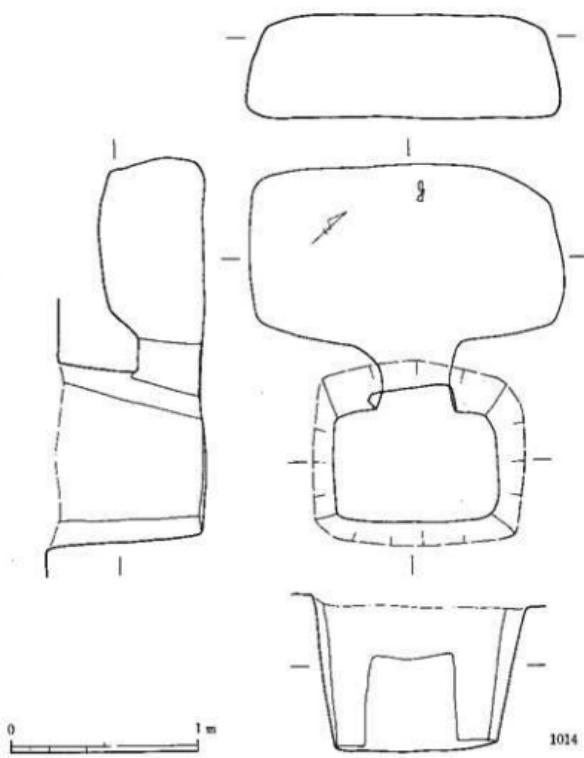
第54図 S T 1011遺構実測図



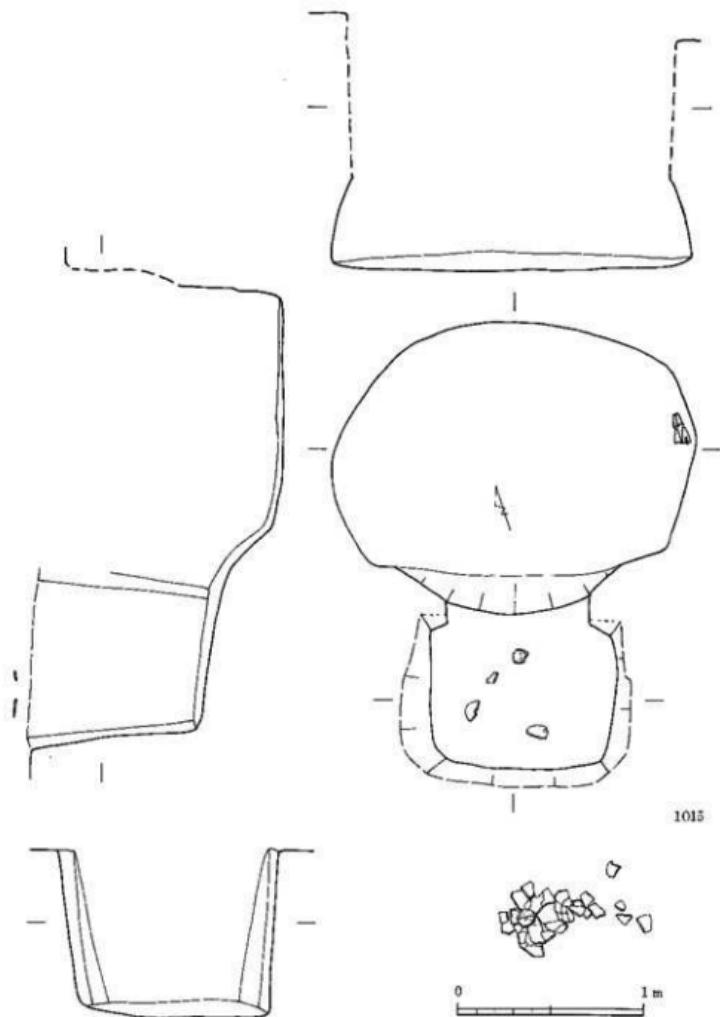
第55図 ST 1012遺構実測図



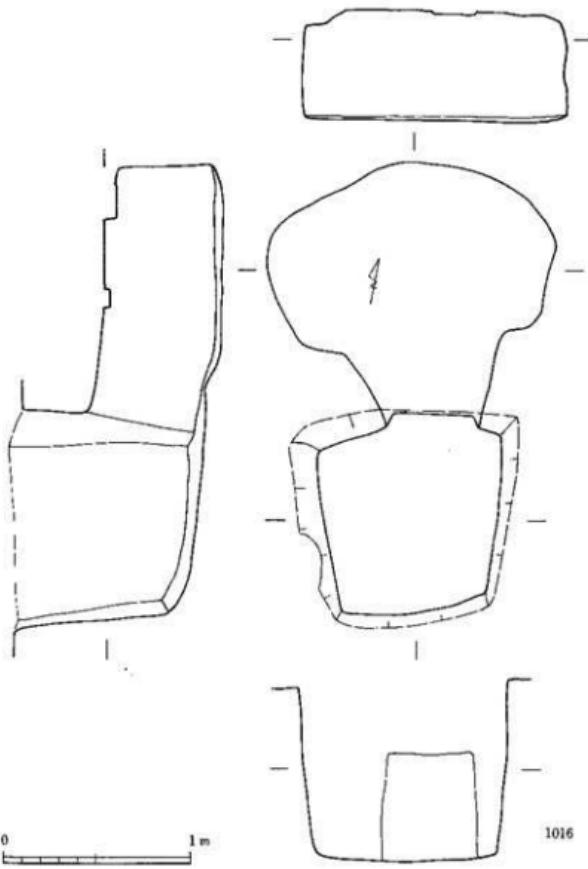
第56図 ST 1013構造実測図



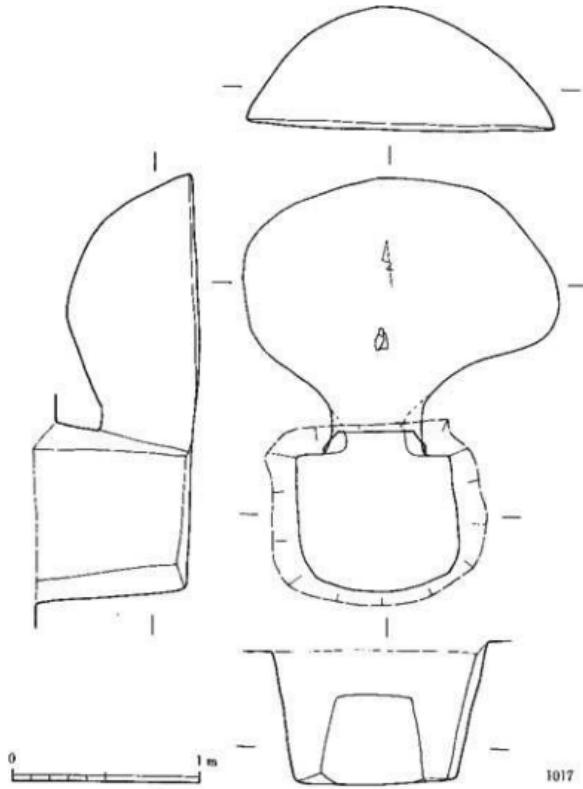
第57図 ST 1014遺構実測図



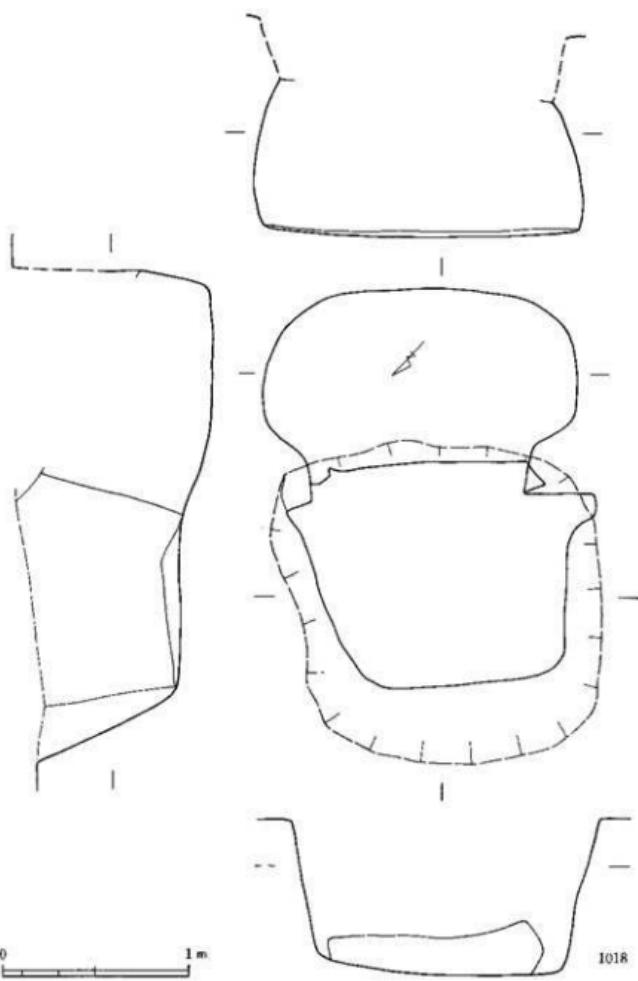
第58図 S T 1015遺構実測図



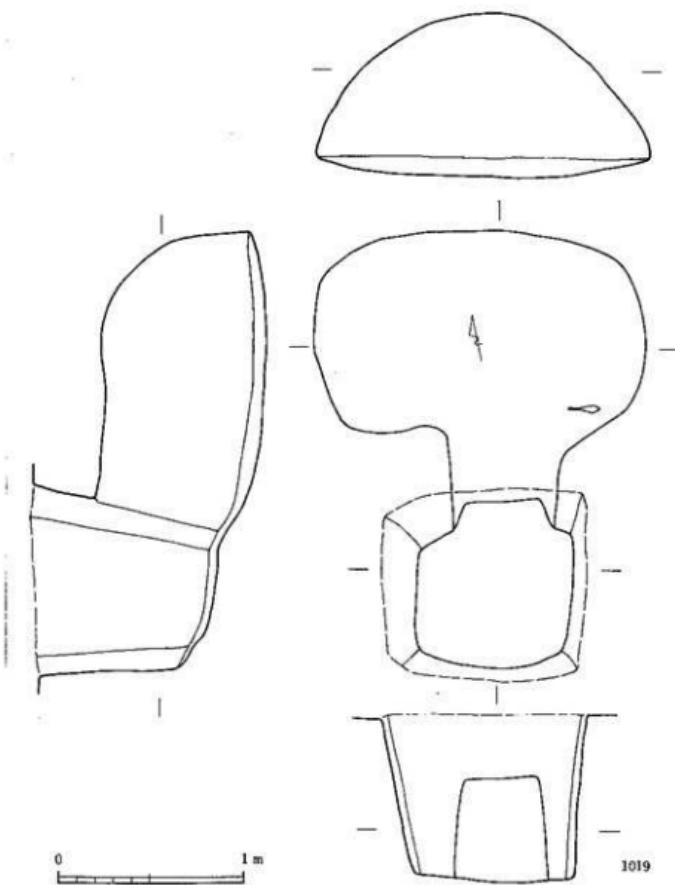
第59図 S T 1016遺構実測図



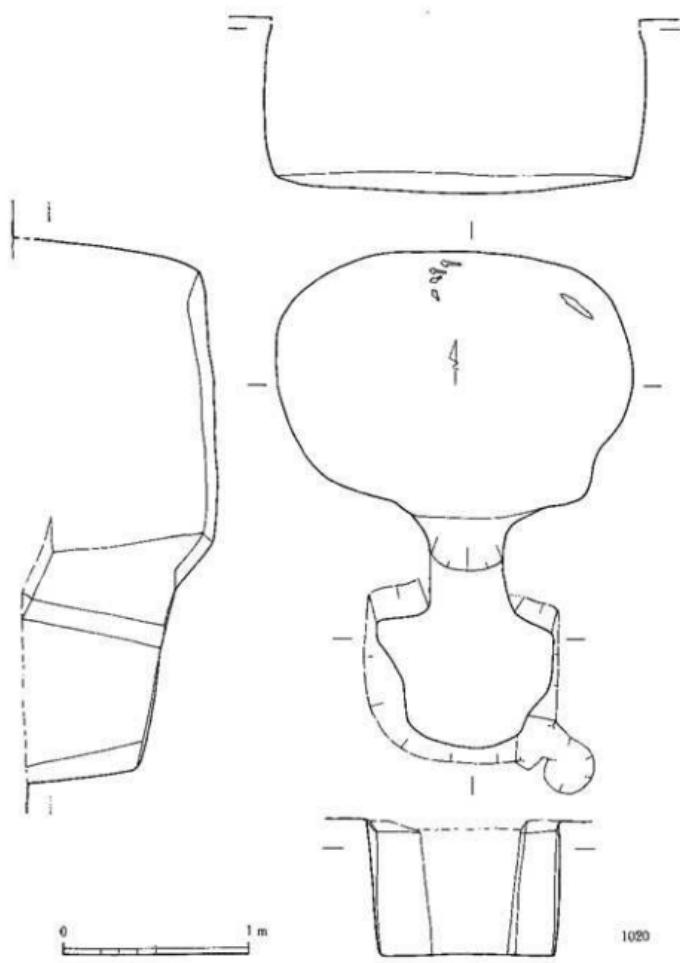
第60図 ST 1017遺構実測図



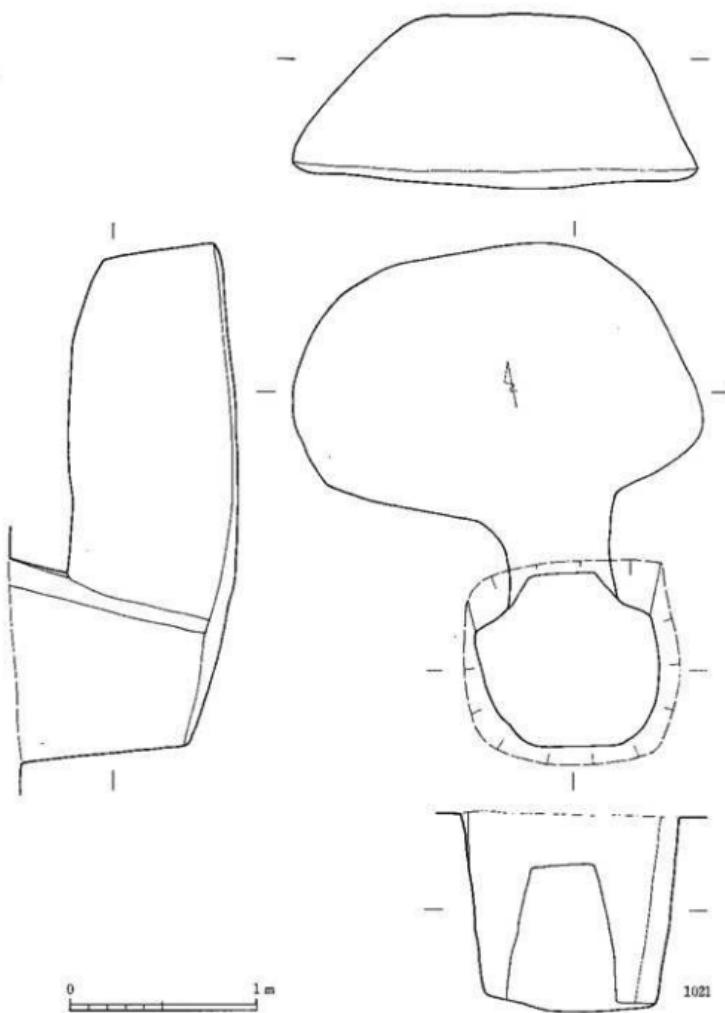
第61図 S T1018遺構実測図



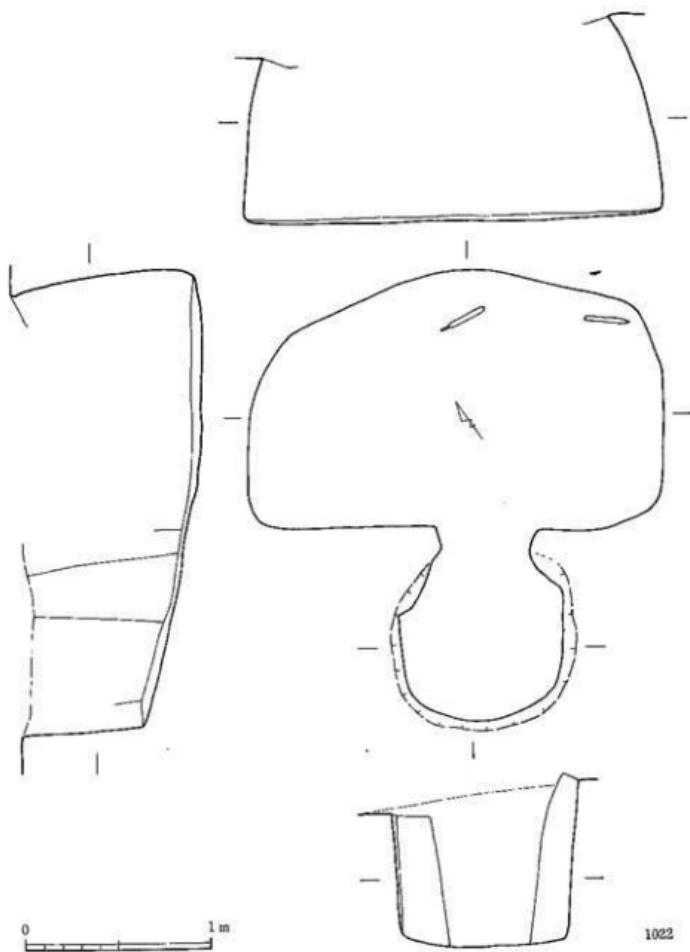
第62図 ST 1019造構実測図



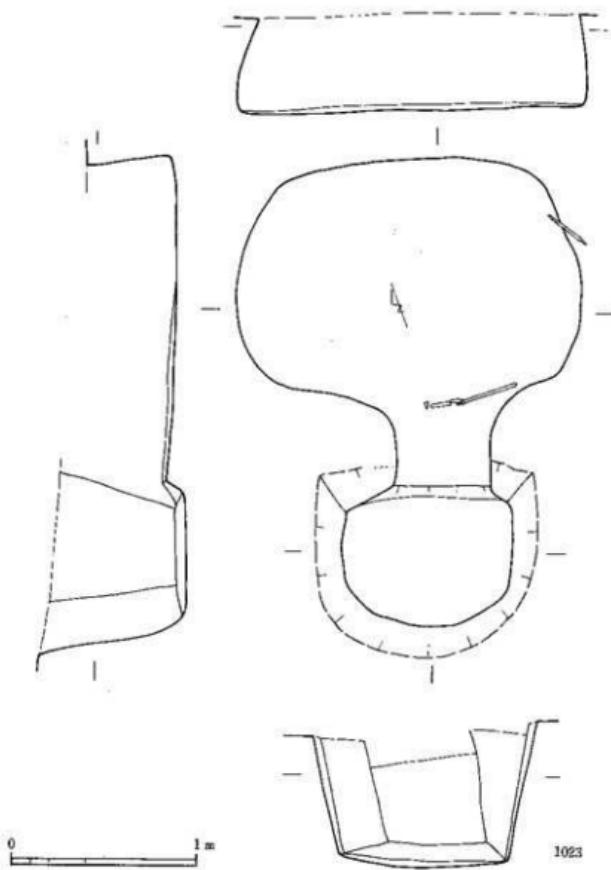
第63図 S T1020遺構実測図



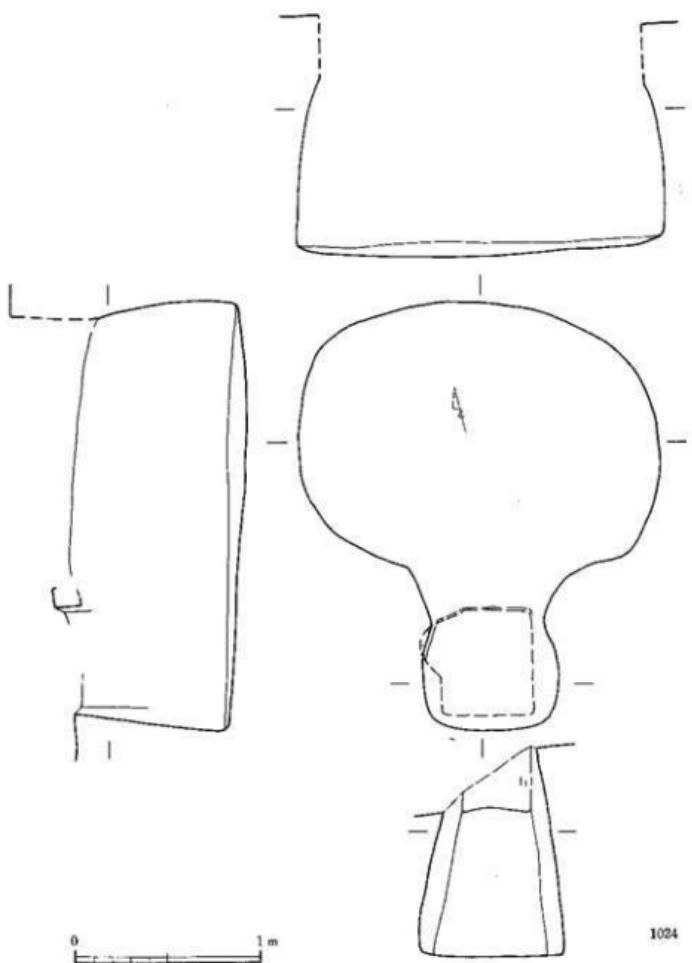
第64図 S T 1021遺構実測図



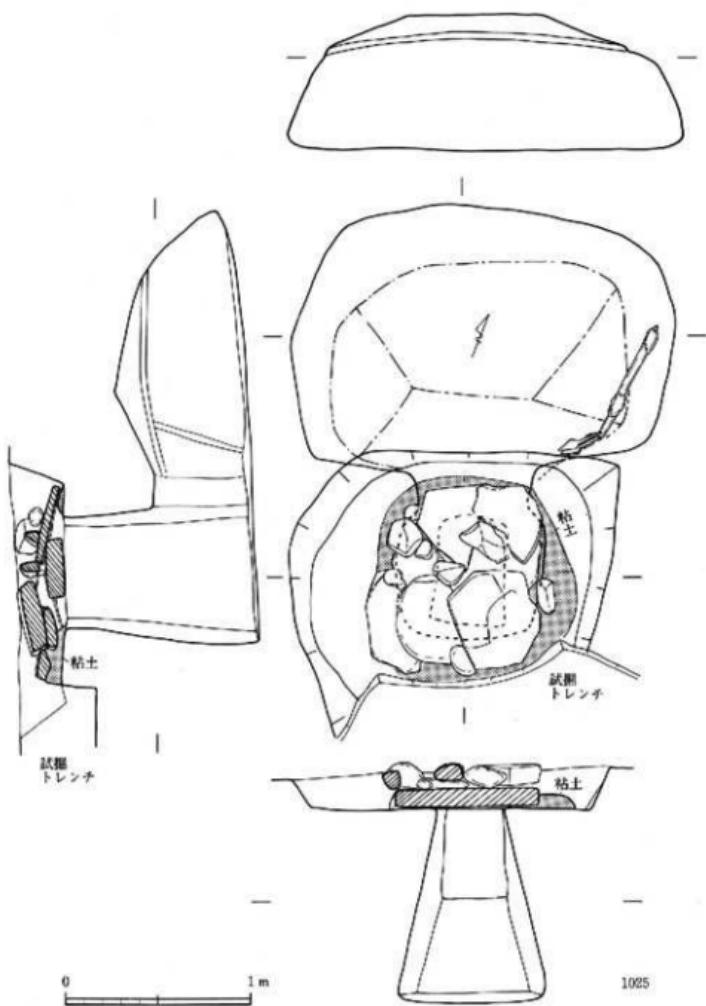
第65図 S T1022遺構実測図



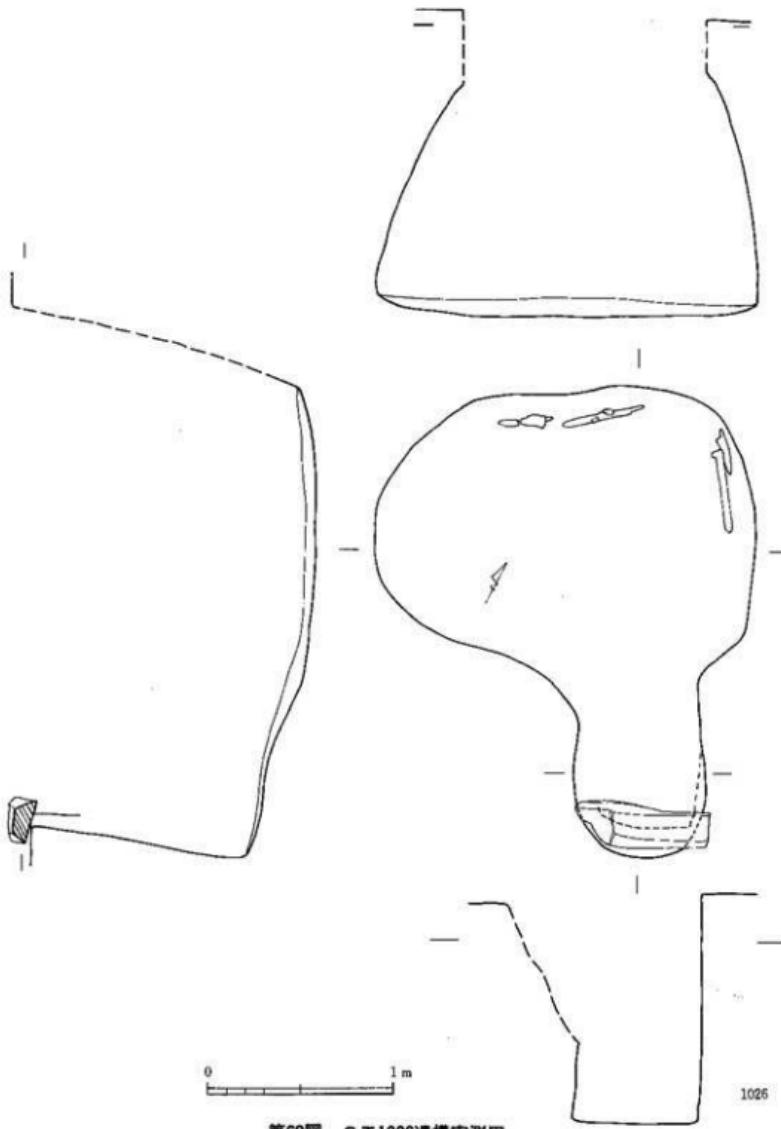
第66図 S T 1023造構実測図



第67図 ST 1024遺構実測図



第68図 ST 1025遺構実測図



第69図 ST 1026遺構実測図

持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊する。豎坑上部で閉塞石の一部が残存する。奥壁中央に劍2(第108図62・63)、右壁際に劍2(第108図64・65)が出土している。

B地区遺構群

狭門閉塞タイプ6基、豎坑上部閉塞タイプ37基が分布する。狭門閉塞タイプは遺構群東側に集中する。狭門閉塞タイプの主軸方向は一定でないが、豎坑上部閉塞タイプは主軸を南北方向に持ちいずれも豎坑から北方向に向って玄室が構成されている。

S T 2001(第71図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。奥壁際に劍1(第108図70)、鐵3(第108図68・69・71)が出土している。

S T 2002(第72図) 豊坑上部閉塞のタイプ。長方形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。角は直角造られている。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊しているが、残存部から天井部は寄せ棟の構造と思われる。右壁際に劍1(第108図75)、鐵3(第108図72~74)が出土している。

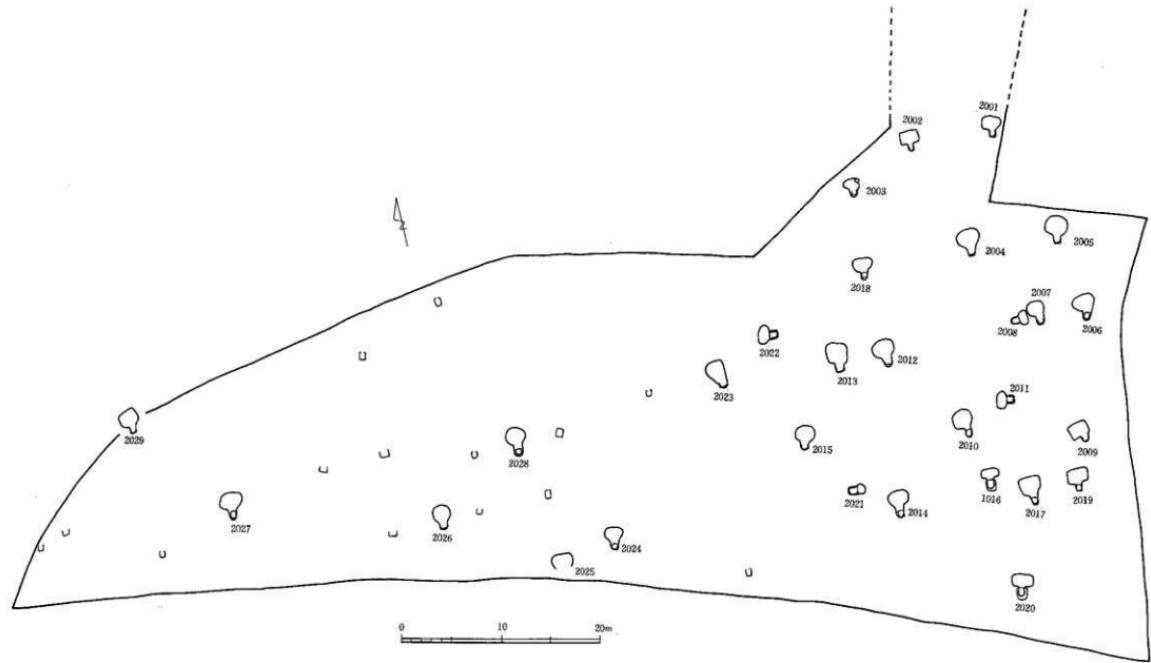
S T 2003(第73図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランの崩れ気味の両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。豎坑上部の外側に閉塞石2枚が散乱している。また、玄室の右際天井に径20cmほどの円形の穴が貫通している。上部を偏平石で覆っている。鐵2(第109図86・87)が出土している。

S T 2004(第74図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランのかなり肩の崩れた平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。奥壁際と中央部に劍2(第109図78・79)、刀1(第109図76)、右壁側の頭骨が有ったと思われる箇所に鐵6(第109図80~85)が出土している。

S T 2005(第75図) 豊坑上部閉塞のタイプ。円形に近いプランでかなり崩れた両袖の平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。

S T 2006(第76図) 豊坑上部閉塞のタイプ。片袖の平入り構造の玄室を持つ。天井はドーム形を呈する。玄室プランは無袖側が長く、有袖側が狭くなる。奥壁右側に人骨片がわずかに見られた。豎坑の北側は溝によって毀損する。

S T 2007(第77図) 豊坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランで片袖の平入り構造の玄室を持つ。天井はドーム形を呈する。奥壁際に刀1(第109図88)、右壁際に鉢1(第109図90)、鐵6(第109図89・91~93)が出土している。豎坑上部は一部溝によって毀損する。



第70図 B地区遺構群・地下式横穴墓分布図

S T 2008 (第78図) 瑞門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。

S T 2009 (第79図) 竪坑上部閉塞のタイプ。台形気味の長方形プランでかなり右側に寄った両袖の平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊しているが残存部から天井は寄せ棟造りと思われる。竪坑の堀り込みは円形を呈する。右角付近に鐵1 (第109図94) が出土している。

S T 2010 (第80図) 竪坑上部閉塞のタイプ。奥行と幅の比率の近い円形状プランでかなり右側に寄った両袖の平入り構造の玄室に細長い狭道が付く。玄室の天井部は崩壊している。玄室中央に入骨片が数点見られた。右壁際に剣1 (第109図95) 刀1 (第109図96) 鉢1 (第110図97) 刀子1 (第110図98) 鐵3 (第110図99~111) が出土している。

S T 2011 (第78図) 瑞門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。残存箇所から玄室高はかなり低い。左壁際に剣1 (第110図106) 鉢1 (第110図102) 鐵3 (第110図103~105) が出土している。

S T 2012 (第81図) 竪坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランで崩れ気味の両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。奥壁中央に剣1 (第110図10 6) 鐵3 (第110図108~110)、右袖付近で刀1 (第110図107) 鐵2 (第110図111・112) などが出土している。

S T 2013 (第82図) 竪坑上部閉塞のタイプ。奥行と幅の比率の近い隅丸方形プランでかなり肩の崩れた両袖の平入り構造の玄室。玄室から狭道の天井部は崩壊している。玄室中央のやや奥壁寄りで骨片が若干見られた。右袖付近に剣2 (第110図117・118) 鐵4 (第111図120~121・126・129)、奥壁中央に剣2 (第111図116・119) 鐵9 (第111図113~115・122・124~128) が出土している。

S T 2014 (第83図) 竪坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランで崩れ気味の両袖を持つ平入り構造の玄室。左肩がやや崩れ気味である。玄室の大井部が崩壊している。玄室中央に頭骨と思われる輪郭と骨片が見られる。奥壁中央に剣3 (第111図131・133・136) 鐵1 (第111図132)、右壁奥に鐵5 (第111図134・135・137~140)、さらに右袖付近に剣1 (第111図130) が出土している。

S T 2015 (第84図) 竪坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から狭道にかけて天井部が崩壊している。玄室中央に骨片とともに剣2 (第111図141・142) が出土している。

S T 2016 (第85図) 羨門閉塞のタイプ。長方形プランで両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から羨道にかけて天井部が崩壊している。

S T 2017 (第86図) 竪坑上部閉塞のタイプ。奥行と幅の比率の近い隅丸方形プランで右側の肩部にわずかに袖部を持つ平入り構造の玄室。玄室の天井部は崩壊している。竪坑下部に閉塞石の一部が落ち込んでいる。右壁奥に劍1 (第112図143)、左壁際に鐵2 (第112図144・145) が出土している。

S T 2018 (第87図) 竪坑上部閉塞のタイプ。台形気味の隅丸長方形プランでかなり右側に寄った両袖の平入り構造の玄室。玄室の天井部が崩壊している。右壁奥に鐵4 (第112図147~150)、右袖付近に欠損した劍1 (第112図146) が出土している。

S T 2019 (第88図) 竪坑上部閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室の天井部が崩壊している。羨道付近に鐵6 (第112図151~156) が出土している。

S T 2020 (第89図) 羨門閉塞のタイプ。隅丸長方形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室の天井部が崩壊しているが閉塞石は残存する。40cm~50cmの偏平な川原石を使って閉塞している。右壁に立てかけた状態で劍1 (第112図157) が出土している。

S T 2021 (第90図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室の天井部が崩壊している。竪坑は玄室床面より一段掘り下げである。

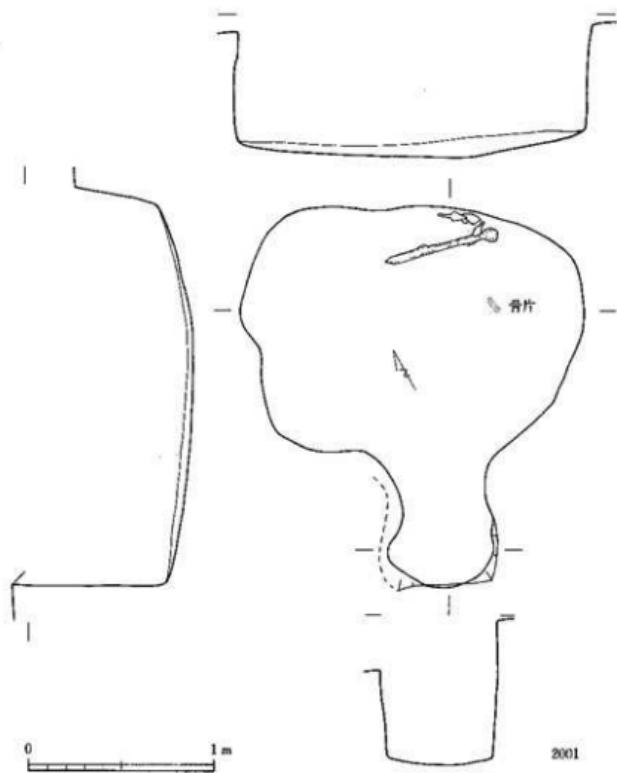
S T 2022 (第90図) 羨門閉塞のタイプ。楕円形プランの小型の玄室は竪坑の規模とさほど変わらない。玄室の天井部が崩壊している。

S T 2023 (第91図) 竪坑上部閉塞のタイプ。玄室は幅より奥行が長く奥壁に向って広がる楕円形状のプランを呈する。肩部のかなり崩れた片袖を持つ。

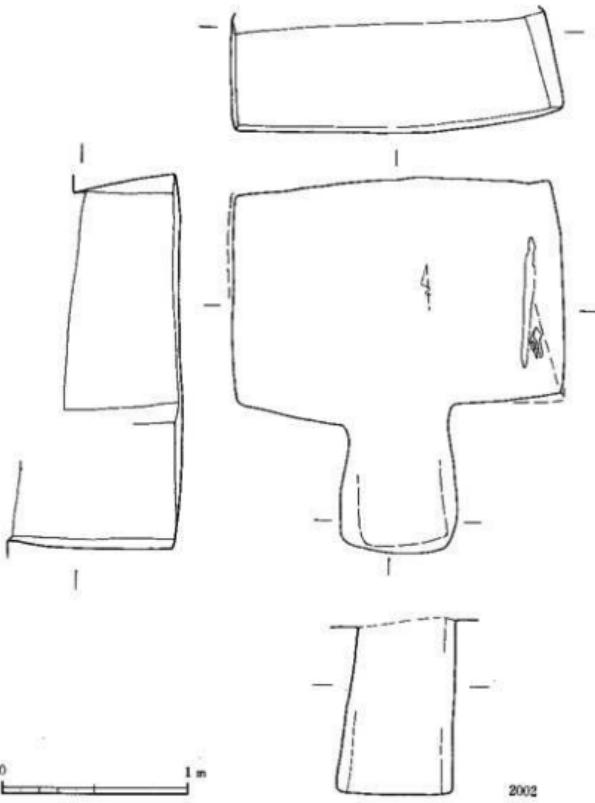
S T 2024 (第92図) 竪坑上部閉塞のタイプ。楕円形プランのやや右寄りの両袖を持つ平入り構造の玄室。右肩はかなり崩れている。玄室から羨道にかけて天井部が崩壊している。竪坑下部に閉塞石の一部が落込んでいる。

S T 2025 (第93図) 竪坑から羨道にかけては道路にかかるおり玄室のみの調査となつた。奥壁右側に頭骨と思われる骨片、左側に人腿骨と思われる骨片が見られた。また、奥壁中央に劍3 (第113図166・167・170) 鐵10 (第113図168・169・171~178) が出土している。竪坑上部閉塞と思われる。

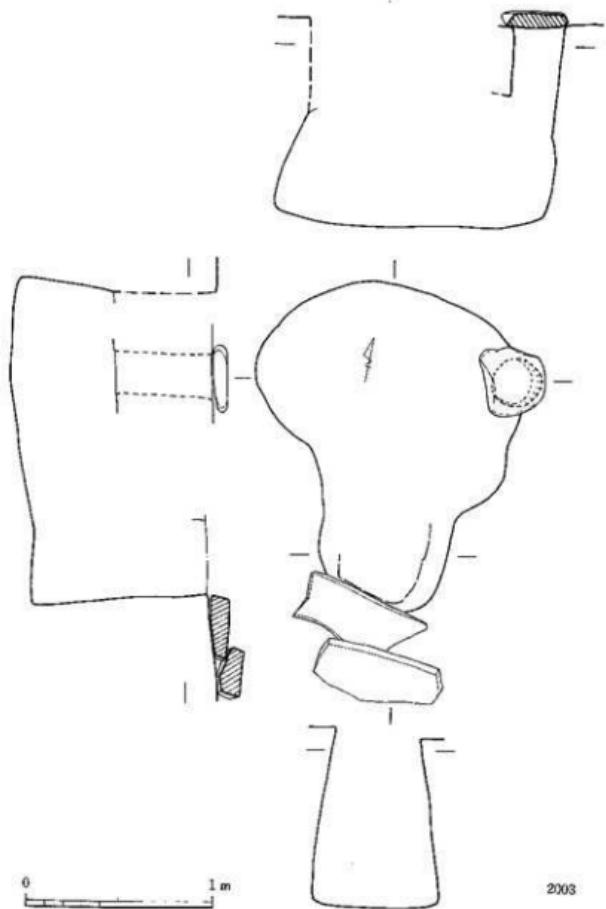
S T 2026 (第94図) 竪坑上部閉塞のタイプ。奥行と幅の比率がほぼ同じの円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。両袖ともかなり崩れている。玄室から羨道にかけて天井部が



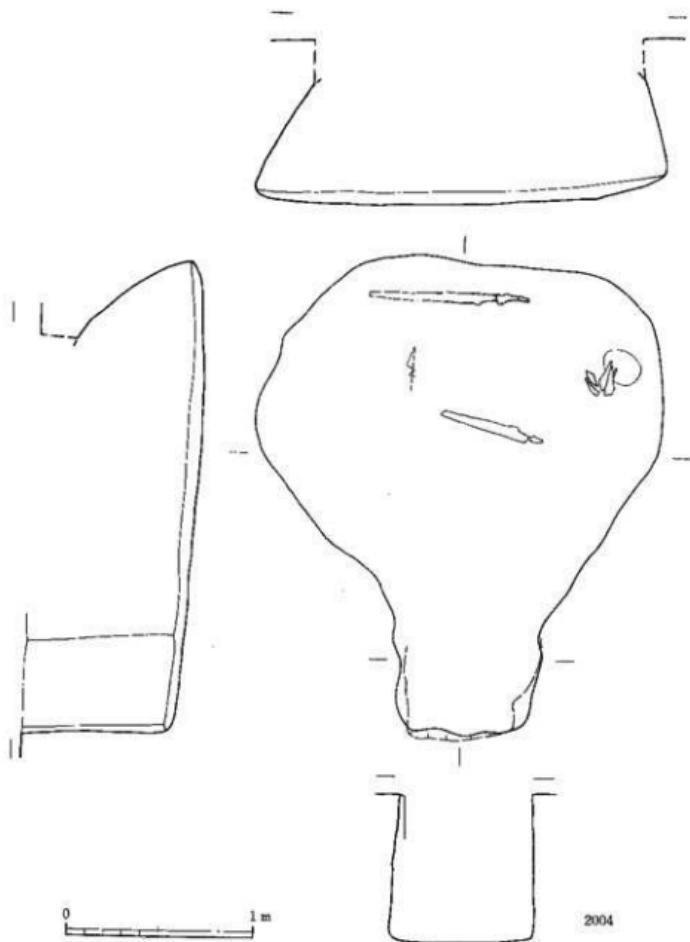
第71図 ST 2001遺構実測図



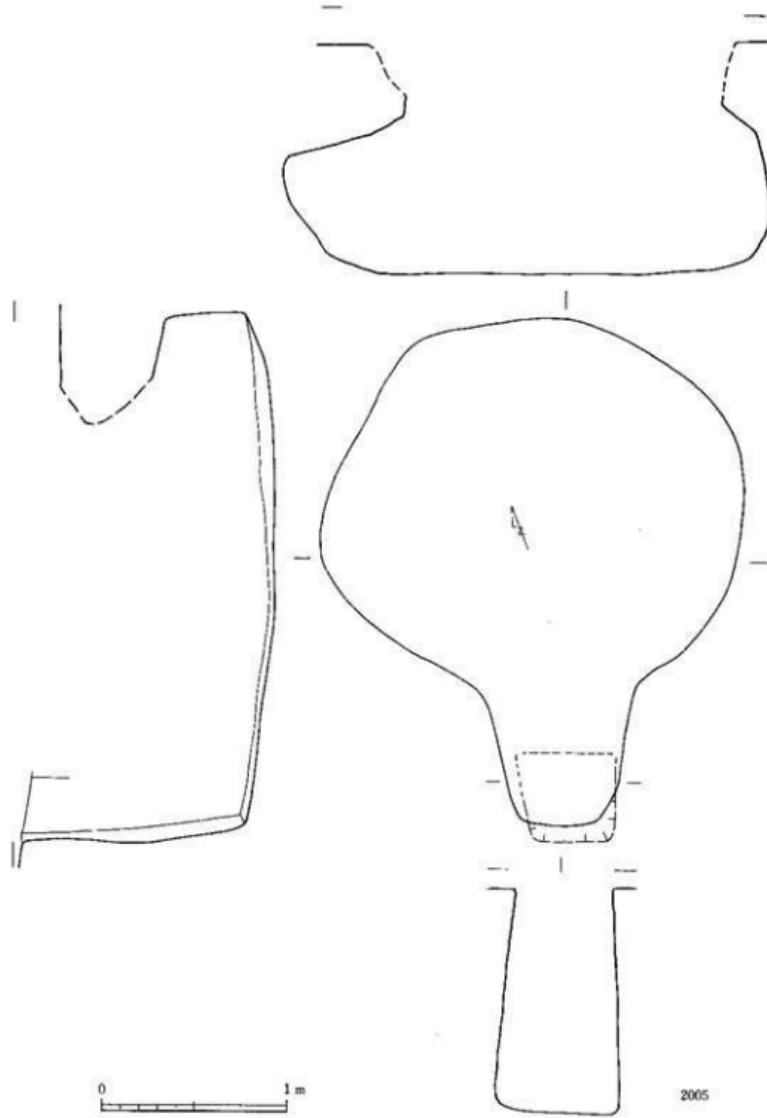
第72図 S T 2002造構実測図



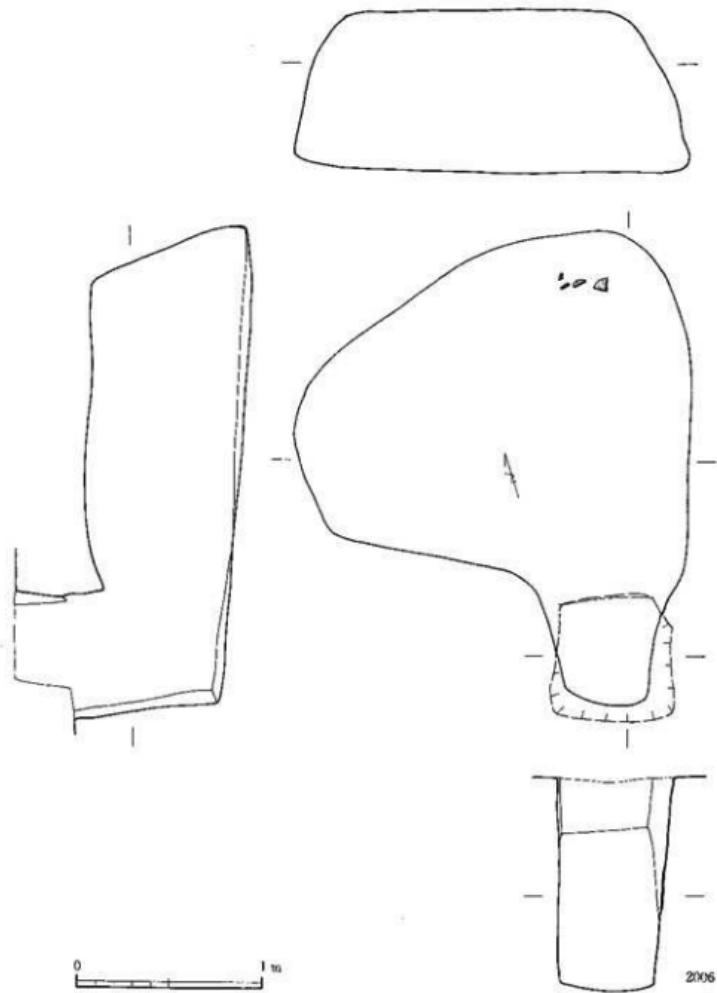
第73図 S T 2003造構実測図



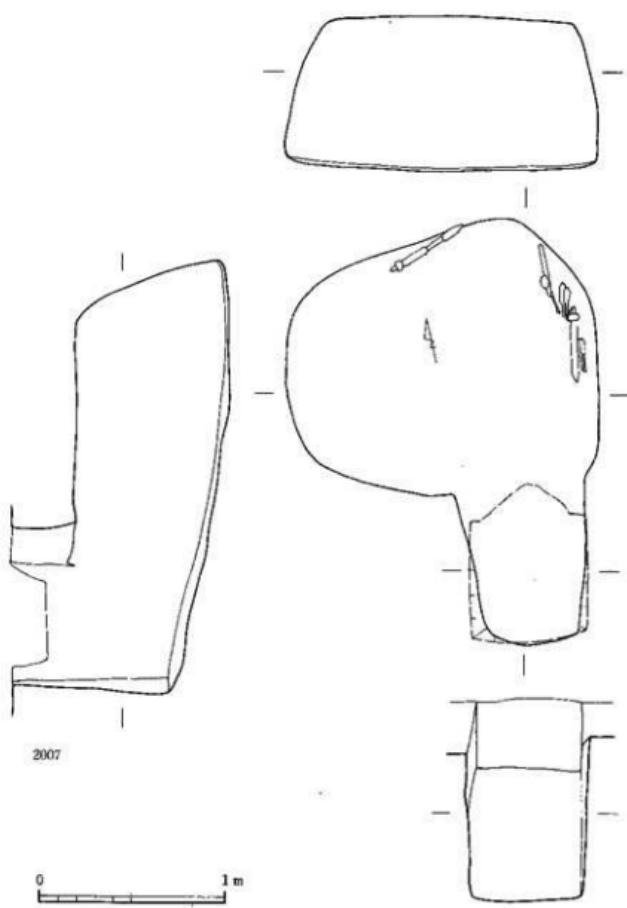
第74図 ST 2004遺構実測図



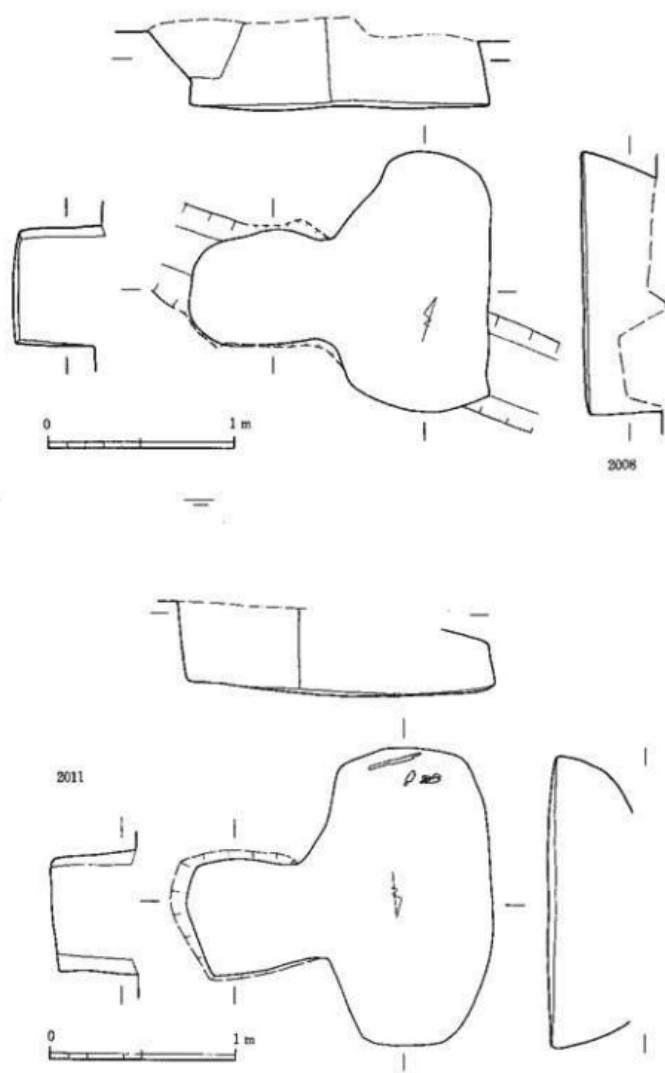
第75図 S T 2005造構実側図



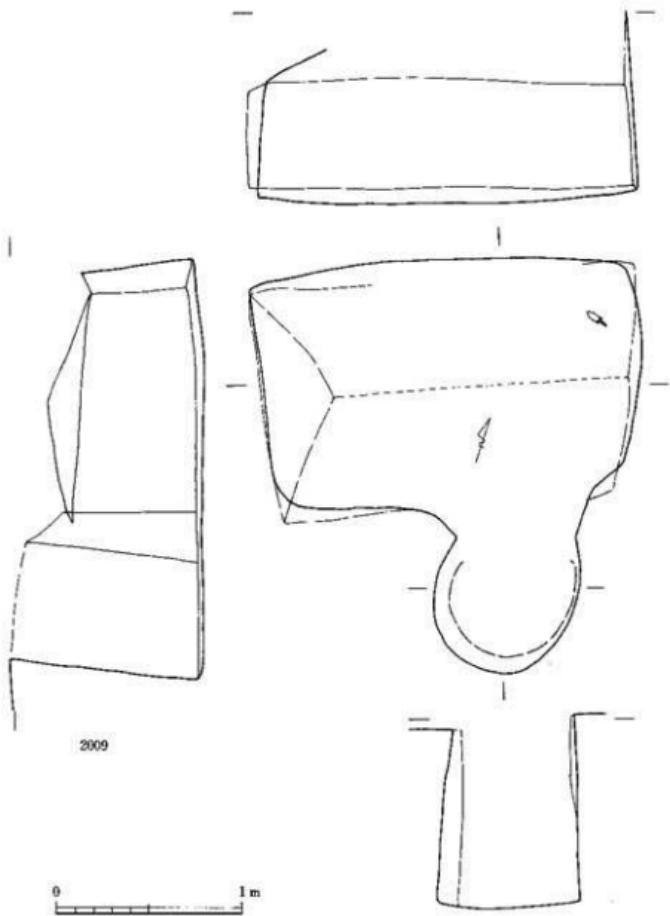
第76図 S T 2006遺構実測図



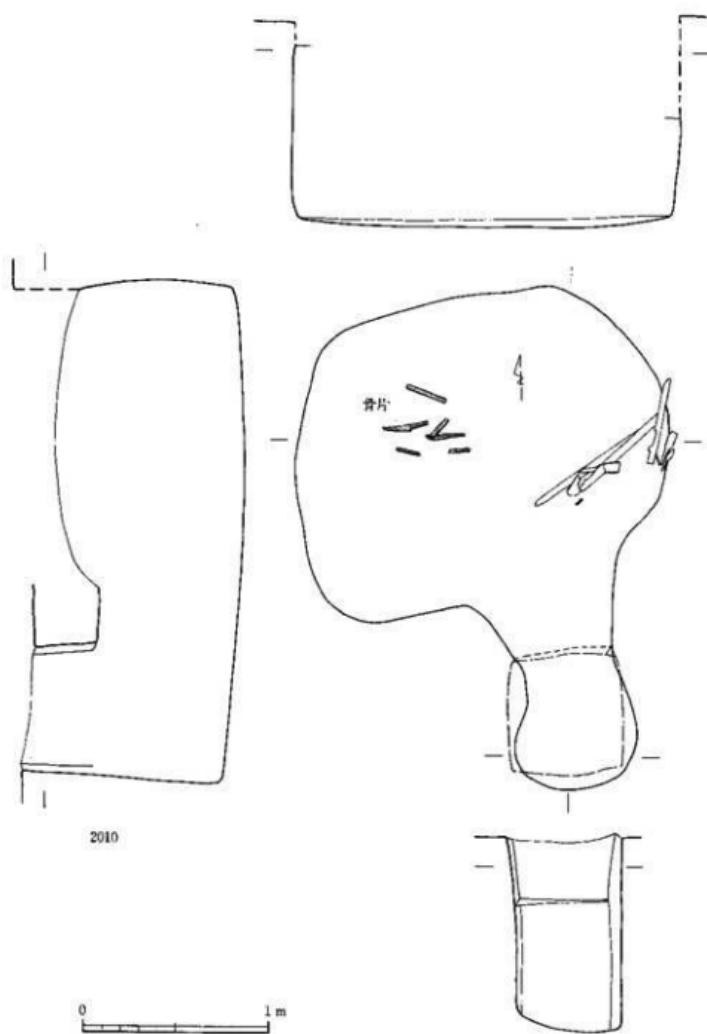
第77図 ST 2007遺構実測図



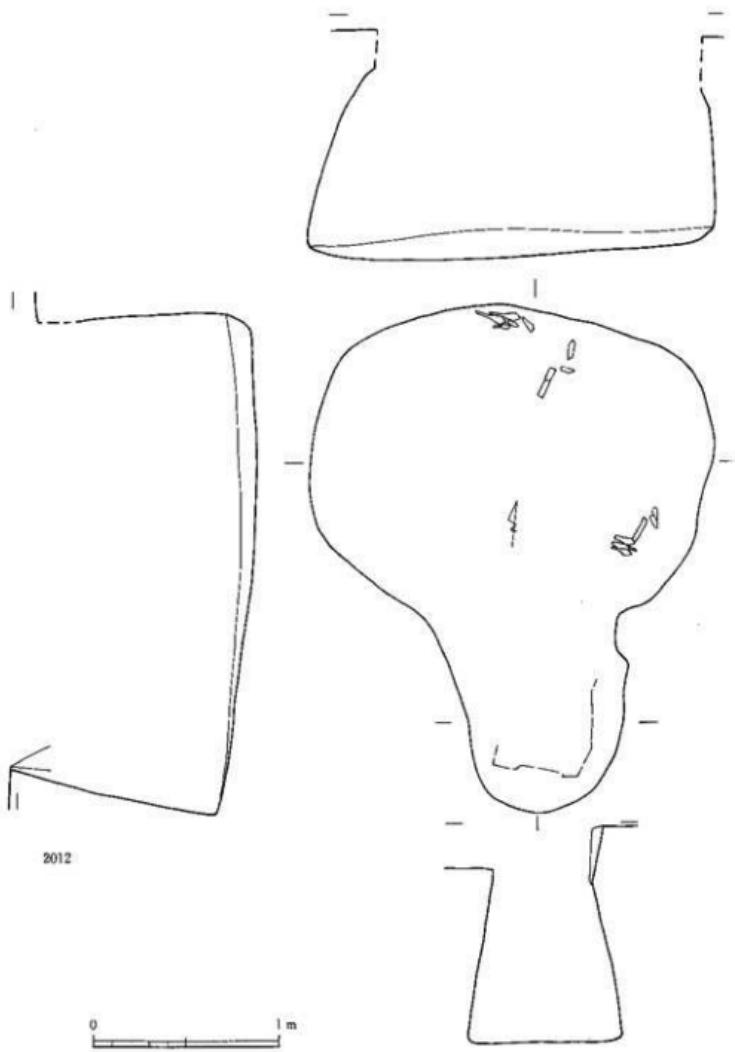
第78図 ST 2008, 2011遺構実測図



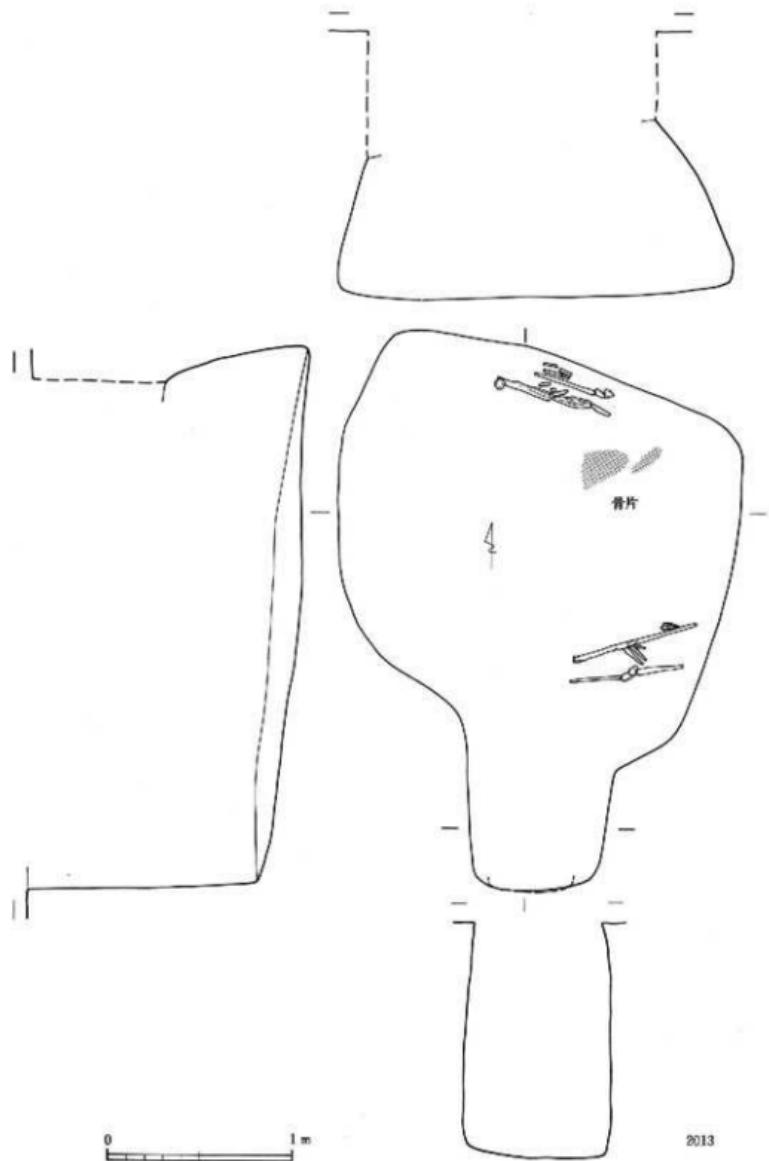
第79図 S T 2009遺構実測図



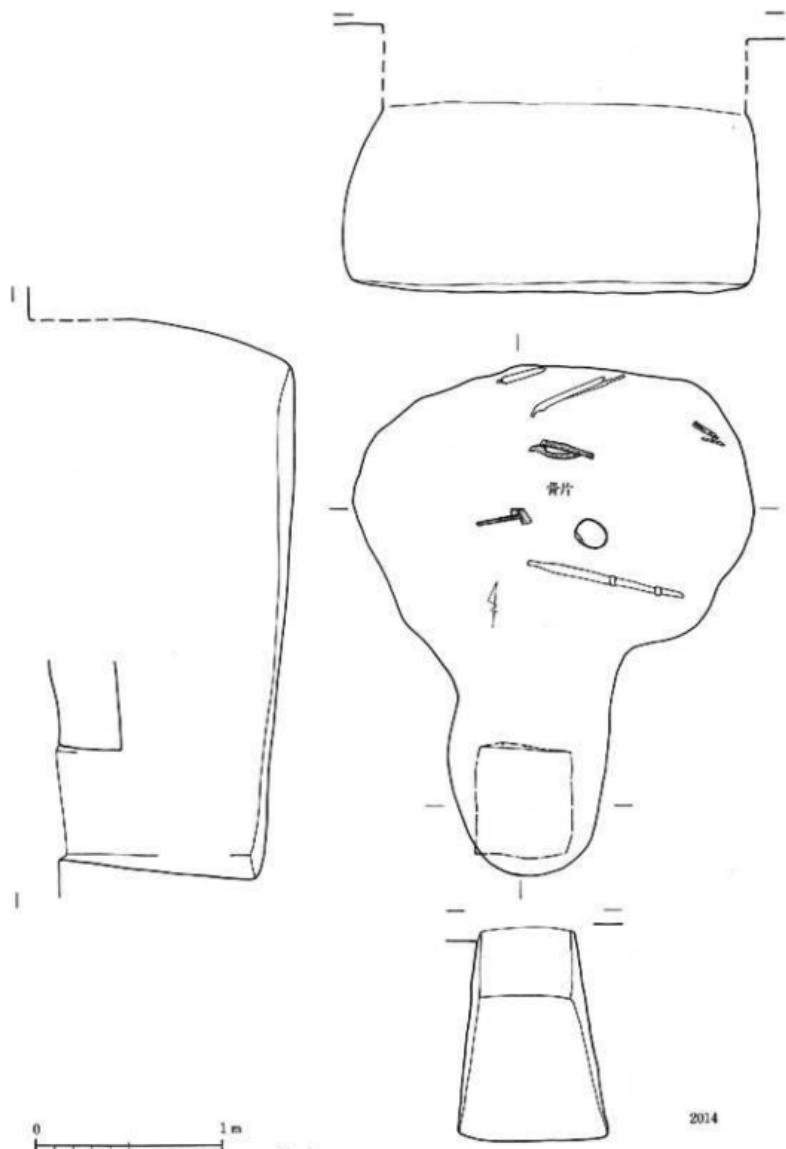
第80図 S T 2010遺構実測図



第81図 ST 2012遺構実測図

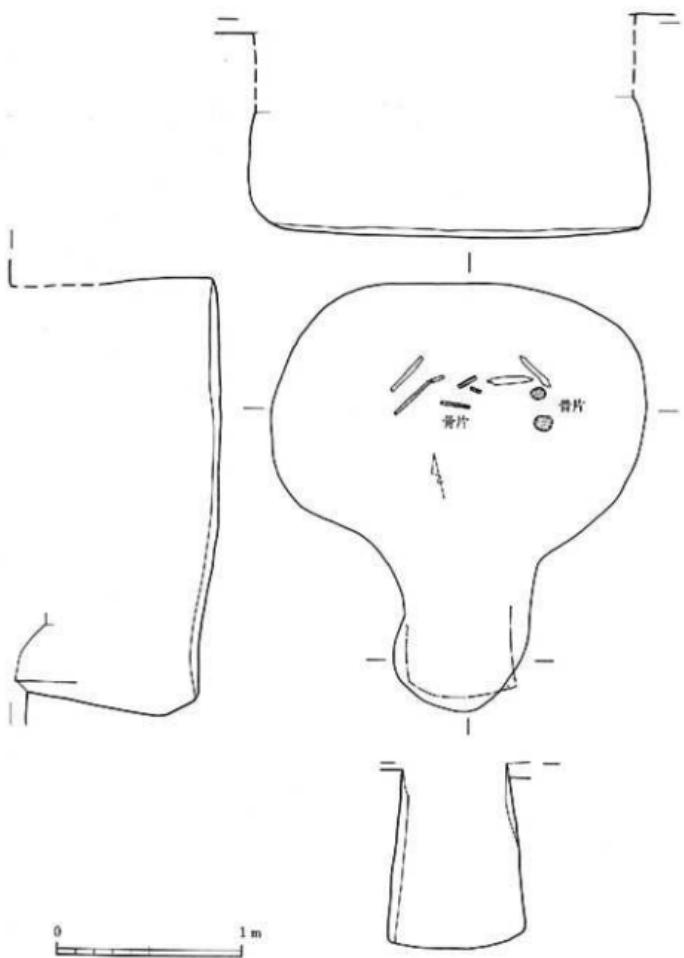


第82図 S T 2013遺構実測図

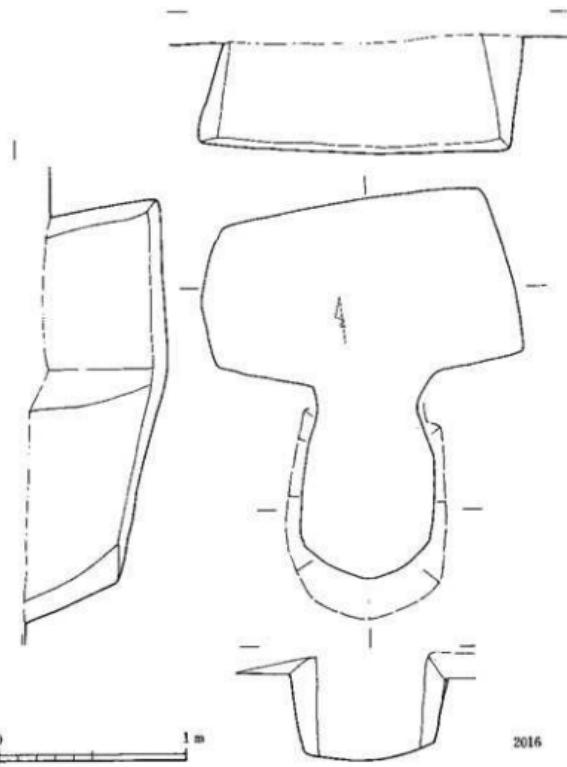


第83図 S T 2014遺構実測図

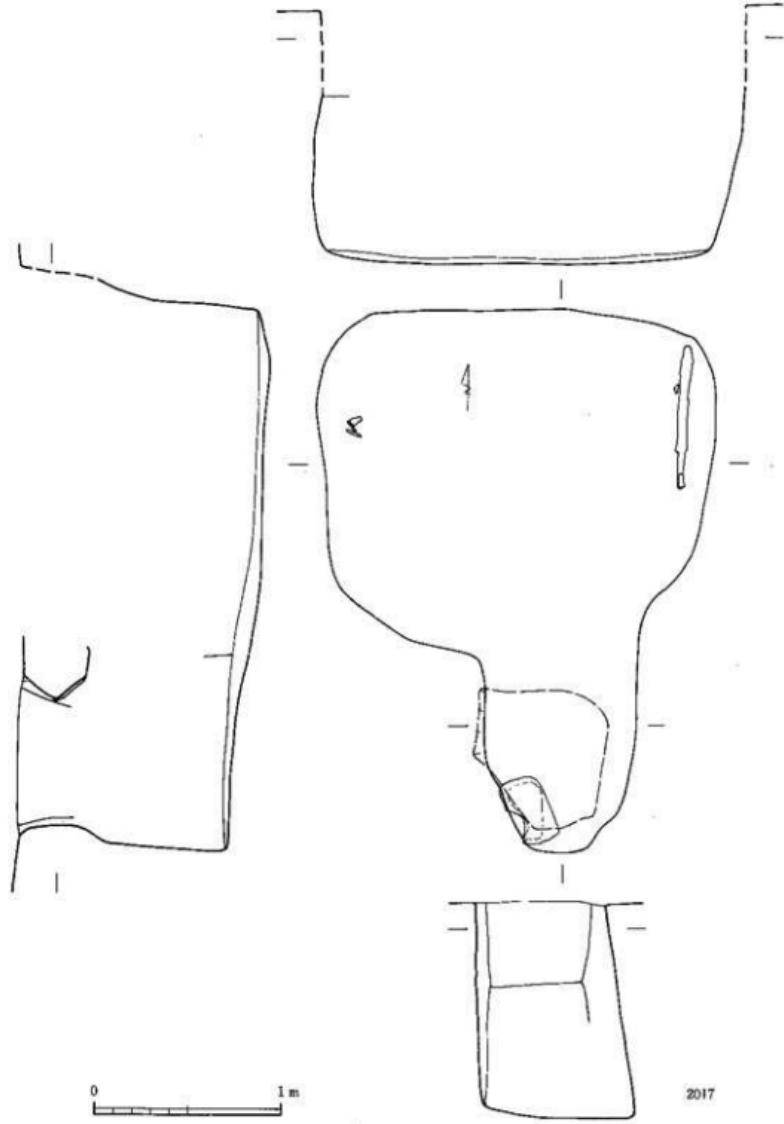
2014



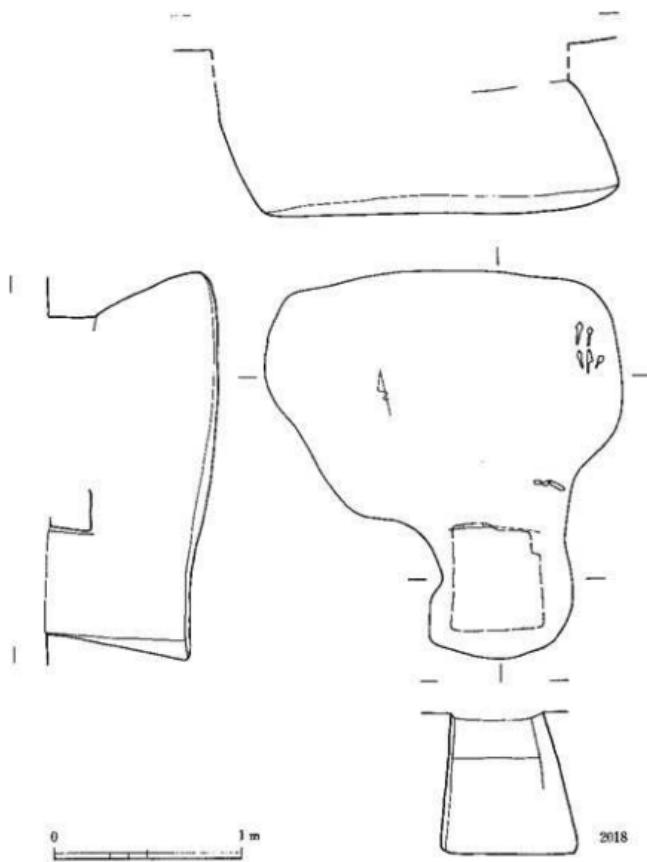
第84図 ST 2015造構実測図



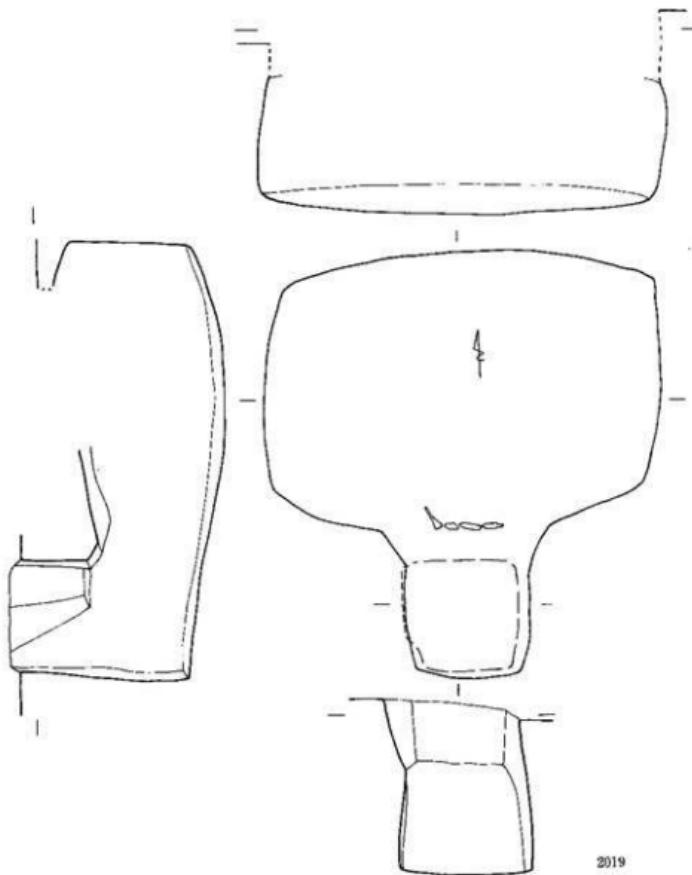
第85図 ST 2016遺構実測図



第86図 S T 2017造構実測図



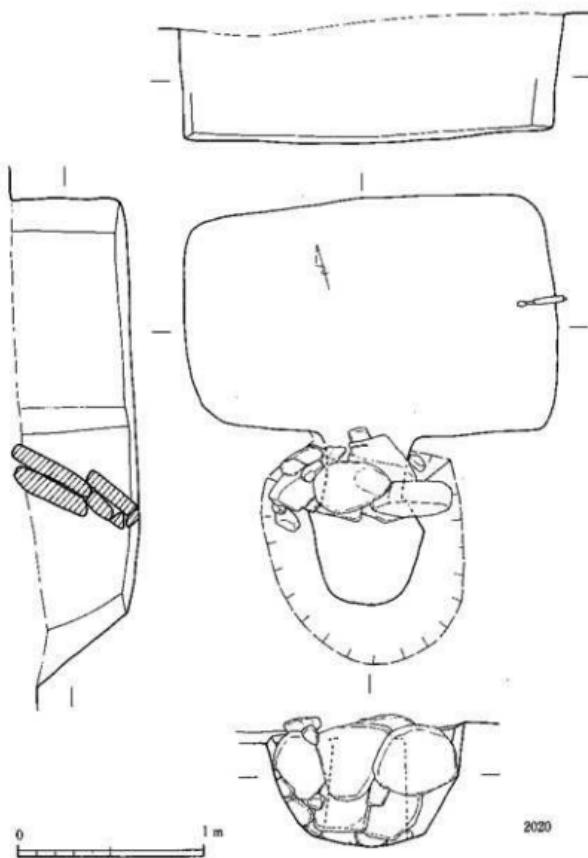
第87図 S T 2018造構実測図



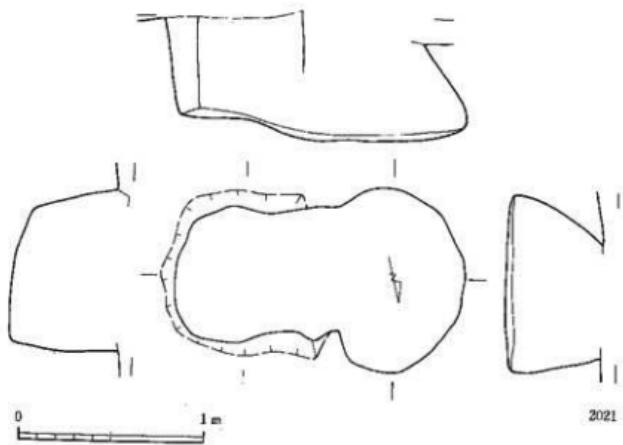
2019

0 1 m

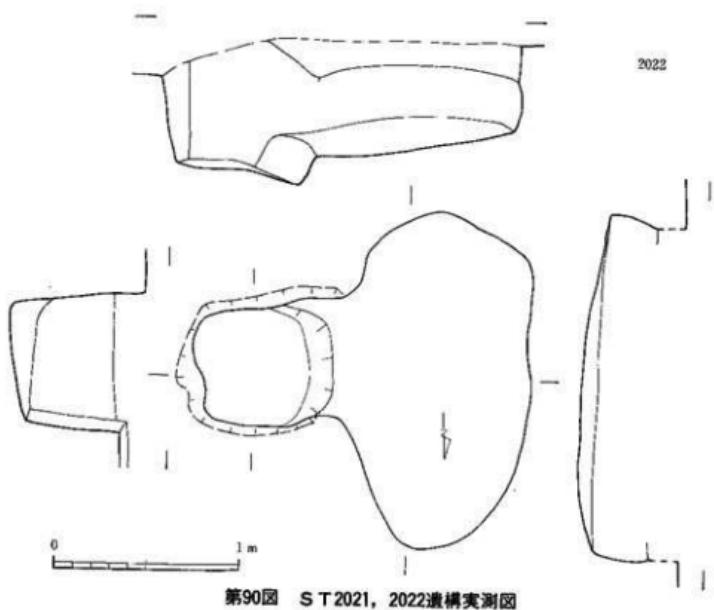
第88図 S T 2019遺構実測図



第89図 S T 2020造構実測図

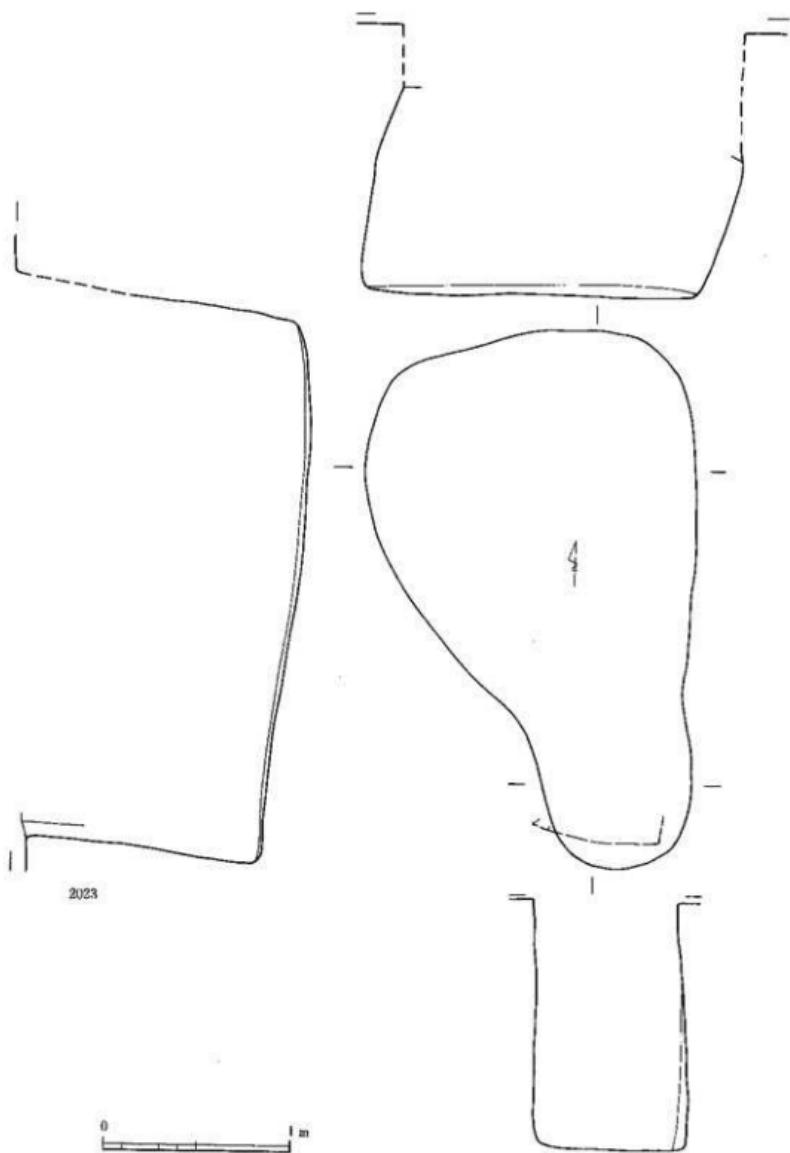


2021

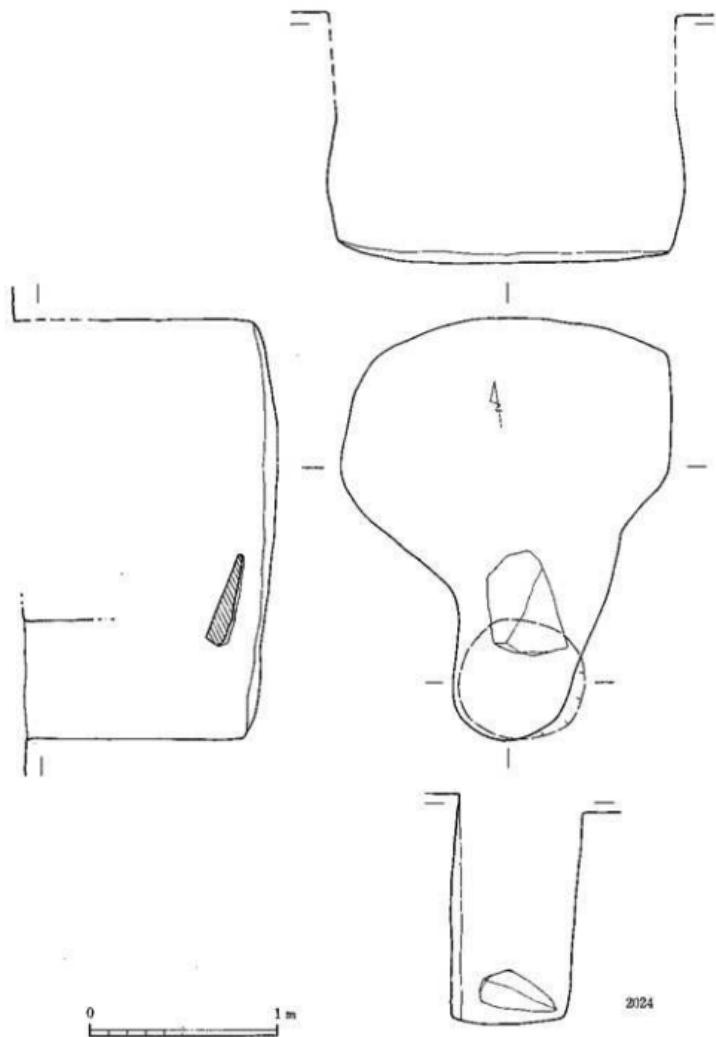


2022

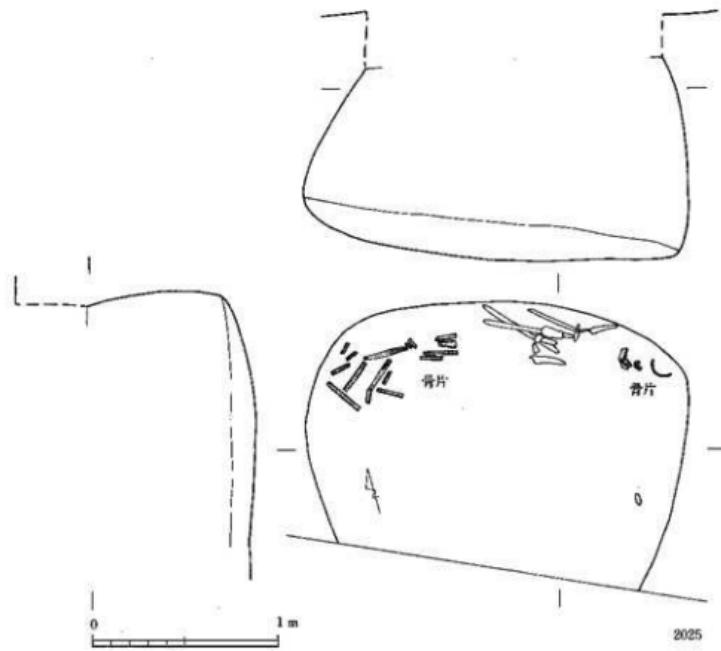
第90図 S T 2021, 2022遺構実測図



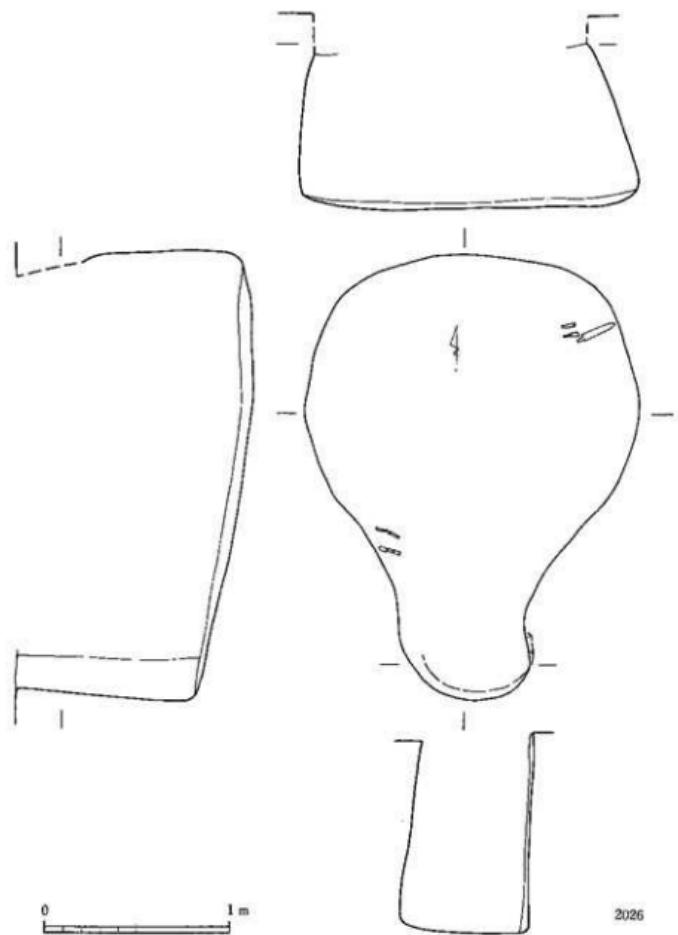
第91図 ST 2023遺構実測図



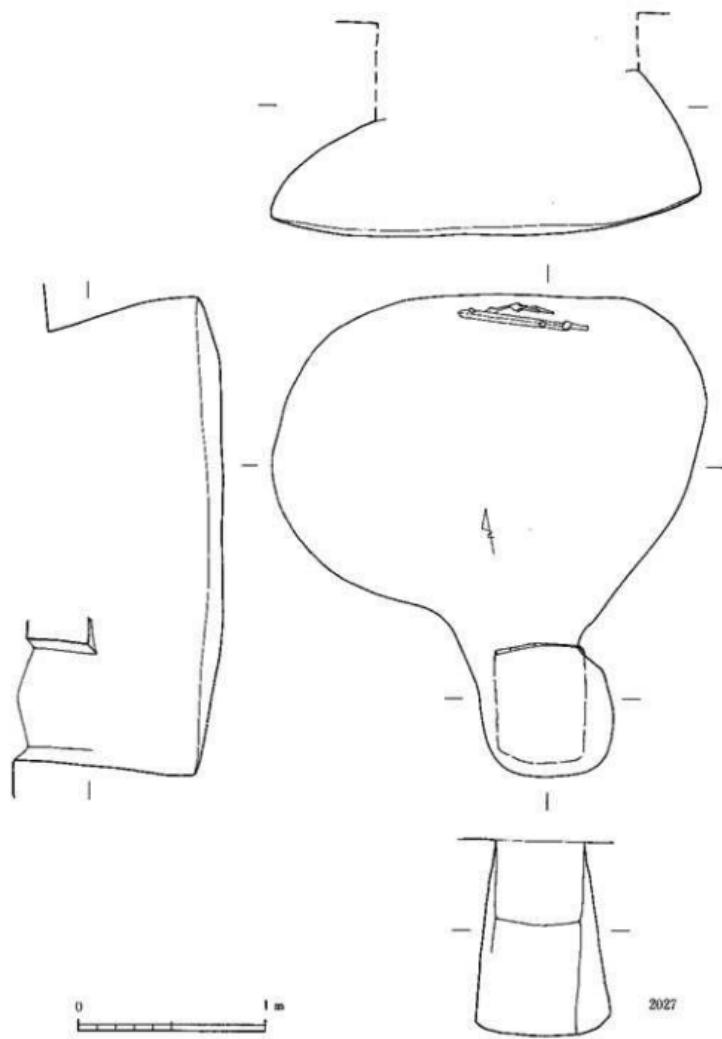
第92図 S T 2024遺構実測図



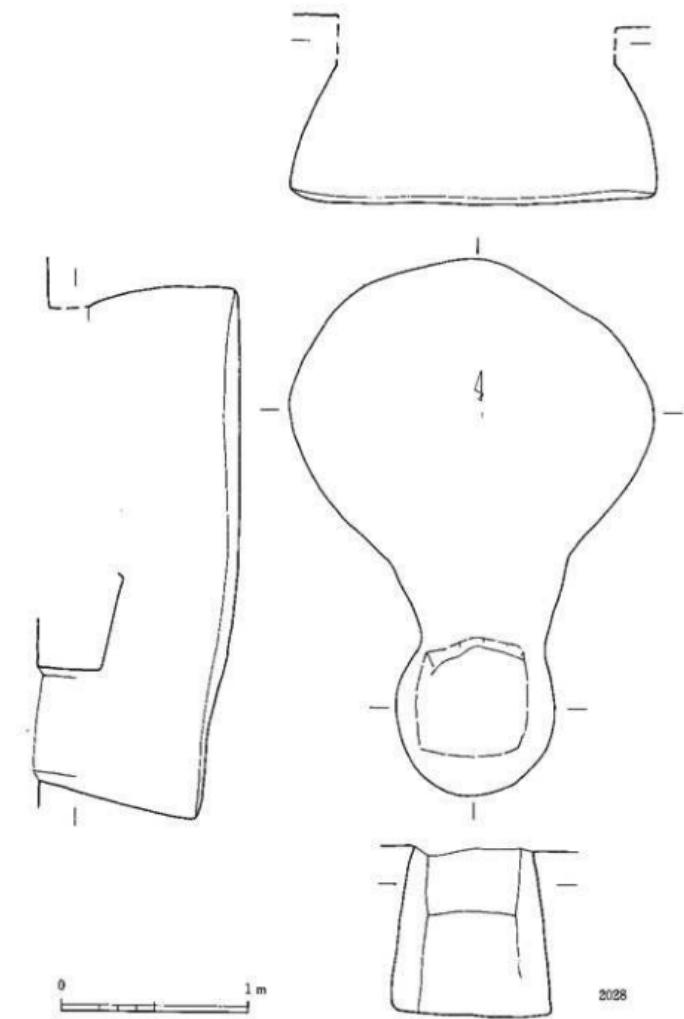
第93図 S T 2025遺構実測図



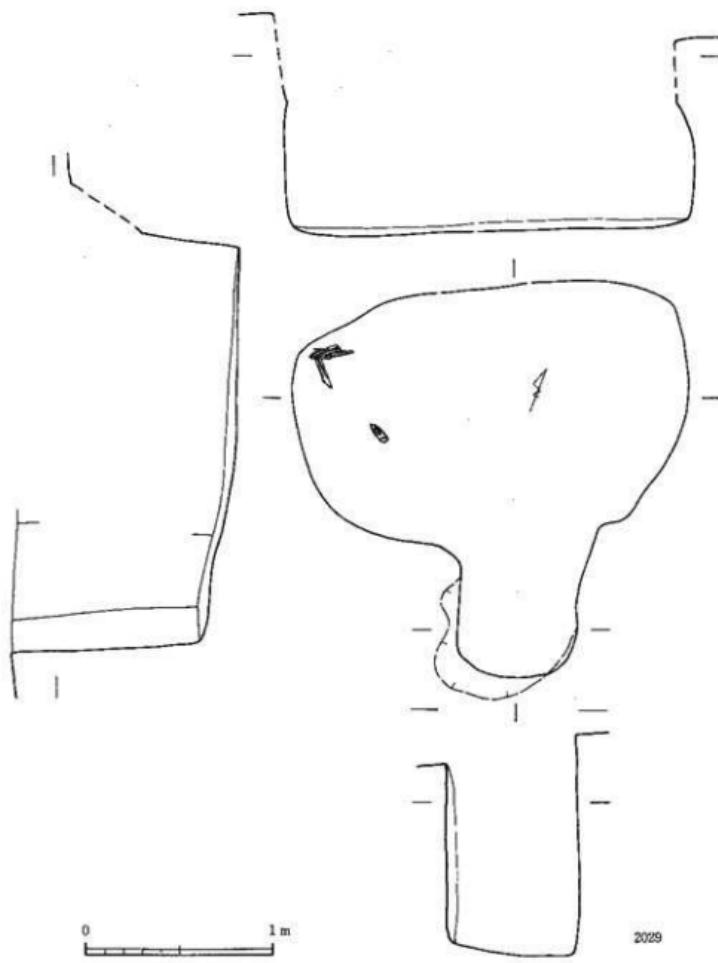
第94図 ST 2026遺構実測図



第95図 ST 2027造構実測図



第96図 ST 2028遺構実測図



第97図 ST 2029遺構実測図

崩壊している。玄室右壁奥に劍1（第113図158）鎌1（第113図159）、左袖際に鎌4（第113図160～163）が出土している。竪坑堀り込みは円形プランを呈する。

S T 2027（第95図） 竪坑上部閉塞のタイプ。梢円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。右肩はかなり崩れている。玄室の天井部が崩壊している。奥壁中央に劍3（第113図179・186・187）鎌4（第113図180～183）が出土している。

S T 2028（第96図） 竪坑上部閉塞のタイプ。奥行と幅の比率がほぼ同じの円形プランの両袖を持つ平入り構造の玄室。両袖ともかなり崩れている。玄室の天井部が崩壊している。鎌1（第113図184）と鎌身を欠く鎌部1（第113図185）が出土している。

S T 2029（第97図） 竪坑上部閉塞のタイプ。隅丸長方形プランでやや右寄りの両袖を持つ平入り構造の玄室。玄室から渠道にかけて天井部が崩壊している。奥壁左角に鎌（第112図164・165）がかたまって出土している。

S T 2030～S T 2043 竪坑上部閉塞の弊坑と思われる落込みで、いづれも北方向に玄室を持つ。

2. 遺 物

(1) 土師器（第98図～第105図）

土器の出土はA地区北西遺構群のS I 103・S I 105周辺に土器密集地が見られるほかS T 1001、S T 1003、S T 1008、S T 1005の地下式横穴墓からも出土している。

17はS T 1015の竪坑横、8・56・57は同じくS T 1015竪坑上部、37はS T 1008の玄室（土壤部）上部、39はS T 1003の玄室（土壤部）上部、52はS T 1001の渠道から玄室内にかけてそれぞれ検出された。36はA地区北西遺構群の東側に当たる6dグリッドで検出されている。上記以外の土器は板石積石室周辺の土器密集地からの出土である。

出土した土師器は壺、高杯が主である。それぞれ分類を記する。

a. 壺

壺は単口の壺、二重口縁壺、長頸壺、刻み目突帯をもつ壺からなる。

壺A類 頸部が紋まり、口縁部がラッパ状に外反する壺（1～3、5～11）

A-1類 最大径を胴部中位に持った胴部が梢円形の單口の壺。頸部に刻み目突帯を施す。

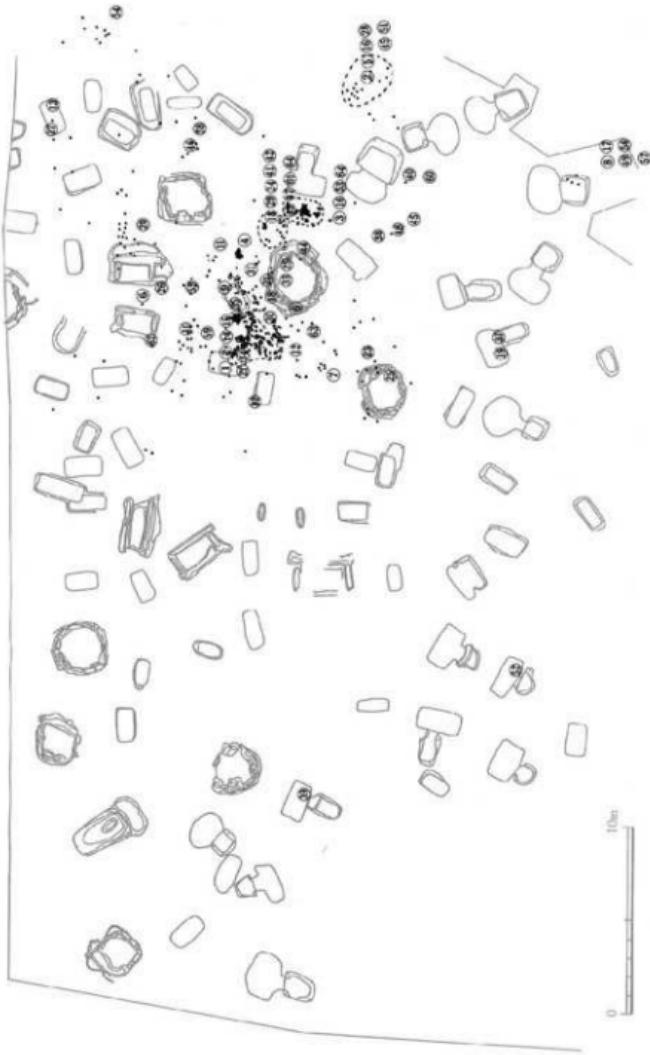
底部は尖り氣味の丸底を呈する。（1）

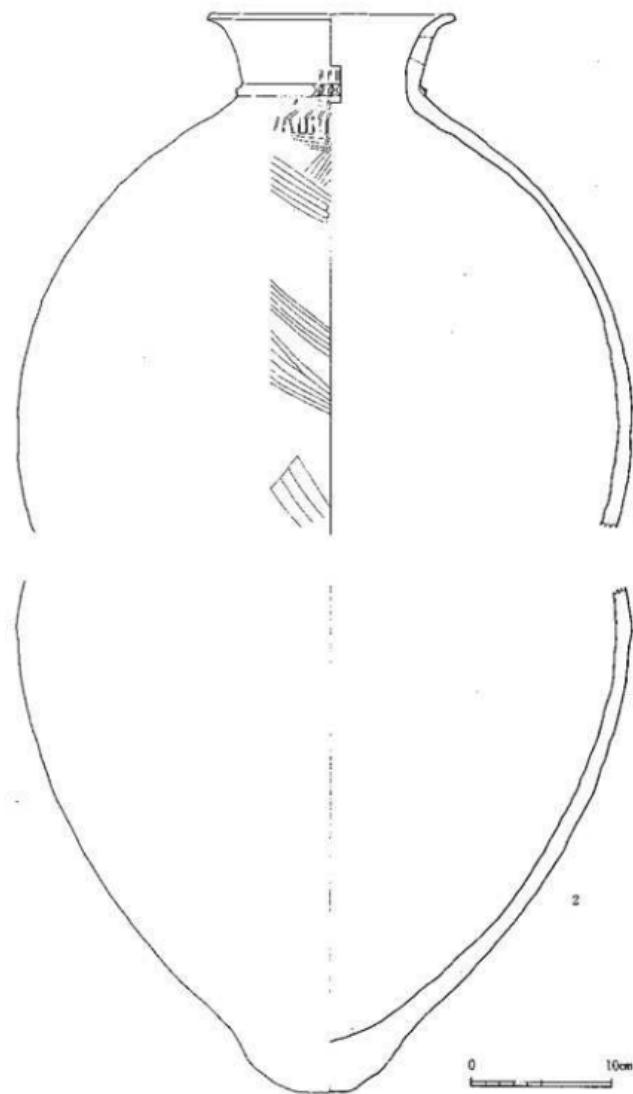
A-2類 最大径を胴部上位に持つ肩の張った單口の壺。（3、5～11）

壺B類 直立氣味に開く口縁部に球形の胴部を持った單口の壺。（4）

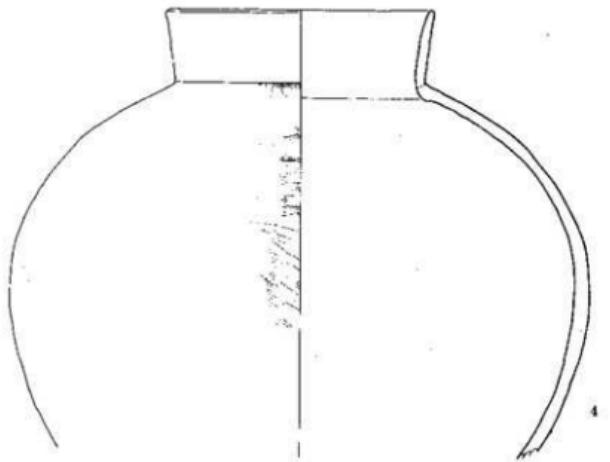
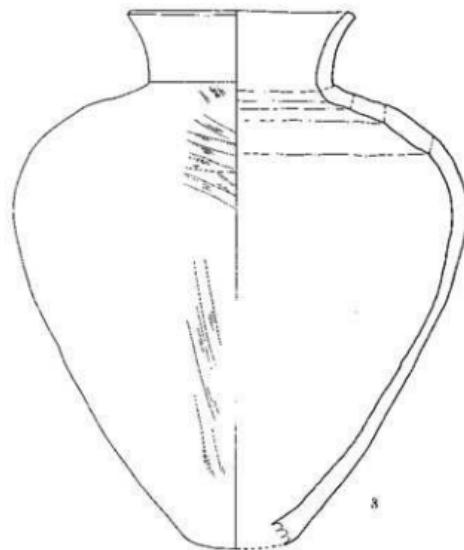
壺C類 二重口縁の壺。（12～14）

第98圖 A 地區北西邊緣群土器出土分布圖 (部分遺物分層面系)



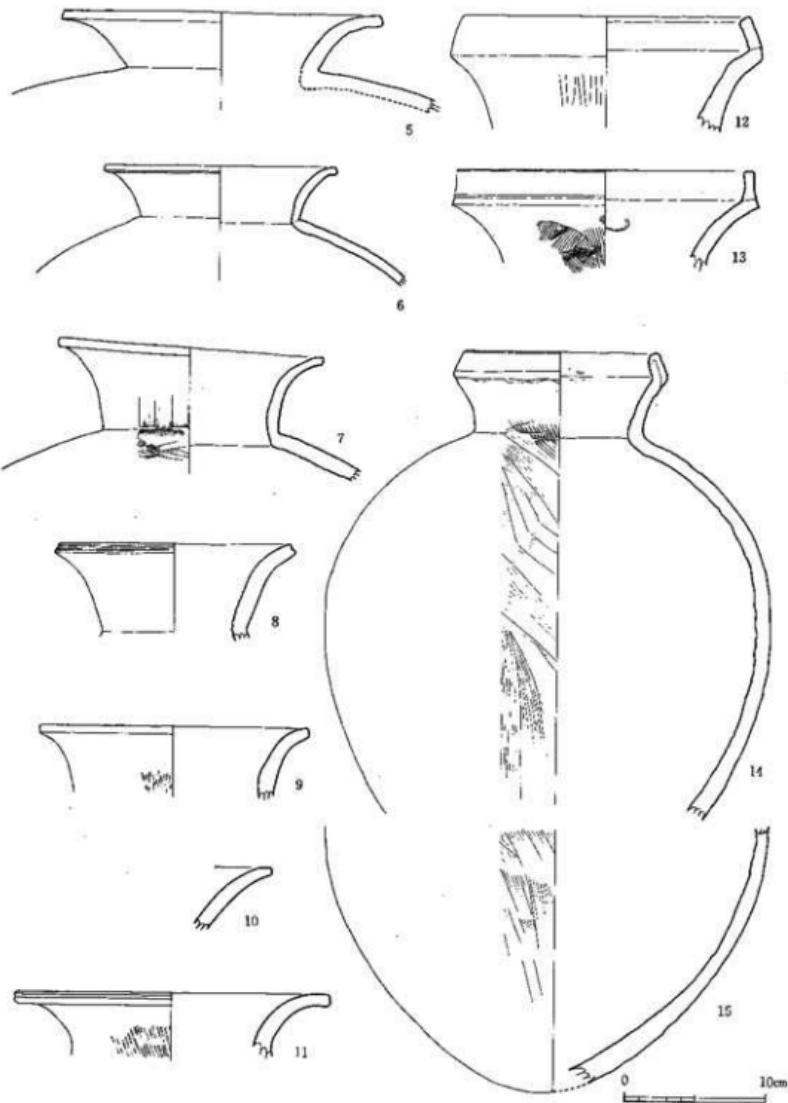


第99図 A地区北西造構群出土土器実測図(1)

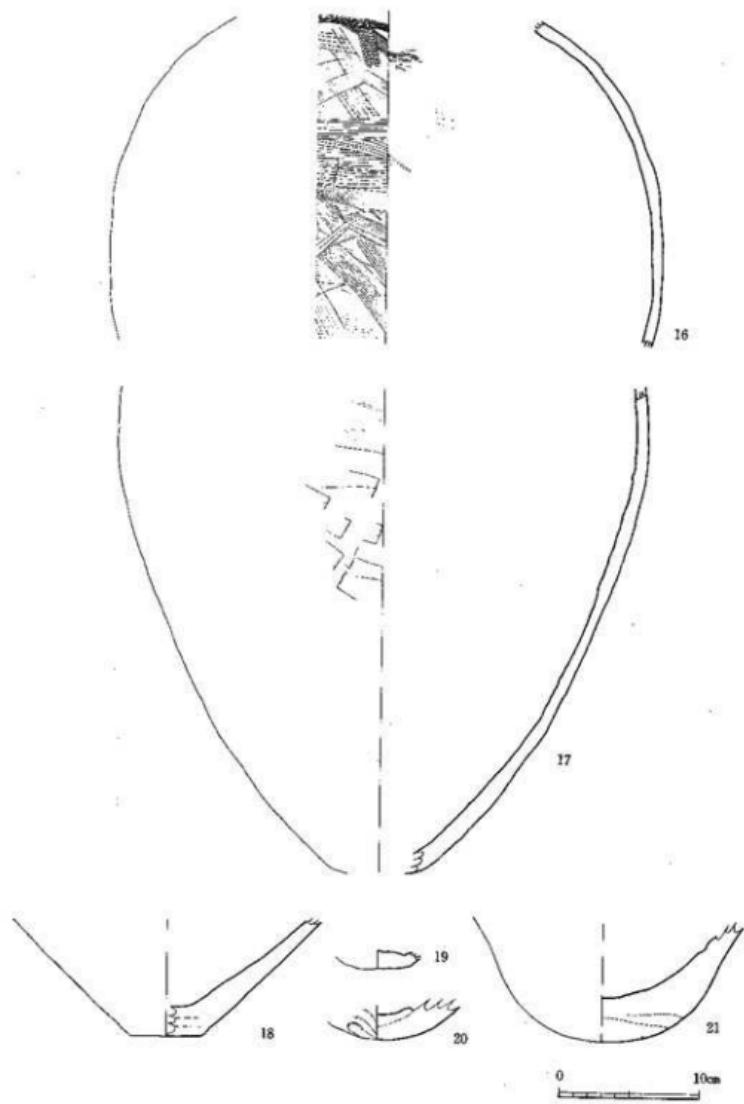


0 10cm

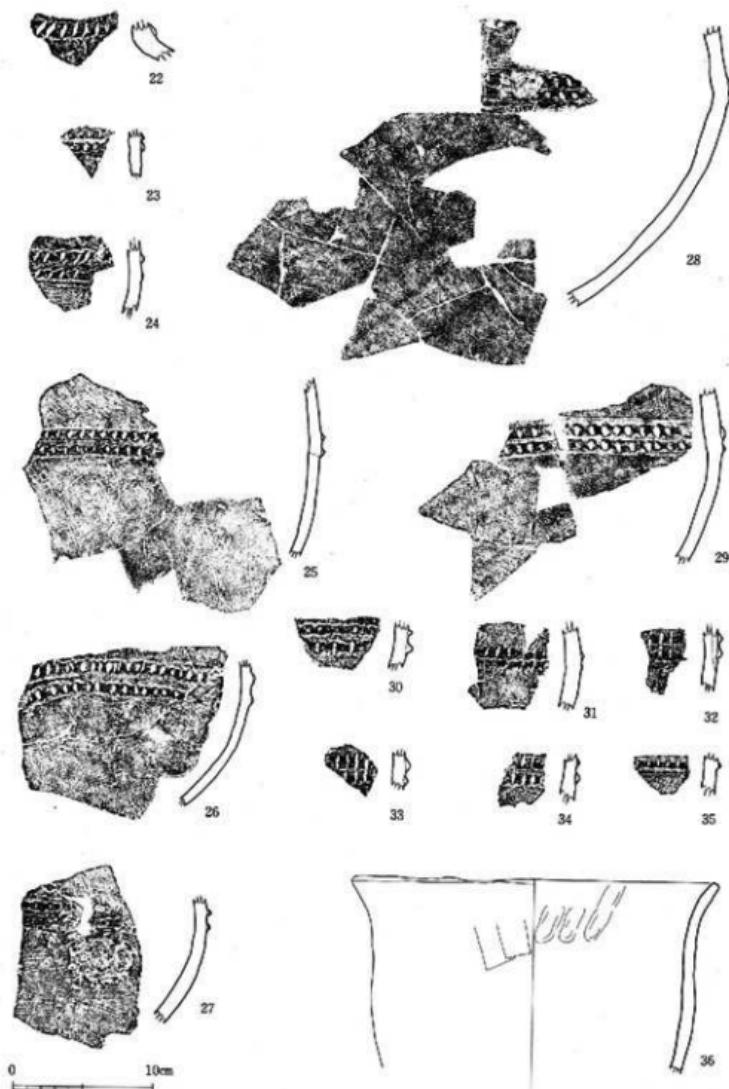
第100図 A地区北西遺構群出土土器実測図(2)



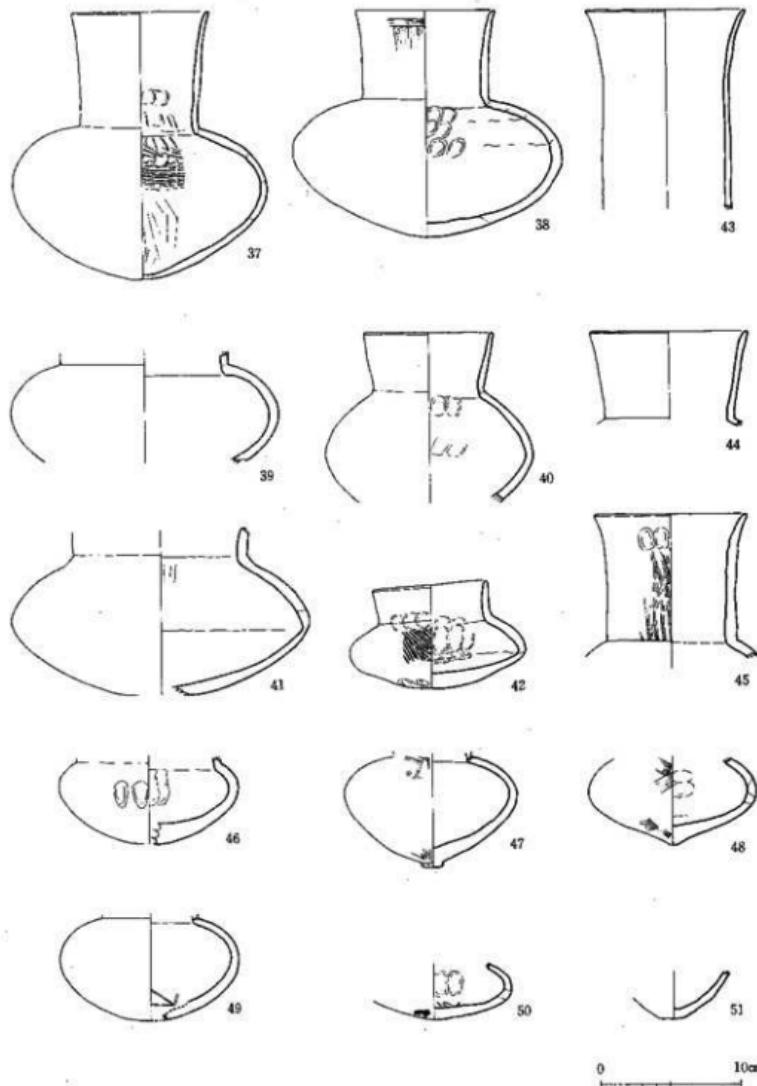
第101図 A地区北西遺構群出土土器実測図(3) (8…S T105)



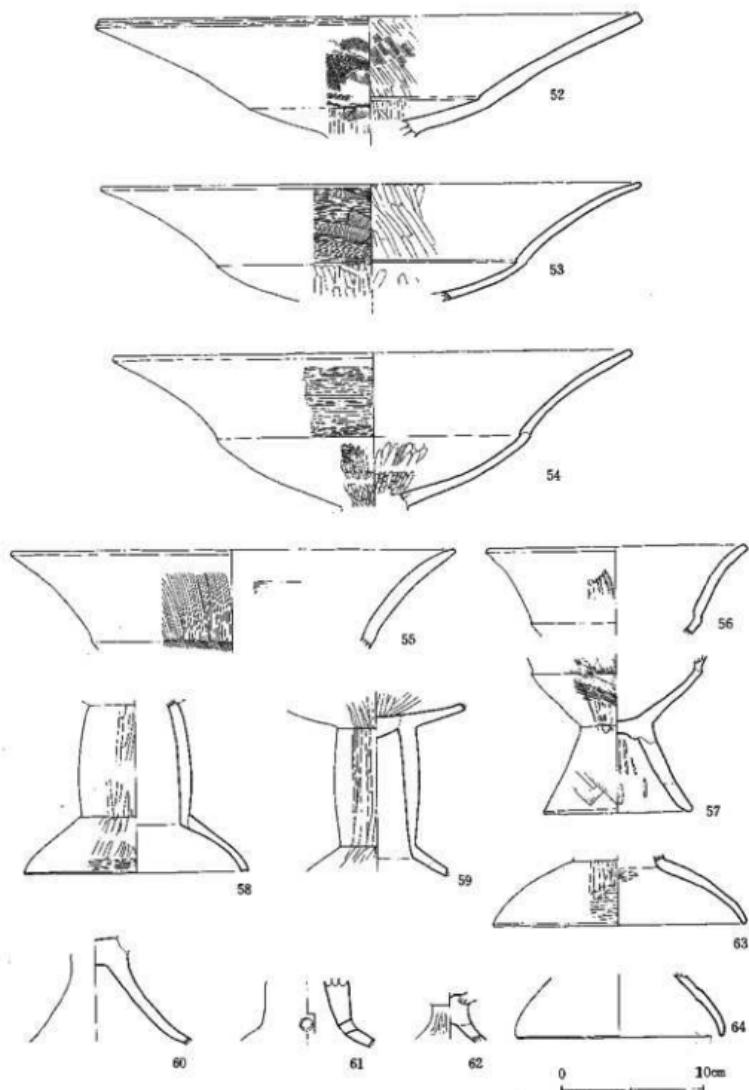
第102図 A地区北西遺構群出土土器実測図(4) (17-S T1013)



第103図 A地区北西造構群出土土器実測図(5) (36…6-d グリッ?)



第104図 A地区北西遺構群出土土器実測図(6) (37…S T1006, 39…S T1003)



第105図 A地区北西造構群出土土器実測図(7) (52…S T1001, 56-57…S T1015)

- C—1類 口縁部が内湾気味に内傾する二重口縁壺。 (12、14)
- C—2類 口縁部が反り気味に内傾する二重口縁壺。 (13)
- 壺D類 長頸の壺 (37~51)。このうち42・46~51は小型の長頸壺である。
- D—1類 最大径が若干胴部上位にあるソロバン状の胴部に底部が少し尖り気味になる長頸壺。 (37~39・46・49)
- D—2類 胴部中位に最大径を持ち若干膨らみのある胴部で短頸になる長頸壺。 (40・41・44)
- D—3類 全体的に寸詰まりの器形となる長頸壺。 (42・50)
- D—4類 底部が尖底気味になる長頸壺。 (47・48)
- 壺E類 胴部に2本の刻み目突帯を施す壺。 (23~35)
- E—1類 個々に刻み目を施した2条の突帯を持つ土器。 (24・26)
- E—2類 同じ単位の刻み目を施した2条の突帯を持つ土器。 (23・25・27~29)
- E—3類 1本の幅広の突帯を線刻で2本に表現し施した土器。 (30~35)
- b. 高 环 (52~64)
- 环部1類 大形で浅い环部。口縁部が大きく外反し、受部と口縁部の境に棱を持つあまり明瞭ではない。 (52~55)
- 环部2類 小形で深い环部。口縁部が外反し、受部と口縁部の境に棱を持つ。 (56)
- 脚部1類 エンタシス状に中位が膨らみ、橢状を持つ脚部。 (58・59・63・64)
- 脚部2類 福部に向かってラッパ状に聞く脚部。 (57・60・62)
- 脚部3類 柱状の脚部が屈曲して福部に聞く。脚部と福部の境に穿孔が見られる。 (61)

(2) 鉄 器

a. 鉄 鎌 (第106図~第113図)

地下式横穴墓や土壙墓などの遺構から出土した鉄鎌142本のうち、鎌身部が残る形状の明確な約119本について大別すると主頭鎌63本、長茎鎌約18本、腸抉柳葉鎌14本、腸抉三角鎌7本、柳葉鎌9本、無茎鎌8本からなる。鉄鎌については個々の説明は省き分類ごとの解説する。

主頭鎌 (K類)

いわゆる主頭斧箭鎌とよばれる形式の鎌である。堅坑土部開塗の地下式横穴墓を中心に63本と最も多く出土している。

K 1 ~全長15cm前後の比較的大型の主頭鎌。刃部角の鋭角な鎌は細味で、鈍角な鎌は幅広の傾向が見られる。(61・62・68・69・71・72・82~85・89・99・105・108・109・120~122・132・144・168・169・171・172・180~184)

K 2 ~全長10cm前後の中型の主頭鎌。刃部角は比較的鈍角である。(8・10・25・26・39・86・87・91・103・104・115・147~150・153・156・159・172・174)

K 3 ~全長5cm前後の小型の主頭鎌で刃部は比較的鈍角である。(3・6・10・23・31・40・41・55~58・113)

K 4 ~全長12~13cmの鎌で片刃状に中心が彎る。(74・154)

長頭鎌 (T類)

竪坑上部閉塞の地下式横穴墓から18本以上出土している。

T 1 ~鎌身部が三角形を呈する長頭鎌。(145)

T 2 ~鎌身部の関部が斜開化を呈する長頭鎌。(100・134・135)

T 3 ~鎌身部の関部が無開化を呈する長頭鎌。(137・138・164・165・178)

無頭鎌 (M類)

板石積石室墓、土壙墓、渋門閉塞の地下式横穴墓から8本が出土している。

M 1 ~刺が浅い正三角形状の小型の無頭鎌。(1)

M 2 ~逆刺が若干深めの長三角形状の細長の無頭鎌。(42・43・45・46・49・50)

M 3 ~砲弾型を呈する柳葉状の無頭鎌。(11)

腸抉柳葉鎌 (Y r類)

竪坑上部閉塞の地下式横穴墓からと土壙から1段の逆刺のものが13本、2段の逆刺のものが1本出土している。有闊のものと無闊のものが見られる。

Y r 1 ~逆刺が1段で山形の闊を有する腸抉柳葉鎌。逆刺が大きく外にひらく比較的大型のタイプと反りの余り大きくなき中型のタイプがみられる。(80・81・94・110・111・112・114・124・125・126・127)

Y r 2 ~逆刺が1段で無闊の腸抉柳葉鎌。鎌身長10cm前後の比較的大型の鎌で逆刺が大きく外にひらく。(73・151)

Y r 3 ~逆刺が2段で無闊の腸抉柳葉鎌。鋒よりふくらを有したあと、ほぼ直線状に垂下して斜闊を形成する。鎌身長が7cmと長身化した中型の鎌である。(18)

腸抉三角鎌 (Y s類)

土壙墓と渋門閉塞の地下式横穴墓から7本が出土している。有闊と無闊のものが見られる。

Y s 1～鎌身長4cm前後の無闇の脇挟三角鎌。鎌身部が長三角形を呈し、逆刺が外反氣味に開くタイプと直線的に下がるタイプがみられる。(22・24・33・34・35)

Y s 2～鎌身長5cm以上の無闇の脇挟三角鎌。鎌身部は長三角形を呈し、逆刺は直線状に下る。(44)

Y s 3～鎌身長5cm以上の無闇の脇挟三角鎌。台形状の大型の闇を有し、鎌身部は長三角形を呈する(38)

柳葉鎌 (R類)

土壙墓と狭門閉塞の地下式横穴墓から9本が出土している。

R 1～刃部先端から鎌身開部にかけて内湾しながら緩やかな円弧状を呈する。闇部は不明瞭で茎に至る。鎌身長から小型と大型のものが見られる。(5・9・13)

R 2～刃部先端から鎌身開部にかけて内湾しながら緩やかな円弧状を呈するが、梢円形に近い形状の小型鎌である。鎌身開部紋り氣味の撫闇である。(28・48)

R 3～鋒よりふくらを有したあと、ほぼ直線状に垂下して斜闇を形成する。鎌身長が7～9cmと長身化した比較的大型の鎌である。(19・20・21)

R 4～鋒よりふくらを有したあと、緩やかに茎部まで延びる。(101)

b. 剣 (第106図～第113図)

総数42本を数える。土壙墓をはじめ狭門閉塞および堅坑上部閉塞の両タイプの地下式横穴墓から出土している。

鋒

4 (S K 7) は茎側部を欠く。目釘穴が1つ開く。7 (S K 16) は鋒先を欠く。両角闇である。12 (S K 16) は刃部下半を欠く。15 (S K 26) は茎のみを欠く。両角闇である。刃部全長は約30cmを測る。鋒先に鞘の木質部がわずかに残る。

36 (S T 1008) は茎のみを欠く。斜角の両闇である。刃部全長は約30cmを測る。闇付近に鞘の木質部がわずかに残る。

37 (S T 1011) は刃部下半を欠く。47 (S T 1016) は茎先端を欠く。両角闇である。51・52 (S T 1018) のうち51は完形。闇は角をなさない。目釘穴が2つ開く。52は茎部を欠く。鋒先と闇付近に木質が残る。51・52とも刃部全長22～23cmを測る。59・60 (S T 1022) のうち59は完形で刃部全長おおよそ30cmを測る。斜角の両闇である。60は刃部下位を欠くが刃部全長は50cmを超す。63 (S T 1025) には鎌2本(61・62)が銹着している。茎部に木質が残る。64～67 (S T 1026) のうち67は刃部中央を欠くが64～66は完形である。64の刃部全長は

角

おおよそ35cmで関は角をなさない。鞘の木質部がかなり遺存する。65・66は刃部下位から関部に向って広がる。斜角の両関である。67は斜角の両関で目釘穴が1つ開く。関部から茎部にかけて鹿角製の装具が装着されている。刃部全長は35cm前後と推定される。70 (S T 2001) は関部は角の崩れた両関である。目釘穴が1つ開く。57 (S T 2002) はほとんど鞘の木質部が遺存しており本体は肉眼では判明しない。木質部には樹皮の付着が見られる。関部には鹿角製の装具が装着されている。目釘穴が1つ開く。刃部全長は50cmを超える。79 (2004) には劍 (77) と刀子 (78) が銹着している。79は完形で関は角をなさない。鞘や茎に木質部が残る。刃部全長はおおよそ45cmを測る。78は関部付近から下位を欠く。推定の刃部全長は20cm以下である。95 (S T 2010) は刃部全長50cmを超える。木質は鞘では部分的に、茎には全面に残る。斜角の両関でやや片側に寄る。目釘穴が1つ開く。106 (S T 2012) は関付近から下位を欠く。117・118・119 (S T 2013) のうち117は刃部中ごろを欠く。斜角の片関で関部には鹿角製の装具が装着されている。また、茎部の木質部には樹皮の付着が見られる。目釘穴が1つ開く。刃部全長はおおよそ50cmを測る。118は完形で関部には鹿角製の装具が装着されている。また、茎部の木質部には樹皮の付着が見られる。119は関は角をなさない。茎はやや曲る。関から刃部中ごろにかけての鞘に木質部が遺存する。一部に木質部には樹皮の付着が見られる。鋒先は鏽のため判明しない。130・131・133・136 (S T 2014) はいずれも完形である。130は刃部全長がおおよそ50cmである。関の周辺は鏽のため良く判明でないが両関を持つ。131は刃部全長約35cmで鞘や茎に木質部が遺存する。鞘には木質部には樹皮の付着が見られる。133は刃部全長約36~37cmで斜角の両関である。136は両関を持ち、刃部下位から関に向って幅広になる。茎に木質部と目釘1が遺存する。刃部全長約21cmを測る。141・142 (S T 2015) のうち141は両角関で刃部下位から関に向って幅広になる。茎に木質部が一部遺存する。刃部全長は約20cmを測る。142は鋒を欠く。関は角をなさない。鋒周辺に鞘の木質部が遺存する。刃部の推定全長は20cm程になる。157 (S T 2020) は刃部全長約33cmで両関を持つ。全体に木質部が遺存する。158 (S T 2026) は刃部下位から関にかけて幅が広がる。目釘穴が1つ開く。刃部全長約20cmを測る。166・167・170 (S T 2025) はいずれも鏽のため関の形状が不明である。166は完形で刃部50cm程度である。167は関から茎を欠く。推定刃部長は50cmを超える。170は完形で関は角をなさない。刃部長30cm程を測る。179・186・187 (S T 2027) のうち186・187はほとんど欠損する。179は完形で刃部は60cm程の長さを測る。斜角の両関である。

c. 刀 (第109図・第110図・第112図)

いずれもB地区の竪坑上部閉塞の地下式横穴墓から5本出土している。76(S T 2004)は完形で接合の関係か頭部下位と某でやや屈曲する。茎尻は隅を弧状に抉り落としている。闊は直角と思われる。96(S T 2010)は完形で目釘穴が一つ開く。闊は撫角を呈し茎端は曲線をなす。107(S T 2012)は完形。刃部全長が20cm弱と短い。茎には木質部が遺存する。116(S T 2013)完形で鐵3(113~115)が鍛着している。鞘には木質部が遺存しており茎は鉄が全面を覆っている。刃部全長は25cm程度である。143(S T 2017)は鉄と茎尻を欠く。闊は鹿角製装具が遺存しており不明だが、直角の片闊で闊近くでやや幅広を呈する。

d. 刃 (第109図・第110図)

いずれもB地区の竪坑上部閉塞の地下式横穴墓から3本出土している。90(S T 2007)の刃部は短い。袋部近くになると刃部に丸みを持つ。闊は撫角で袋部端を欠く。内部に木質が遺存する。97(S T 2010)は完形で刃部断面は両鋸造りを呈する。闊は斜角を呈する。袋部は端部に2ヵ所に抉りが入る。内部には木質が遺存する。102(S T 2011)は完形である。闊は直角を呈しており袋部は端部に2ヵ所抉りが入る。内部には木質が遺存する。

e. 刀子 (第109図・第110図)

いずれもB地区の竪坑上部閉塞の地下式横穴墓から2本出土している。77(S T 2007)は鉄のため群細は不明である。刃部の先端と思われる。98(S T 2010)は刃部幅のある刀子である。茎は端部を欠くが鹿角製の装具で覆われている。

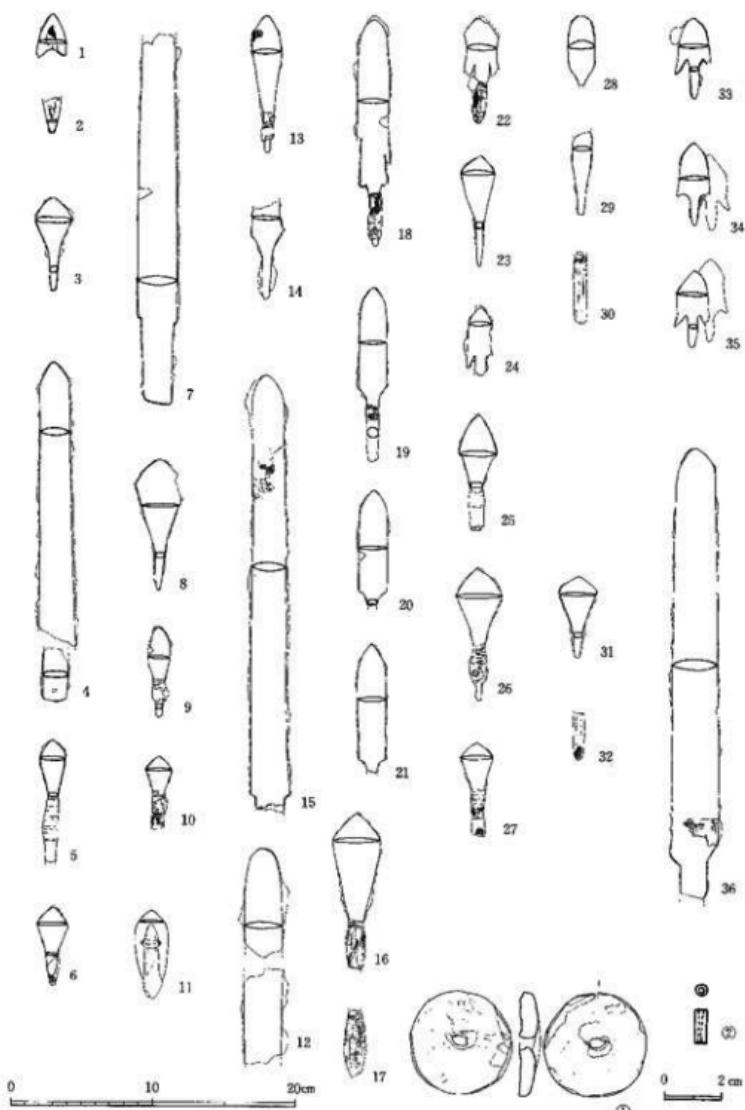
(3) 玉 (第106図②)

S K 2より出土の管玉である。長さ1.2cm、径0.4cmを測る。1.5cmの穿孔が見られる。

鑑

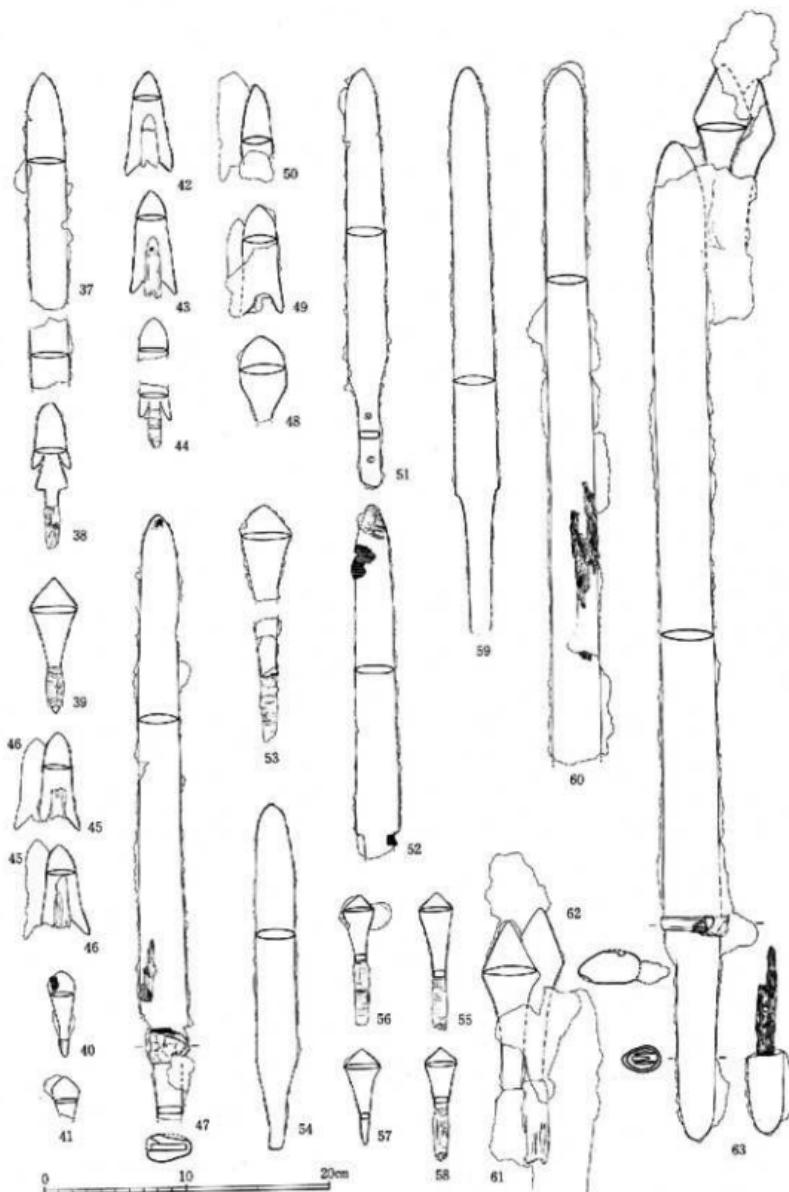
(4) 紡垂車 (第106図①)

S T 1008より出土の石製の紡垂車。径7.1cm、厚み4mm~7mmを測る。中央に4mm~5mmのやや橢円形の穿孔がある。



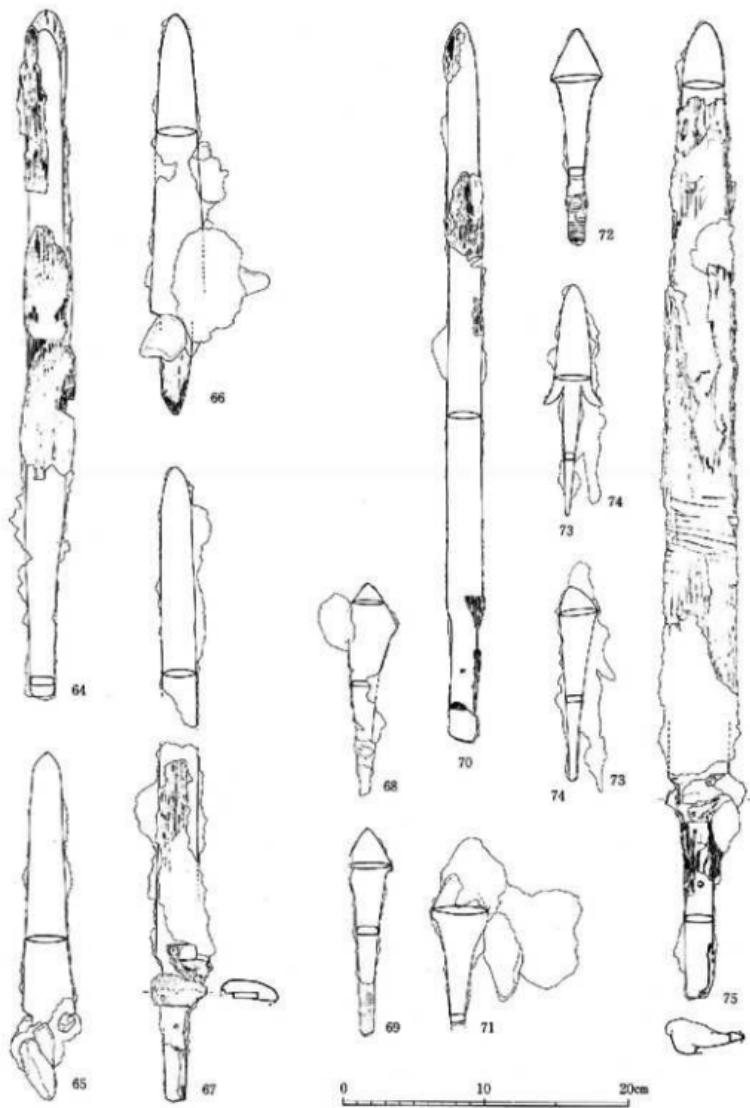
1~2···S 1102, 3···S 1103, 4~6···S K 7, 7···S K 16, 8~10···S K 19, 11···S K 38, 12···S K 49,
13···S K 32, 14···S K 28, 15···S K 26, 16~17···S K 40, 18~21···S K 5, 22~30···S K 48, 31···S K 1,
32···S K 2, 33~35···S T 1003, 36···1008, ①···S T 1005, ②···S K 2

第106図 A地区土壤墓・板石積石室墓・地下式横穴墓出土遺物



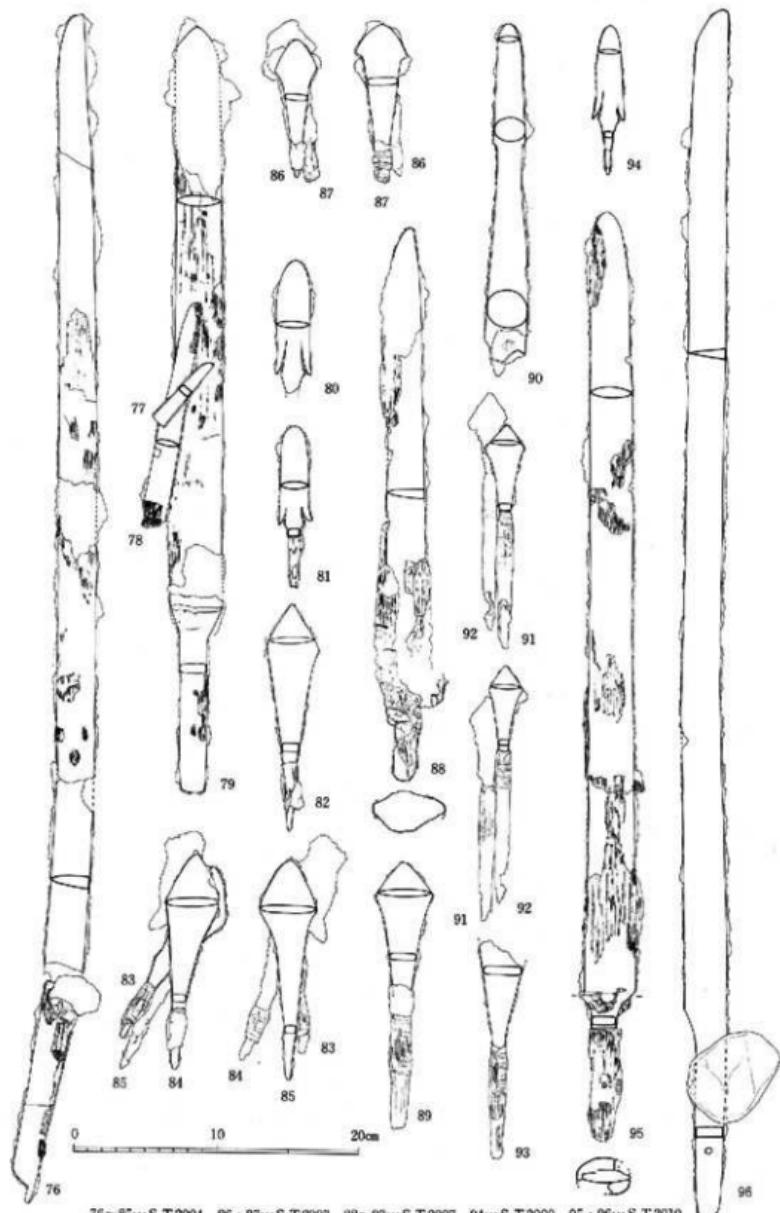
37~38···S T1011, 39···S T1012, 40~41···S T1014, 42~46···S T1015, 47···S T1016, 48~50···S T1017,
51~52···S T1023, 53···S T1019, 54~58···S T1020, 59~60···S T1022, 61~63···S T1025

第107図 A地区地下式横穴墓出土鐵器



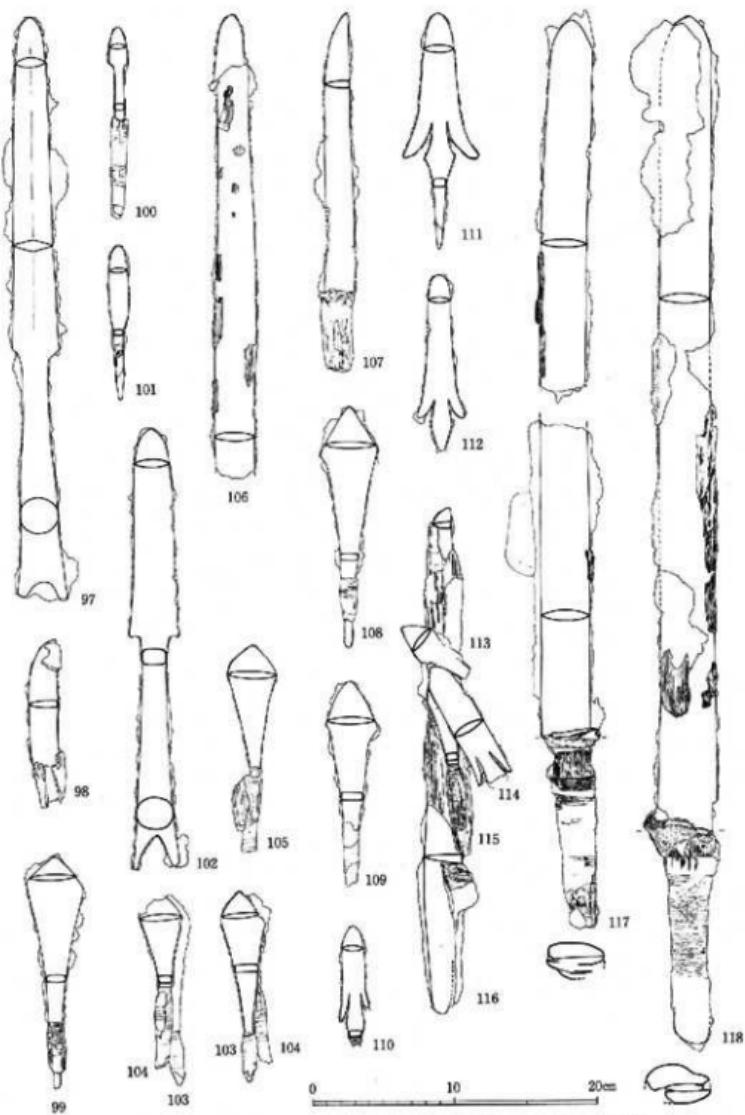
64~67…S T 1026, 68~71…S T 2001, 72~75…S T 2002

第108図 A地区及びB地区地下式横穴墓出土鉄器



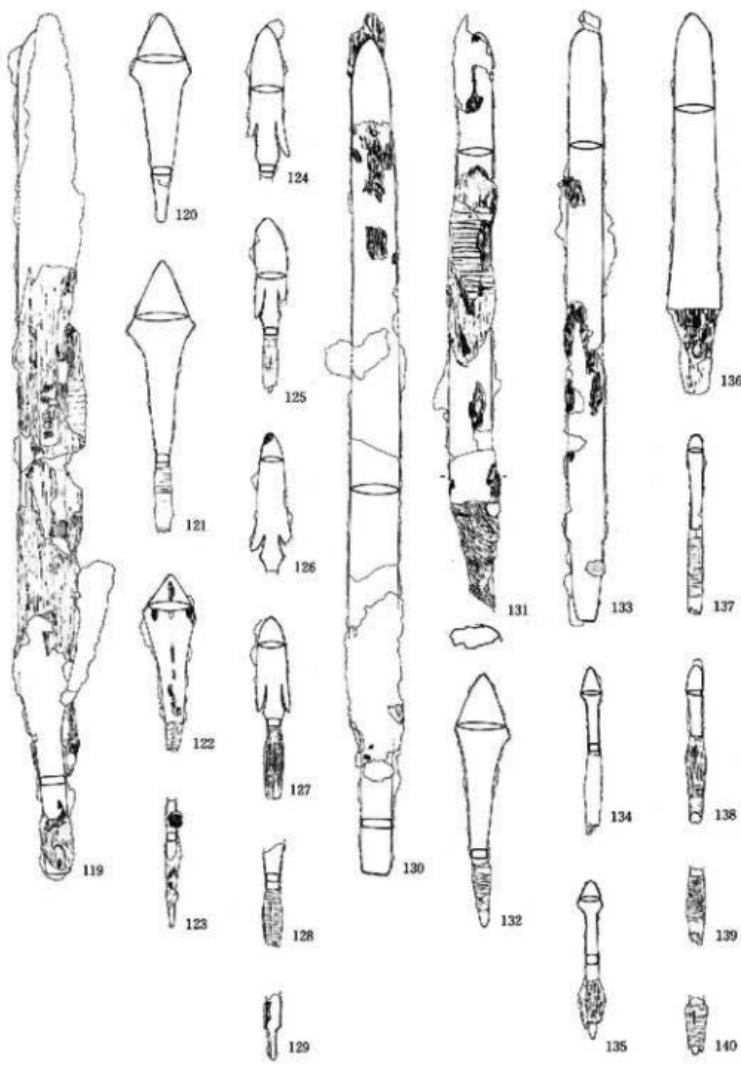
76~85···S T 2004、86~87···S T 2003、88~93···S T 2007、94···S T 2009、95~96···S T 2010

第109図 B地区地下式横穴墓出土鉄器(1)



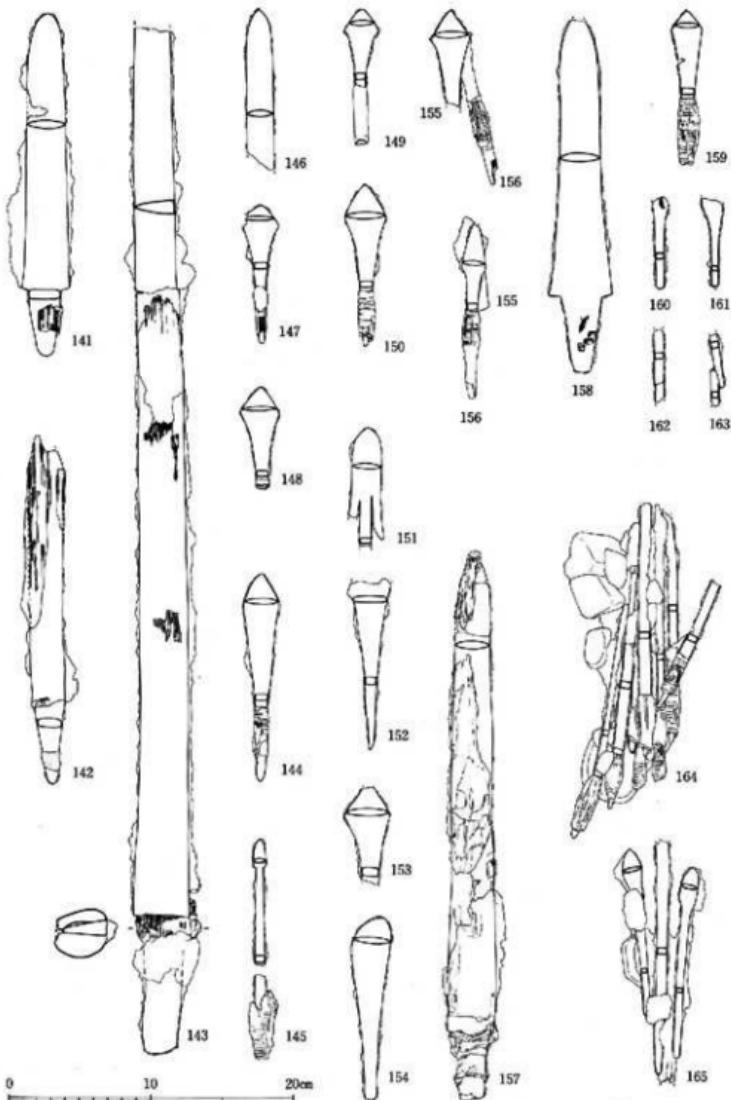
97~101--S T 2010, 102~105--S T 2011, 106~112--S T 2012, 113~118--S T 2013

第110図 B地区地下式横穴墓出土鐵器(2)



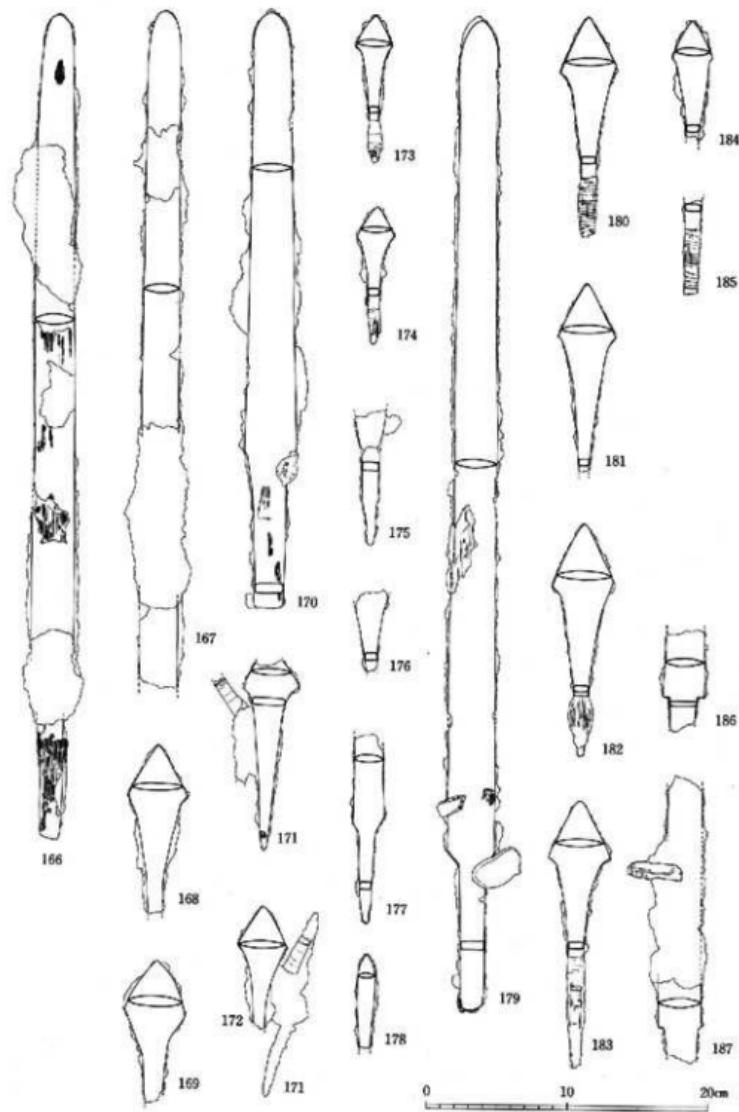
119~129…S T2013, 130~140…S T2014

第111図 B地区地下式横穴墓出土鉄器(3)



141~142···S T 2015, 143~145···S T 2017, 146~150···S T 2018, 151~156···S T 2019, 157···S T 2020
158~163···S T 2026, 164·165···S T 2029

第112図 B地区地下式横穴墓出土土器(4)



166~178…S T2025、179~183・186・187…S T2027、184・185…S T2028

第113図 B地区地下式横穴墓出土鉄器(5)

第2節 歴史時代の遺構と遺物

A地区を中心に中世から近世の時期の遺構・遺物が検出されている。

A地区北東遺構群

調査区北東部の微高地を中心に中世の時期と思われる10数条の溝条遺構と5棟の掘立建物(B S 1～B S 5)を検出した。また、周辺には100本近くの柱穴も検出されている。南側はB地区的地下式横穴墓群と一部重なる。遺物も糸切り底の土師器の壺・皿、青磁の碗・蓋、砥石などが出土している。

A地区北西遺構群

調査区北西部の土塙墓や板石積石室墓、地下式横穴墓が分布する微高地を中心に10数条の溝条遺構と300を越える柱穴が検出されている。また、竪穴状遺構2基も検出されている。遺物も糸切り底の土師器の壺・皿、青磁の碗、備前焼の指り鉢などが出土している。

A地区南西遺構群

調査区南西部の地下式横穴墓S T 1024とS T 1025の分布する細長い調査区。A地区北西遺構群の溝条遺構と関連する7本の溝条遺構と堀立柱建物2棟(B S 6・B S 7)が検出されている。遺物は近世陶磁器や石鍋などが出土している。

B地区遺構群

表土から近世を中心に陶磁器類が出土している。

1. 遺構

(1) 堀立柱建物跡 (SB)

S B 1(第116図) A地区北東遺構の北側に所在する。柱間1間×3間の堀立柱建物。建物規模は桁行6.1m、梁行3.2m、柱間寸法は桁行1.6～1.8m、梁行2.5～2.7mを測る。主軸方向はN-60°-Wである。

S B 2(第116図) A地区北東遺構群の北側に所在し、S B 1の東に隣接して並ぶ。柱間1間×3間の堀立柱建物。建物規模は桁行4.4～4.7m、梁行3.2～3.4m、柱間寸法は桁行1.0～1.3m、梁行2.7～2.9mを測る。主軸方向はN-70°-Wである。

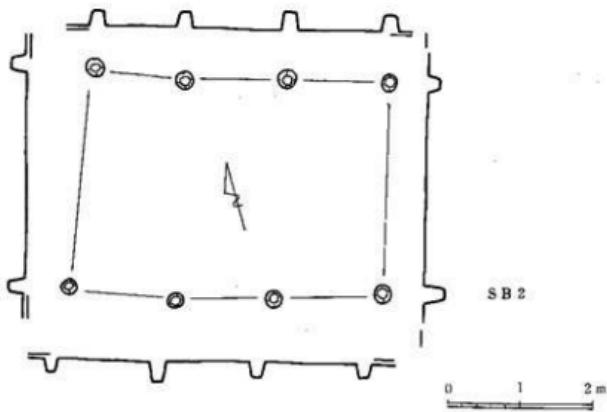
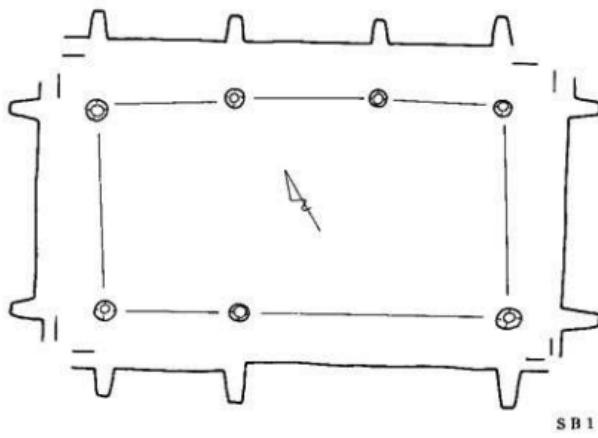
S B 3(第117図) A地区北東遺構群の南側に所在する。西側は未調査。梁方向に3本、桁方向に4本の柱穴が検出されている。柱間は桁行2間、梁行3間以上の縦庇の堀立柱建物。建て替えが見られる。建物規模は梁行3.6～3.8m、柱間寸法は桁行1.4～1.6m、梁行1.4

第114図 A地区北東油漬群

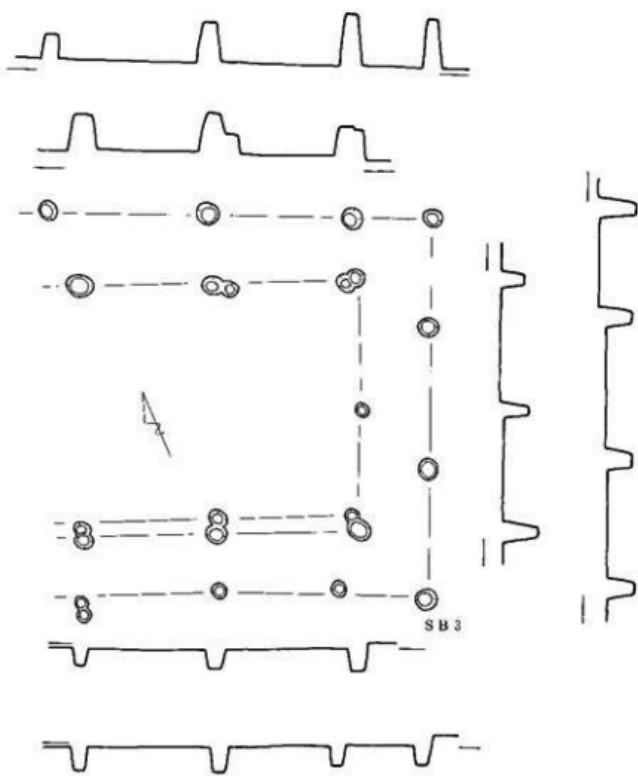




第115図 A地区北西透構群

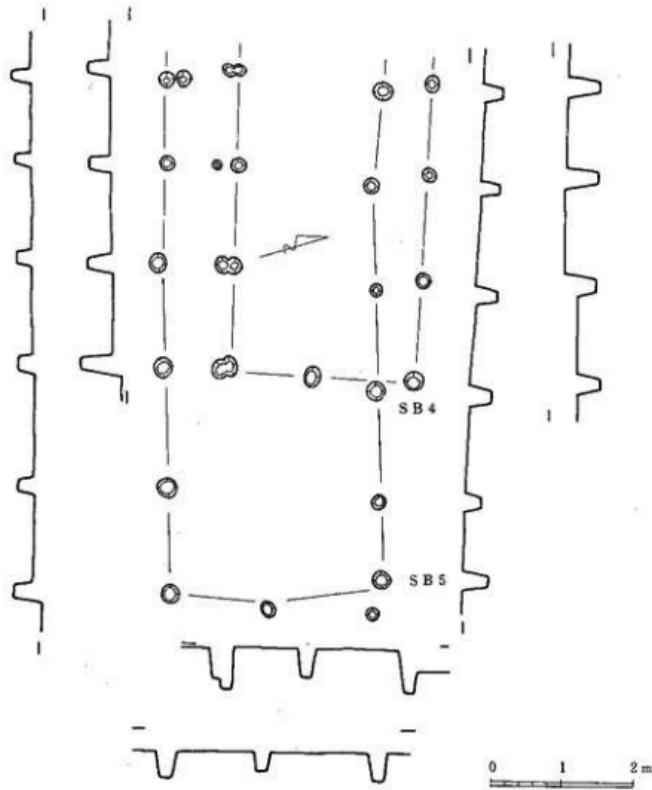


第116図 SB 1・2 遺構実測図

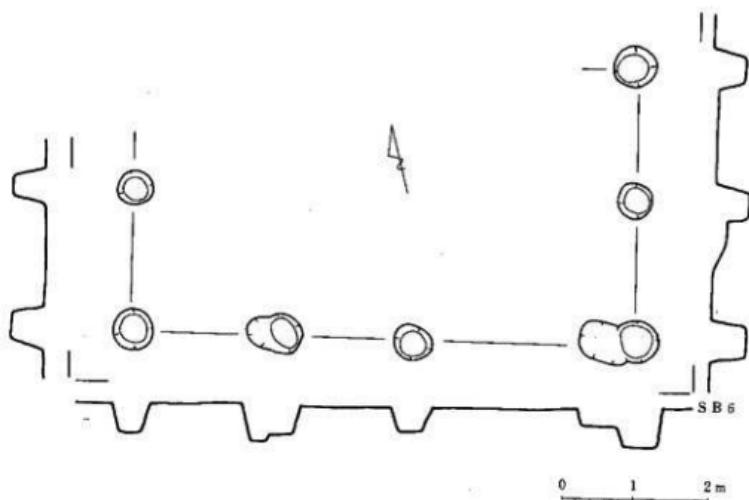


0 1 2 m

第117図 SB 3, 4 造構実測図



第118図 SB 4, 5 造構実測図



第119図 SB 6 造構実測図

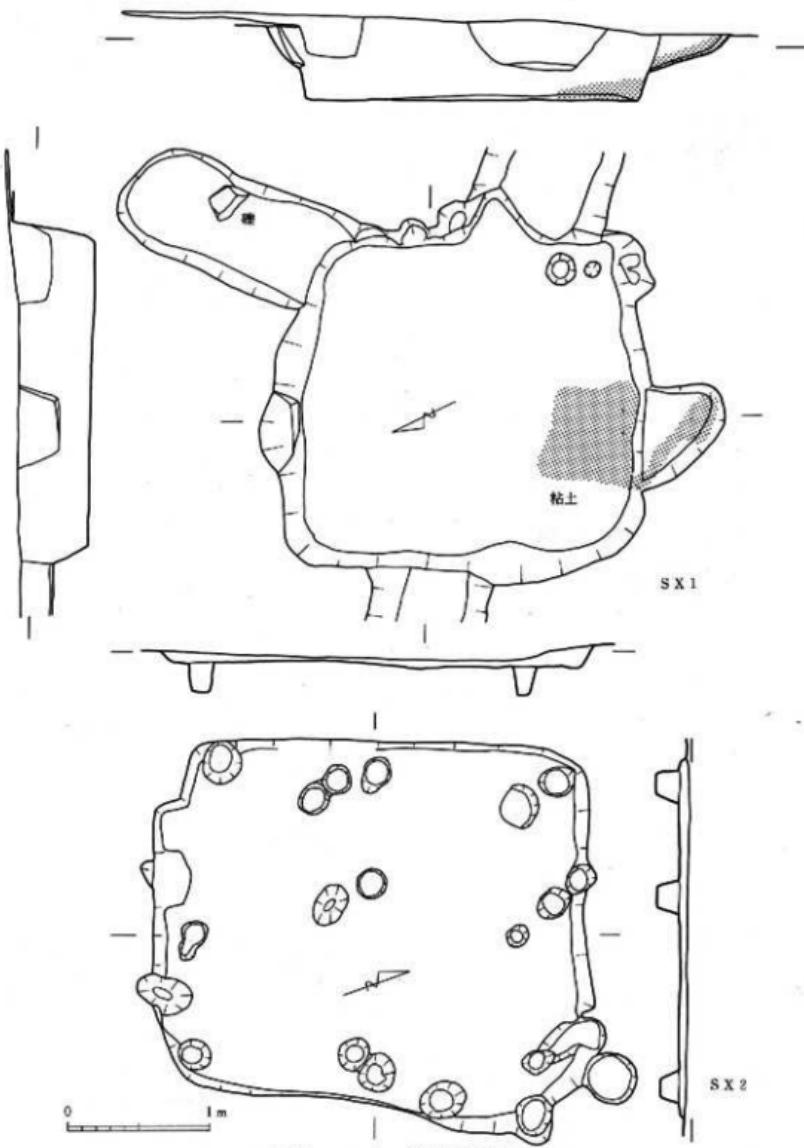
~ 1.7 m を測る。主軸方向は N-70°-W である。

S B 4 (第118図) A 地区北東造構群の南側に所在し、S B 3 の南に隣接して並ぶ。西側は未調査。梁方向に 3 本、桁方向に 6 本の柱穴が検出されている。柱間は桁行 2 間、桁行 3 間以上の壠立柱建物。建て替えが見られる。建物規模は梁行 3.0 m、柱間寸法は桁行 0.9 ~ 1.2 m、梁行 1.0 ~ 1.2 m を測る。主軸方向は N-73°-W である。

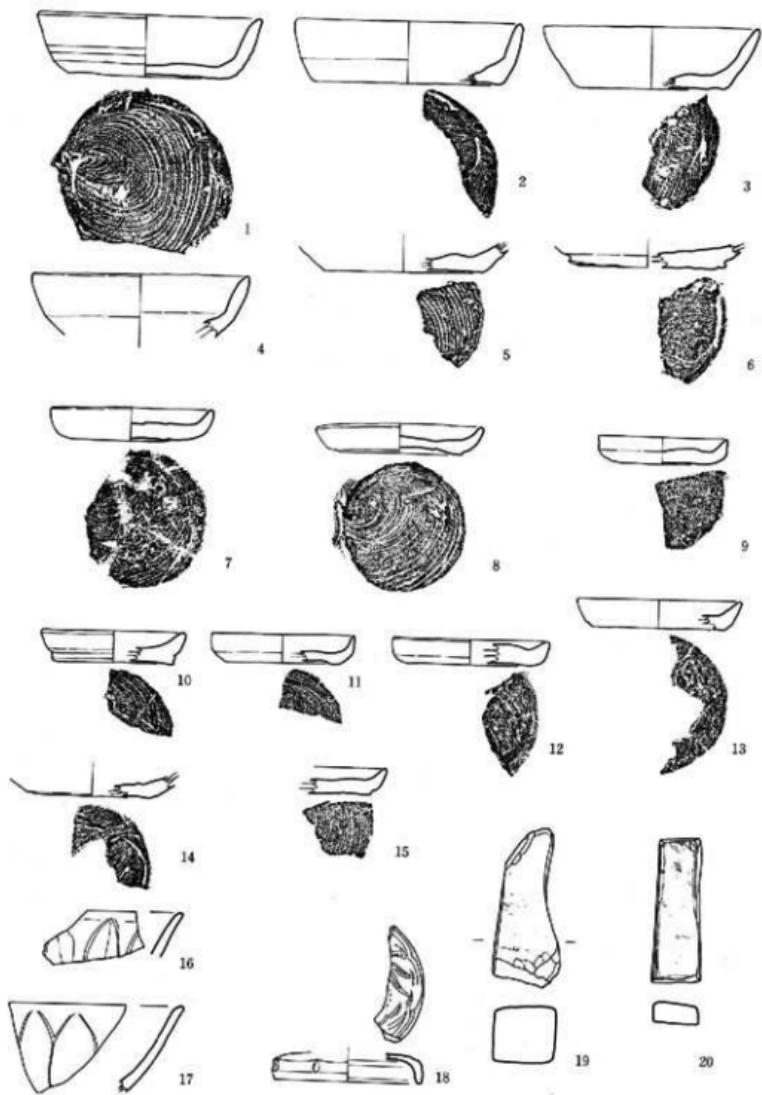
S B 5 (第118図) A 地区北東造構群の南側に所在し、S B 4 と切り合って並ぶ。西側は未調査。梁方向に柱 3 本、桁方向に柱 3 本の柱穴が検出されている。柱間は桁行 2 間、梁行 5 間以上の壠立柱建物。建て替えが見られる。建物規模は梁行 3.2 m、柱間寸法は桁行 1.0 ~ 1.4 m、梁行 1.3 ~ 1.4 m を測る。主軸方向は N-73°-W である。

S B 6 (第119図) A 地区西造構群に所在する。柱間 2 間 × 3 間の壠立柱建物。柱穴の径が 50 ~ 60 cm と他の壠立柱建物に比べると大型の柱穴である。建物規模は桁行 7.7 m、梁行 4.5 m、柱間寸法は桁行 1.3 ~ 2.5 m、梁行 1.4 m を測る。主軸方向は N-75°-W である。

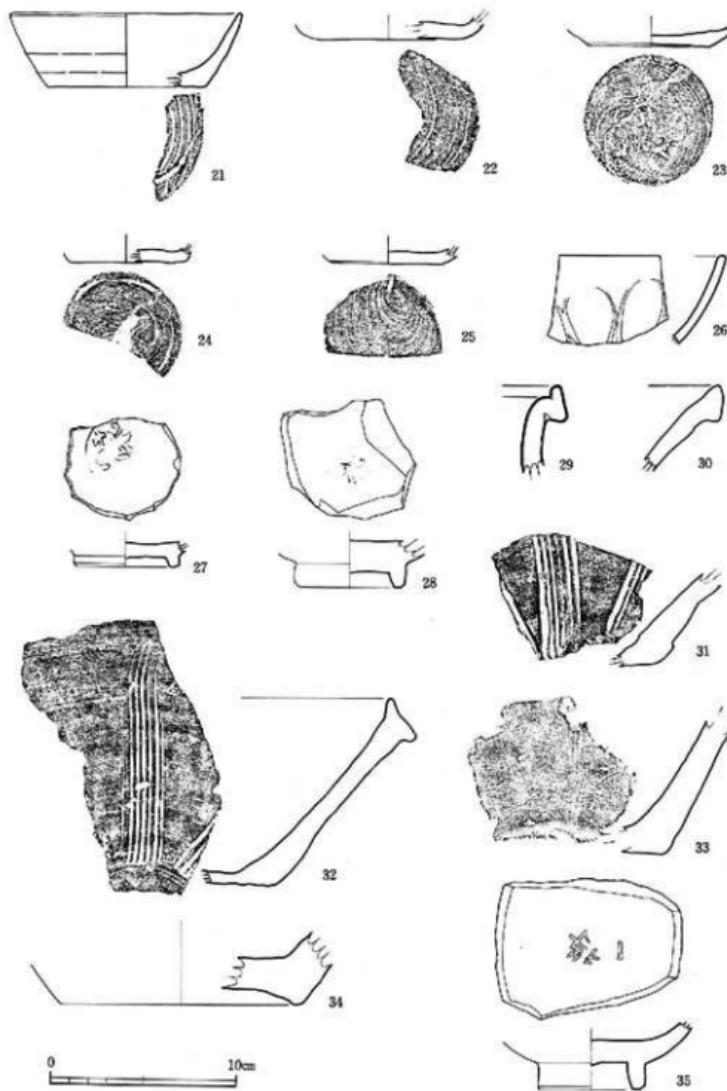
S B 7 A 地区西造構群に所在し、S B 6 の南に隣接して並ぶ。柱間 1 間 × 2 間の壠立柱建物。建物規模は桁行 4.8 m、梁行 3.2 m、柱間寸法は桁行 1.7 ~ 2.0 m、梁行 2.5 ~ 2.6 m を測る。主軸方向は N-75°-W である。



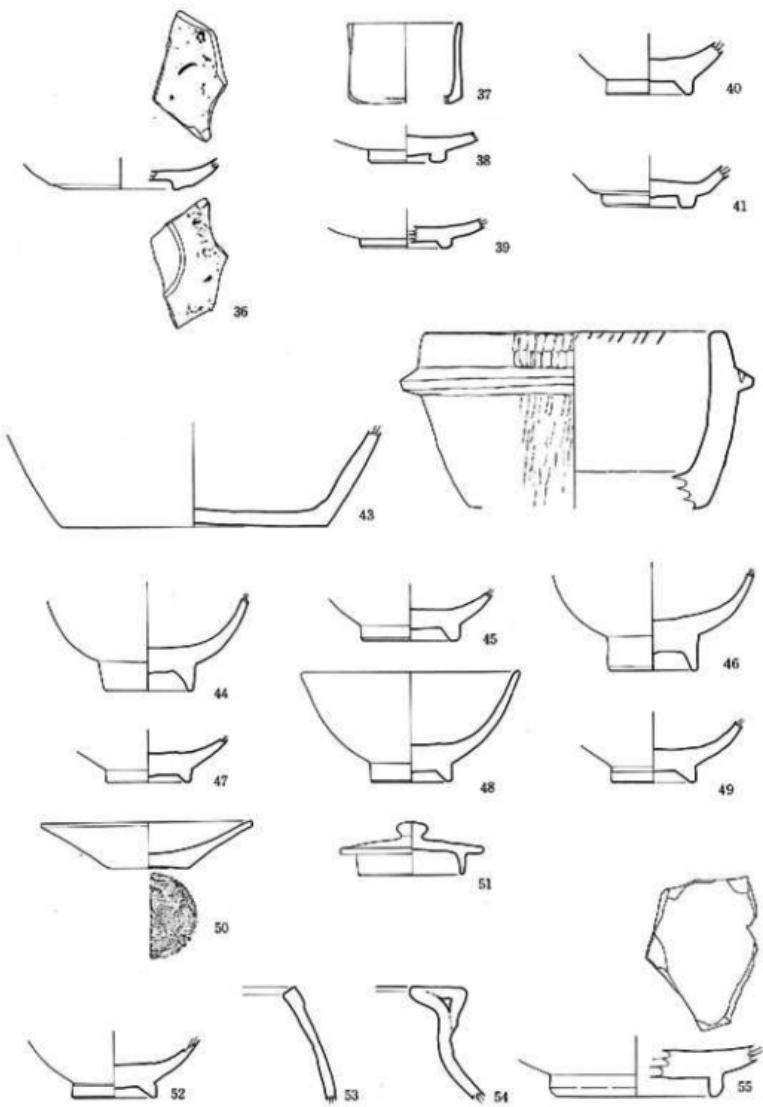
第120図 SX1・2 遺構実測図



第121図 出土土器実測図(1) 1~20 A地区北東遺構群



第122圖 出土土器實測圖(2) 21~35 A地區北西遺構群



第123図 出土土器実測図(3)

36~41 A地区北西造模群
43~51 A地区南西造模群
52~55 B地区造模群



(2) 壁穴状遺構 (S X)

A地区北西遺構群の北西角付近に2基の壁穴状遺構が検出されている。

下

S X 1 (第120図) 長軸2.3m、短軸2.1mのほぼ方形プランを呈する。北東角に床面が30cmの所に長さ1.5m、幅0.5~0.6mの断面台形の溝が掘り込まれている。また、南壁際にも0.5×0.7mの三角形の堀り込みが有り壁穴の床面にかけて粘土が流れ込んでいる。検出面からの深さ0.5mを測る。明確な柱穴や遺物は検出されなかった。主軸はN-25°-Eである。

S X 2 (第120図) 長軸2.8~2.9m、短軸2.4~2.6mの方形に近いプランを呈する。検出面からの深さは10cm以下と浅い。柱穴は20本近く検出されているが遺構に伴う柱穴は確認できなかった。また遺物の検出もなかった。主軸はN-20°-Eである。

(3) 溝状遺構 (S E)

A地区北東遺構群で10数条、A地区北西遺構群で10数条、A地区西遺構群で7条の溝状遺構が検出されている。A地区北東遺構群では南北方向の溝が多く見られる。また堀立柱建物(S B 3)を囲む溝も見られる。A地区北西遺構群では微高地から低地に向って掘られた排水用の溝が多く、微高地の際を堀り込んだ溝も見られる。溝の中から土師器片や陶磁器片が流れ込んでおり、いずれも中世から近世の溝と思われる。溝は確認面での計測値で幅0.4~1.0m、深さ0.2~0.5mと幅の狭い溝が多く見られる。

2. 遺 物

土師器、鐵磁器、砥石、石鍋などが出土している。

(1) 土師器 (第121図1~15、第122図21~25)

环と皿が見られる。环は口径11cm前後、皿は口径7~8cm前後の法量である。1~3、5、6、21~23、25は糸切り底の环。7、8、11、12、14、15は糸切り底の皿。9、13はヘラ切り底の皿。24はヘラ切り底の环。10はナデ仕上の皿である。

(2) 陶磁器 (第121図16~18、第122図26~41、第123図44~53)

青磁、染付、備前焼、薩摩焼が見られる。16、17、26~28、55は青磁碗、18は青磁の蓋。29、30、34、43、53、54は備前の甕、31~33は備前の措鉢。36、37は染付。38~41、44~49、52が薩摩の碗、50が皿、51が蓋である。

(3) 石製品 (第123図42、第121図19、20)

砥石と石鍋が出土している。19、20は砥石である。42は底部を欠く滑石製石鍋である。径16cmと小型である。

第3章 まとめ

今回調査した小木原遺跡蔵地区は古墳時代の墓地と中世の集落からなる複合遺跡である。特に古墳時代の墓地については、土壙墓・板石積石室墓・地下式横穴墓の異なる墓制が混在することが確認され大きな成果を得ることができた。本章ではこれらの墓制についてそれまとめてみたい。

1. 板石積石室について

(1) 分類

小木原遺跡蔵地区で検出された板石積石室墓は、平面プランが方形を呈するタイプ(1類)と円形を呈するタイプ(2類)の2タイプに分けられる。いずれも石材の長軸を縦方向に置き、石材間の隙間があまり見られない構造である。

1類は1ヶ所の角を丸く弧状に組んだ変形の方形プランを呈するタイプで方形プランから円形プランへの過渡期のものとも考えられる。都城盆地北部の香禅寺遺跡でも見られるが、その他の地域からは今のところ発見されておらず加久藤盆地から都城盆地の限られた地域で見られる板石積石室墓と思われる。2類は加久藤盆地や大口盆地、さらに人吉盆地などの内陸部で見られるもので、えびの市の灰塚遺跡で検出された2基の板石積石室墓もこのタイプである。

(2) 副葬品

副葬品はきわめて少ない。鉄鎌のみでS I 102(2類)からは無頭鎌、S I 103(2類)からは幅広で小型の柳葉鎌が副葬品として検出されている。このうち無頭鎌は古手のものであるが弥生時代まで遡る程ではないと思われる。また、S I 103やS I 105の周辺からは多量の土師器片が出土している。その出土状況から見て板石積石室墓の供獻土器と思われる。検出された土器のうち高杯は宮崎平野部に系譜の見られるもので宮崎学園都市遺跡群前原南遺跡9号住居や新富町川床遺跡15号周溝出土のものに近い。頭部や胴部に刻目突帯を巡らす大型の壺は鹿児島地方の特徴を持つ成川系の壺で加久藤盆地西部の吉松町永山遺跡10号墓周溝出土の壺に近い。いずれも希留式の時期に相当する土器を伴っており古墳時代前期(4世紀代)のものと思われる。また、個体数の多い長獣耳のうち四壁の薄いタイプは、近隣地域での資料の把握はまだ行なっておらず、北部九州で類例がみられる。福岡市西新町遺跡D-4件出土の壺と類似する。布留系土器の時期と対比している。

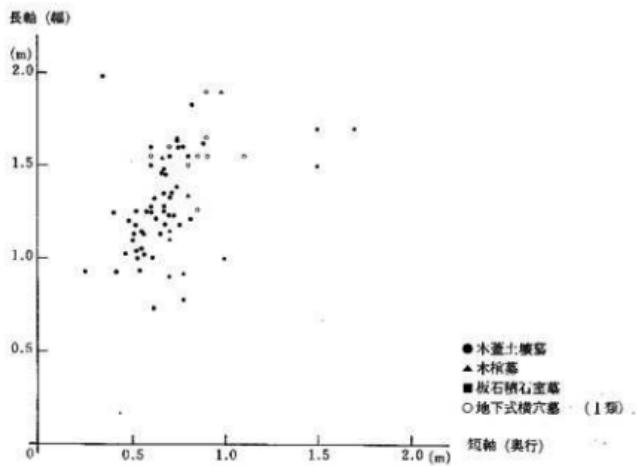


表1 土壙墓・板石積石室墓・地下式横穴墓（1類・2類）規模分布表

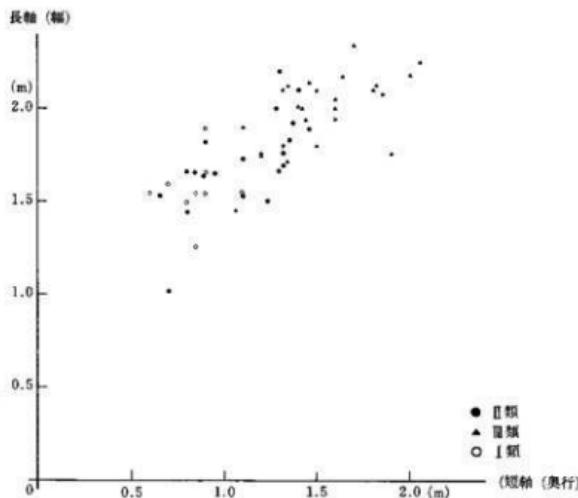


表2 地下式横穴墓規模分布表

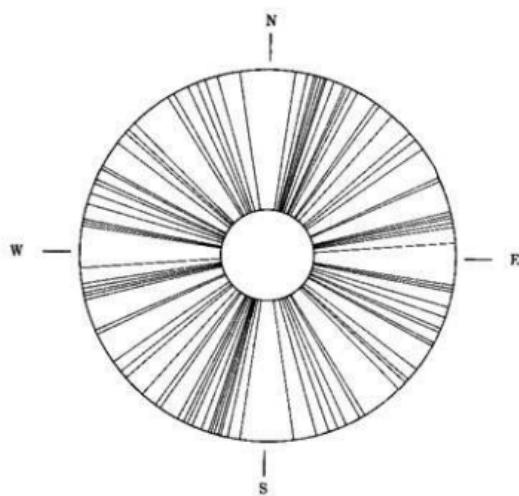


表3 土壤墓主轴分布表

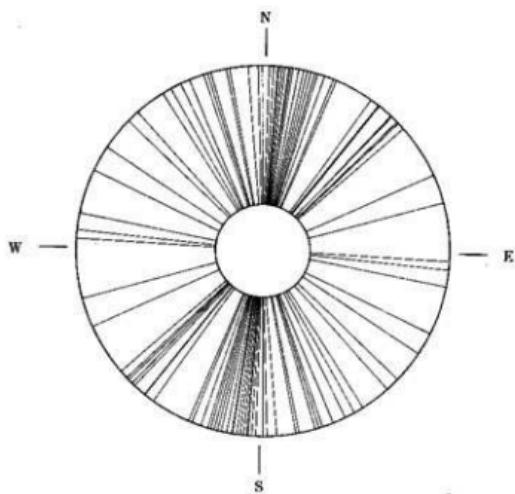


表4 地下式横穴墓主轴分布表

(3) 群構造

板石積石室墓はA地区に1類と2類が混在して分布する。このうちS I 101、S I 102、S I 107、S I 108とS I 103～S I 106がそれぞれ等高線にそったグループ構成が想定されるが、検出遺構が8基と少なく群構造を考える良好な状況とは言えない。また、平面プランの違いによるグループ構成も見られない。板石積石室墓の分布は北側の削平地域に広がると思われる。なお、木崎原氏の調査でも板石積石室墓と思われる石組跡が確認されている。

(4) 時期

S I 102出土の無頭鏡は古い様相を持つ。しかし、鉄鏡から時期を判断するには出土数もなく時期決定も決め手と成り得る資料とは言えない。一方、板石積石室墓群内で検出された供獻土器と思われる土器群のなかには4世紀後半と思われる土器が見られる。また、1類の板石積石室墓は方形プランから円形プランへの過渡期のものと思われることなどから古墳時代前半（4世紀中葉～後半）にあたる。なお、板石積石室墓は、その成立過程から方形プランから凹形プランへの変遷が考えられているが、蕨地区で見られる両タイプの板石積石室墓にはさほどの時期差は考えられず同時期に営まれていた可能性もある。

2. 土壙墓について

(1) 分類

木棺墓は、長側板と小口板の両方の溝を掘り込んだ組合せ式の木棺墓で小口板が長側板の内側に入り込むタイプのものである。このうちSK 2は床面近くまで削平されており断言はできないが小口板を掘り込まないタイプとも考えられる。

一方、木蓋土壙墓は、まず上塙の長軸（主軸長）からその規模を見ると180～190cm台の超大型クラス、150～170cm台の大型クラス、110～140cm台の中型クラス、90～100cm台の小型クラスの土壙に分けられる。また、土壙床面の平面プランでは長方形、隅丸長方形、楕円形、細長の長方形の4タイプに分けられる。次に、土壙の断面プランでは壁面を垂直に掘り込む方形、掘り込み面から床面にかけて壁面を袋状に掘り込む台形、床面から壁面を外に広げて掘り込む逆台形のプランに分けられる。

大型の土壙墓には長方形プランで断面方形（SK 7、10）、断面台形（SK 16、30、46、49）、隅丸長方形プランで断面台形（SK 31、38）のものが見られる。中型の土壙墓には長方形プランで断面方形（SK 9、15、19、20、22、24～27、36、41～43、48、53）、断面台形（SK 12、34、37、39、45）、断面逆台形（SK 14、21、29、44）、隅丸長方形プランで断面台形（SK 40）、

断面逆台形（SK23、47）のものが見られる。なお中型の中には土壙確認面の周間に木蓋用の掘り込みを持つものも見られる（SK34、36、45）。小型の土壙墓には長方形プランで断面方形（SK13、32、33）、逆台形（SK35）、隅丸長方形プランで断面方形（SK43）、断面逆台形（SK18）、楕円形プランで断面逆台形（SK11、28）のものが見られる。なお、超大型クラスのSK55とSK56、SK55と切り合うSK54、さらに3段掘り込みの見られるSK57、斜めに掘り込んである円形プランの小型のSK58については、掘り込みや床面の状態が大半の土壙墓とは異なり土壙墓として扱うには疑問の残る遺構である。

（2）副葬品

58基の土壙墓のうち約22%にあたる13基から副葬品が出土している。1基あたりの副葬品の数は約2本である。副葬品をもつ土壙墓はほとんどが長方形プランで断面が台形ないしは方形を呈するものである。副葬品は剣や鐵の鉄器類と管玉である。剣は30cm前後の短剣で、副葬する4基のうち3基が剣1本のみ副葬する土壙墓である。（SK13、SK16、SK26）鉄鎌を副葬する土壙墓は9基で主頭鎌、柳葉鎌、無頭鎌、脇挟鎌で総数22～23本を数える。鉄鎌のみを副葬する土壙墓は8基で、SK1（主頭鎌）、SK28（不明）、SK32（柳葉鎌）、SK38（無頭鎌）では各1本、SK40（主頭鎌+矢柄）では2本、SK19（柳葉鎌+主頭鎌）では3本、SK5（柳葉鎌+脇挟鎌）では4本、SK48（柳葉鎌+主頭鎌+脇挟鎌）では8本を数える。SK5では剣と鉄鎌（主頭鎌と柳葉鎌）の組み合わせがみられる。また、SK2では管玉1点と矢柄片が出土しており鉄鎌との組み合わせが考えられる。

（3）群構造

土壙墓群の軸方向はN-80°-60°-Wに14基、N-50°-Wに4基、N-30°-10°-Wに7基、N-10°-30°-Eに13基、N-30°-60°-Eに9基、N-65°-Eに2基、N-15°-5°-Eに6基と示すようにほぼ全方向に見られるため上軸方向による群構造の検討は困難である。また、土壙墓の規模や平面プラン、断面プランによるグループ化も認められない。分布上の特徴としては木蓋土壙墓のSK1とSK2、SK3とSK4、SK5とSK6はそれぞれ対で分布していると思われる。この傾向は木蓋土壙墓も見られる。SK12とSK13、SK10とSK14、SK16とSK49、SK33とSK46、SK34とSK36、SK43とSK44、SK50とSK51などが考えられる。

（4）時期

何点か出土遺物に土器が見られるがいずれも板石積石室墓に伴う土器群からの流れ込みともいわれる。また、副葬品も鉄鎌と剣であり時期決定も困難である。鉄鎌の中には弥生時代

まで遡るものは見られない点や地下式横穴墓出土の鉄鎌群のうちA地区の1類や羨門閉塞の副葬品の鉄鎌と近いものも見られることから4世紀代の土壙墓群と思われる。しかし、群の成立と終焉については明確な資料は得られなかった。

3. 地下式横穴墓について

(1) 分類

検出された地下式横穴墓は閉塞方法の違いによって羨門閉塞の地下式横穴墓と竖坑上部閉塞の地下式横穴墓、さらに横口系の竖坑を持つ地下式横穴墓に分けられる。

横口系の竖坑を持つ地下式横穴墓（I類）

I類-A 横口系の竖坑を持つ地下式横穴墓で平入り・両袖で長方形もしくは隅丸長方形の玄室を持つ。玄室は大型の長方形プラン土壙墓の規模とほぼ同じで長軸辺側（横）に入口を持ち板閉塞である。竖坑から深道までの幅が一定で、成形された段を有し一段下に玄室を造る。竖坑は小型の半円形や長方形プランを呈する。閉塞構の有無によってさらに小分類される。

A-a 閉塞溝を床面に掘るタイプ（S T1002、S T1003）

A-b 閉塞溝を側壁に掘るタイプ（S T1001）。プラン的にはS T1002と類似する。

A-c 閉塞溝を持たないタイプ（S T1004、S T1005）。S T1004はプラン的にはS T1003と類似する。

I類-B 横口系の竖坑を持つ地下式横穴墓に類似しており平入りで隅丸長方形の玄室を持つ。羨門は片袖気味に造られており、長方形プランの竖坑を持つ。プラン的にはS T1003と類似する（S T1006、S T1008）。

羨門閉塞の地下式横穴墓（II類）

II類-A 羨門閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・格円形プランの玄室を持つ。玄室と竖坑の規模がほぼ同一で板閉塞の溝が羨門両壁に掘り込んである。（S T1007）

II類-B 羨門閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・隅丸方形プランの玄室を持つ。玄室の天井はアーチ状になる。

B-a 竖坑から玄室までの床面がフラットなタイプ（S T1017）。

B-b 羨道で段を有し緩やかな傾斜で玄室に向って下がるタイプ（S T1012、S T1019）。

B-c 竖坑から羨道にかけて傾斜するタイプ（S T1021、S T1022）。

B-d B-cのタイプだが竖坑が玄室より大きい（S T1018）。

II類-C 羨門閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・隅丸方形プランの玄室を持つ。玄室の天井が平らになる。豊坑から玄室までの床面がフラットである。(S T 1010、S T 1014、S T 1016、S T 2020)。

II類-D 羨門閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・円形ないし椭円形プランのを持つ。玄室の天井はアーチ状になると思われる。羨道部で不成形な段が有り玄室が一段下がある。(S T 1011、S T 1013、S T 1015、S T 1020)

II類-E 羨門閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖で長方形ないし隅丸長方形プランの玄室を持つ。豊坑と羨道の幅がほぼ一定である。

E-a 玄室までの床面がフラットなタイプ (S T 1009、S T 2008、S T 2011、S T 2016)。

E-b 豊坑が玄室より低いタイプ (S T 2022)。

II類-F 小型の羨門閉塞の地下式横穴墓で豊坑と玄室の規模がほぼ同じ。(S T 2021)
豊坑上部閉塞の地下式横穴墓 (III類)

III類-A 豊坑上部閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・長方形プランの玄室を持つ。

(S T 1025、S T 2002、S T 2009、S T 2012、S T 2013、S T 2017、S T 2019)。このうち、天井の残るS T 1025、S T 2002、S T 2009の3基は天井が屋根型を呈する。

III類-B 豊坑上部閉塞の地下式横穴墓で平入り・両袖・椭円形プランの玄室を持つ。

(S T 1024、S T 1026、S T 2001、S T 2003～S T 2005、S T 2012、S T 2014、S T 2015、S T 2018、S T 2024、R T 2026、S T 2027～S T 2029)。S T 1026とS T 2010は片袖タイプである。

III類-C 豊坑上部閉塞の地下式横穴墓で平入り・椭円形プランの玄室を持つ。玄室の天井がアーチ状になる。片袖に近いタイプである。(S T 2006、S T 2013)

III類-D 豊坑上部閉塞の地下式横穴墓で平入り・片袖・長方形ないしは台形プランの玄室を持つ。玄室の天井が平造りとなる。(S T 2006、S T 2007、S T 2023)

(2) 副葬品

A 地区では26基の地下式横穴墓のうち約58%にあたる15基に副葬品が見られる。このうち、I類・II類の地下式横穴墓では23基のうち13基で見られる。B 地区では29基のうち約65%にあたる19基で見られる。このうちIII類の地下式横穴墓では23基のうち17基にあたる。墓地全体ではI類とII類の29基のうち15基(約52%)、III類の26基のうち19基(約73%)で見られる。1基あたりの副葬品の数量はI類とII類で約2.4本であるのに対してIII類で約6.8本と圧倒的に多い。

また、器種別で見ると蕨地区全体では鎌が最も多く71%、剣が22%、刀が3%、鉢が2%、刀子が2%となる。これをⅡ類とⅢ類の別でみると、Ⅱ類では鎌が71%、剣が29%で刀・鉢・刀子は0%となる。一方、Ⅲ類では鎌が71%、剣が21%、刀が4%、鉢が2%、刀子が2%となる。このうち、鉄鎌は主頭鎌、無頭鎌、柳葉鎌、腸抉鎌、長頭鎌が見られる。器形の判別できる108点（Ⅱ類23点、Ⅲ類85点）についてその割合を見ると、主頭鎌が50%（Ⅱ類40%、Ⅲ類53%）、無頭鎌が6%（Ⅱ類28%、Ⅲ類0%）、柳葉鎌が3%（Ⅱ類12%、Ⅲ類0%）、腸抉鎌が16%（Ⅱ類16%、Ⅲ類16%）、長頭鎌が23%（Ⅱ類0%、Ⅲ類29%）、その他2%（Ⅱ類0%、Ⅲ類2%）と言う結果が出た。この結果から見るとⅡ類・Ⅲ類とも割合の最も多い鉄鎌は主頭鎌で50%前後を占めている。次に、Ⅱ類では無頭鎌の比率が多く柳葉鎌や腸抉鎌も見られる。一方、Ⅲ類では主頭鎌のつぎに長頭鎌が多く腸抉鎌を含めた3種類でほとんどを占める。Ⅱ類で見られた無頭鎌や柳葉鎌は全く含まれていない。

次に、副葬品の組み合わせを見ると、Ⅱ類では鉄鎌のみ（4基）や剣のみ（5基）など1種類の鉄器を副葬するものが多く見られる。その他、鉄鎌と剣（2基）、鉄鎌と鉢（1基）など2種類の鉄器を副葬するものも見られる。一方、Ⅲ類では鉄鎌のみ（5基）や剣のみ（2基）のものも見られるが、鉄鎌と剣との組み合わせが9基と最も多い。鉄鎌と刀との組み合わせは1基と少ない。また、鉄鎌・剣・刀（2基）の組み合わせ。鉄鎌・刀・鉢（1基）の組み合わせ。鉄鎌・剣・刀・刀子・鉢（1基）の組み合わせなど多種類の副葬が見られる。

（3）群構造

まず、地下式横穴墓の主軸方向について見ると、Ⅲ類の分布に規則性が見られる。A地区・B地区ともN-30°WからN-20°Eにかけての磁北を中心とした約50°の幅に集中している。つまりA地区では北側が微高地になっているため低位に竪坑を掘り込み高位方向に玄室を造る。一方、B地区では南側が微高地となっているため高位に竪坑を掘り込み低位方向に玄室を造る構造となっている。

Ⅱ類ではⅢ類で見られる様な主軸方向に規則性は見られないが、A地区では磁北を中心にN-50°WからN-50°Eの間の約100°の幅に主軸方向を持つものが多く見られる。地形的には標高の低い方に竪坑を掘り込み標高の高い方向に玄室を造る形となる。B地区では6基のうちそれぞれ2基づつが西方方向（W-0°-N-W-10°-N）、東方向（E-20°-W-E-10°-S）、北方向（N-0°-W-N-20°-W）に主軸方向を持つ。

次に分布状況を見ると、A地区ではⅡ類の地下式横穴墓に3つのグループ化が見られる。第1グループは北西遺構群の西側にS T 1010～S T 1012、S T 1001～S T 1005、S T 1007の

9基が属するがグループの東側にⅠ類の地下式横穴墓6基(S T 1001～S T 1005、S T 1007)が集中する。また、Ⅰ類の分布のなかでS T 1003とS T 1004、S T 1002とS T 1001といった組み合わせで同型の地下式横穴墓がそれぞれ隣接する。第2グループは東側にS T 1013～S T 1018、S T 1006、S T 1008、S T 1009の9基が属する。グループ内に並列する形でⅠ類の地下式横穴墓2基(S T 1006とS T 1008)が混在する。また、Ⅱ類の地下式横穴墓の中にもS T 1016とS T 1017が向い合って隣接しておりおそらく同一の盛土を共有していたと思われる。遺構群の南側に分布する第3グループにはS T 1019～S T 1022の4基が属する。4基ともⅡ類の地下式横穴墓で主軸を北方向にする。

B地区ではⅡ類とⅢ類の地下式横穴墓が混在するがⅢ類が主軸をほぼ北を向くに対し、Ⅱ類は遺構群の東側に固まっており主軸も北、東、西と3方向に持つことなどからⅢ類のグループとは別のグループと思われる。一方、Ⅲ類の分布のなかではⅢ類-CやⅢ類-Dが東側に見られるがⅢ類-AやⅢ類-Bは全体に分布する。これを鉄鎌の組み合わせで見ると、生頭鎌のみのものが遺構全域で見られるが、脇抉鎌だけのもの、脇抉鎌と生頭鎌の組み合わせのもの、さらには生頭鎌と長頭鎌の組み合わせのものは東側にしか見られない。長頭鎌のみのS T 2029は遺構群の西端に見られる。西側については末掘の地下式横穴墓も多く分布の状況については明確ではない。東側については全体的な群構造の状況は判断し難いがS T 2029とS T 2019、S T 2004とS T 2005、S T 2007とS T 2006など地下式横穴墓の構造や副葬品の組み合わせの類似する2基から3基の一群が数箇所に見られる。

(4) 時期

地下式横穴墓の時期の判定には玄室上部や竪坑および周辺出土の土器や副葬品の鉄鎌がキーワードになる。

地下式横穴墓関連出土の土器にはS T 1001の高环(第105図52)、S T 1003の長頭壺(第104図39)、S T 1007の長頭壺(第104図37)、S T 1015の壺(第101図8・第102図17)・高环(第105図56・57)がある。これら土器から地下式横穴墓の時期を判断すると、S T 1001・S T 1003・S T 1007出土の土器が板石積石室墓周辺の土器群と類似しており板石積石室墓との関係が考えられる。このうち長頭壺は全体的に土器群出土のものに近いが、高环については土器群上のものより环部の底が浅く口縁部の広がりの反りも見られなくなるなど新しい様相が見られ、4世紀後半の時期に相当すると思われる。S T 1015出土の土器群の中には、かなり深い环部を持つ高环や比較的とがり気味の丸底を持つ壺など5世紀代の様相を持つ土器が見られる。

副葬される鉄鎌から地下式横穴墓の時期を判断すると、A地区では無頭鎌と小型の脇挟鎌を副葬する狭門閉塞の地下式横穴墓の一群（a群）がある。B地区では竪坑上部閉塞の地下式横穴墓の中に長めの脇挟鎌と中型の主頭鎌を副葬する一群（b群）、小型の主頭鎌と中型の主頭鎌を副葬する一群（c群）、中型の主頭鎌と長頭鎌を副葬する一群（d群）、さらに長頭鎌のみを副葬する一群（e群）等がある。副葬されている鉄鎌の組み合わせからa群→c群・b群→d群→e群という変遷も考えられる。

4. 藩地区における古墳時代墓制について

土壙墓は縄文時代から見られるごく一般的な墓制、板石積石室墓は4～5世紀に熊本県南部の球磨川流域以南から鹿児島県北部の川内川流域以北に分布する特異な墓制、また、地ド式横穴墓も5世紀後半から6世紀代に宮崎県中央部の一つ瀬川流域以南から鹿児島県東部の大隅地方の一部に見られる特異な墓制である。小木原遺跡の位置する加久藤盆地は前方後円墳や横穴の分布は見られないが、板石積石室墓分布圏の東限であり、また地下式横穴墓分布圏の西限として両墓制が共存する地域として注目されている。しかし、これまで、両墓制が同一遺跡から発見された例は少なく、今回的小木原遺跡で発見された両墓制の研究に良好な資料と言える。しかも、土壙墓も混在して発見されており弥生時代から古墳時代にかけての墓制を考える上で重要な資料である。しかし、副葬品が鉄器のみであり、土壙墓や板石積石室墓の中には副葬品を持たないものが多く見られることなど時期判定が困難である。

A地区に分布する土壙墓群の時期は副葬品の中に見られる古手の鉄鎌が見られないことから古墳時代前期（4世紀）のものと思われる。

A地区に分布する板石積石室墓群の時期は供獻土器や無頭鎌（S I 103）、方形プランと円形プランの混在、円形プランへの移行期をうかがわせる方形プランの存在などから古墳時代前期（4世紀中葉）のものと思われる。

A地区とB地区に分布する地下式横穴墓群のうち、A地区では狭門閉塞（Ⅱ類）のタイプが3つのグループに分れて分布しており、第1、第2グループでは横口系の竪坑を持つI類のタイプが混在する。I類のタイプを除くA地区的狭門閉塞の地下式横穴墓は副葬品に無頭鎌のほか小型の脇挟鎌や柳葉鎌が見られる一方長頭鎌や中型の主頭鎌が全く見られないことや第2グループ内のS T1015号出土の土器の時期などから古墳時代中期後半（5世紀後半）に形成されたものと思われる。一方、I類のタイプは出土土器が板石積石室墓群の供獻土器に類似するが若干新しい様相を合せ持っている点や鉄鎌に同じA地区的Ⅱ類の地下式

横穴墓群に副葬される鉄鎌と極端な違いが認められないことなどから古墳時代前期後半（4世紀後半）には成立していたものと思われる。

B地区に分布する豊坑上部閉塞（Ⅲ類）の地下式横穴墓群はB地区全域に分布しており、無頭鎌のほか小型の脇抉鎌や柳葉鎌などA地区のⅡ類の地下式横穴墓群で見られる鉄鎌が全く副葬されていないことからA地区のⅡ類の地下式横穴墓群より若干新しい様相が考えられる。また、副葬品の中に長頭鎌や中型の主頭鎌、さらに大型の脇抉鎌が見られることからB地区的豊坑上部閉塞の地下式横穴墓群は古墳時代中期後半から後期前半（5世紀終末から6世紀）に形成されたものと思われる。

以上、各墓制とそれぞれの分布域の時期設定を行なってみたが、蔵地区A・B地区における墓域の変遷としては4世紀代を通じてA地区において土壙墓群が形成される。その中葉には土壙墓群内に板石積石室墓が導入されるが、墓群の形成は短期間で終了する。A地区的墓制は土壙墓群や板石積石室墓群に代わって4世紀後半には横口系の豊坑を持つⅠ類の地下式横穴墓が形成される。その後、5世紀後半になると土壙墓群や板石積石室墓群の南側にⅡ類の地下式横穴墓群が形成され、墓域はさらにA地区的南へと延びていく。そして一部はB地区的東側にもⅡ類の地下式横穴墓群が形成される。そして5世紀末から6世紀後半にかけてB地区とA地区的南端の一部にⅢ類の地下式横穴墓群が形成される。その中でB地区的墓域は東側から西側に形成されていく傾向が見られる。

小木原地下式横穴墓群では墓域の西部に小木原1号地下式（5世紀後半）・小木原3号地下式（5世紀後半～末）・小木原古墳（5世紀末～6世紀初頭）など首長クラスの墓が分布する支群がある。蔵地区は墓群域の東端にあたり、副葬品から見ても現段階では有力家長父クラスの突出の見られない均質的な群集墓としての位置付けができるところから、墓群西部の首長墓クラスを擁する支群とは別の蔵支群の形成も考えられる。小木原地下式横穴墓群の南には6世紀前半を中心とする馬頭地下式横穴墓群と6世紀中頃を中心とする久見追地下式横穴墓群が分布しており小木原地下式横穴墓群→馬頭地下式横穴墓群→久見追地下式横穴墓群という墓群の成立過程の変遷がうかがわれる。

5. おわりに

今回の報告で「横口系の豊坑を持つ地下式横穴墓」として取上げた墓制は、概要報告では長方形もしくは隅丸長方形の土壙の長軸辺側に長方形や半円形の横口をもつ遺構を仮称ではあるが「横口式土壙」とした。いわゆる福岡平野を中心に弥生時代中期後半から後期前半の

カメ棺墓の中に見られる「横口式土壙」との関連が考えられたからである。しかし、基本的には地下式横穴墓の構造を有しており、福岡平野を中心に見られる「横口式土壙」と名称の混乱を避けるため本報告では「横口系の豊坑を持つ地下式横穴墓」として地下式横穴墓の一つ形式とした。この地下式横穴墓は玄室の形式が大型の長方形プランの土壙墓と同規模である点。玄室より上段に設けた豊坑は玄室の後に掘り込んである点。玄室床面のレベルが他の地下式横穴墓より浅く土壙墓の床面と同レベルである点。玄室内の埋土中に天井部の落込みと思われる土塊や層が見られず天井部の板蓋閉塞も考えられる点などから狭門閉塞や豊坑上部閉塞の地下式横穴墓とは別の一つ形式とした。しかし、地式横穴墓の祖元と考えるにはあまりにも早急で、資料的に貧弱である。現段階では、熊本地方に源流の見られる板石積石室墓の分布圏に加久藤盆地が含まれるように、北部九州に見られる「横口式土壙」、「九州型横穴式石室」、「豊穴系横口式石室」や熊本地方に見られる「肥後型横穴式石室」などの影響を受けた地域的な墓制と考えたい。さらに、この「横口系の豊坑を持つ地下式横穴墓」は乙益重隆氏の地下式横穴墓分類のなかの「大隅半島や大口盆地にしばしば見られる退化した形態」として捉えられているV型のタイプと類似点も見られることから従来の分類の範疇にはいる可能性も残している。また、出土した高杯や長頸壺などからこのタイプの時期設定をしだが、その出土状況について流れ込みの可能性も十分に考えられることから、今後、類例の資料の増加を待ってこのタイプの位置付けと時期設定を考えてみたい。

参考文献

- (1) 石川恒太郎「地下式古墳の源流」『考古学研究』30—2 1983
- (2) えびの市教育委員会「えびの市遺跡詳細分布調査報告書」「えびの市埋蔵文化財調査報告書」「えびの市埋蔵文化財調査報告書」第1集 1985
- (3) えびの市教育委員会「永田原遺跡」「えびの市埋蔵文化財調査報告書」第2集 1988
- (4) えびの市教育委員会「小木原遺跡群・蕨地区」「えびの市埋蔵文化財調査報告書」第3集 1988
- (5) えびの市教育委員会「小木原遺跡群・久見追・地主原地区」「えびの市埋蔵文化財調査報告書」第4集 1989
- (6) 大字陀町教育委員会「北原古墳」「大字陀町文化財調査報告書」第1集 1986
- (7) 大口市教育委員会「瀬ノ上遺跡、平田遺跡」「大口市埋蔵文化財調査報告書」第2集 1986
- (8) 小都市教育委員会「横隈孤塚遺跡Ⅱ」「小都市文化財調査報告書」第27集 1985
- (9) 乙益重隆「南九州における部族と墓制 古墳時代の終焉にむけて」「えとのす31 古代日向人の生活空間」1986
- 10 川南町教育委員会「上ノ原遺跡」川南町文化財調査報告4 1986

- (1) 木崎原操「小木原古墳群調査報告」第2報～第7報『えびの』第2号～第8号 1971～1975
- (2) 茂山義「二段逆刺を有する鉄劍について」『宮崎県立総合博物館研究紀要』第5集 1980
- (3) 新富町教育委員会「川床遺跡」「新富町埋蔵文化財調査報告書」第3集 1985
- (4) 柳山秀宏「古墳時代の鉄劍について」『恒原考古学研究所論集第八』1988
- (5) 高木泰二「圭頭斧箭再考」「肥後考古」第2号 1982
- (6) 西健一郎「地下式板石横石室墓の基礎的研究」「九州文化史研究所紀要第33分」1988
- (7) 西健一郎「地下式板石横石室墓出土鉄劍の編年的検討」「鹿児島考古」第22集 1988
- (8) 西谷正「日向の古墳文化における大陸系要素」「えとのす31 古代日向人の生活空間」1986
- (9) 日高正晴「日向地方における地下式墳の編年的考察」「考古学叢考」下巻 吉川弘文館 1988
- (10) 福岡市教育委員会「西新町遺跡」「福岡市埋蔵文化財調査報告書」第79集 1982
- (11) 北郷泰道「南境の氏の墓制」「えとのす31 古代日向人の生活空間」1986
- (12) 宮崎県教育委員会「香樟寺遺跡」「宮崎県文化財調査報告書」第4輯 1959
- (13) 宮崎県教育委員会「久見迫、馬頭遺跡」「小木原遺跡」「小木原古墳、地下式A形墳」「灰塚遺跡」「九州縦貫自動車道埋蔵文化財調査報告書」(1) 1972
- (14) 宮崎県教育委員会「えびの町真幸、島ノ内地下式横穴」「宮崎県文化財調査報告書」第12輯 1967
- (15) 宮崎県教育委員会「えびの町平松の地下式古墳調査報告」「宮崎県文化財調査報告書」第14輯 1969
- (16) 宮崎県教育委員会「えびの市島ノ内地下式古墳調査報告」「宮崎県文化財調査報告書」第16集 1971
- (17) 宮崎県教育委員会「大萩遺跡1」「大萩遺跡2」「瀬戸ノ口地区特殊農地保全事業に伴う埋蔵文化財調査報告書」1974、1975
- (18) 宮崎県教育委員会「旭台地下式古墳群発掘調査」「宮崎県文化財調査報告書」第19集 1977
- (19) 宮崎県教育委員会「平松地下式古墳発掘調査」「宮崎県文化財調査報告書」第20集 1978
- (20) 宮崎県教育委員会「平松地下式古墳発掘調査」「日守地下式横穴発掘調査」「宮崎県文化財調査報告書」第22集 1980
- (21) 宮崎県教育委員会「日守地下式横穴発掘調査」「宮崎県文化財調査報告書」第23集 1981
- (22) 宮崎県教育委員会「日守地下式横穴発掘調査」「宮崎県文化財調査報告書」第24集 1982
- (23) 宮崎県教育委員会「前原南遺跡」「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書」第4集 1988
- (24) 宮崎県考古学会、鹿児島考古学会「地下式横穴墓から見た古墳時代」資料 1986
- (25) 森下浩行「九州型横穴式石室考」「古代学研究」115号

表5 板石積石室墓（S I）一覧表

No.	プラン	規 模 (cm)			使 用 石 材	石 材 枚 数	主 軸	出 土 品	備 考
		長 軸	短 軸	深 さ					
101	円 形?	100	100	(20)	—	—	—	—	
102	円 形	170	170		長軸継ぎ	13	—	1	
103	円 形	170	150		長軸継ぎ	14	—	1	
104	長 方 形	92	78	(23)	長軸継ぎ (?)	13~14	N-80°-W		
105	方 形	150	150		長軸継ぎ	13~14			
106	円 形?	(90)		—	長軸継ぎ		—		
107	方 形	90	70	(10)		—	—		
108	方 形	78	78	(20)	—	—	—		

表6 土壙墓（SK）一覧表(1)

No.	種 類	プラン	主 軸	規 模 (cm)			副 修 品			備 考
				長 軸	短 軸	深 さ	鐵	劍	その他の	
1	木 構 築	長 方 形	N-25°-W	154	66	(10)	1			(12)
2	*	*	N-62°-W	165	74	(20)	1		管玉	(13)
3	*	*	N 24° E	134	(80)	(30)				(19)
4	*	*	N-17°-E	190	98	(10)				(23)
5	*	*	X-15°-W	115	(75)	(35)	4		土師器?	(30)
6	*	*	N 23° W	110	70	(12)				(34)
7	木 葦 土 壙 墓	長 方 形	N-30°-W	145	68	(58)	2	1		(1)
8	*	馬 尾 長 方 形	N-40°-E	113	56	(30)				(4)
9	*	長 方 形	N-15°-E	118	52	(46)				(5)
10	*	*	N-80°-W	150	60	(30)				(6)
11	*	檜 円 形	N-35°-E	102	46	(13)				(7)
12	*	長 方 形	N-72°-W	138	74	(40)				(9)
13	*	長 方 形	N-75°-W	104	52	(46)				(8)
14	*	*	N-82°-W	125	60	(23)				(10)
15	*	長 方 形	N-77° E	121	63	(34)				(11)
16	*	*	N-14°-E	152	70	(48)	1			(14)
17	*	*	N-75°-E	148	67	(48)				(15)
18	*	馬 尾 長 方 形	N-48°-W	105	55	(47~63)				(16)
19	*	長 方 形	N-11°-E	133	70	(30)	3			(17)
20	*	*	N 67° W	125	58	(42)				(18)
21	*	*	N-7°-E	113	65	(20)				(21)
22	*	*	N-27°-E	123	70	(20)				

表7 土壌墓(SK)一覧表(2)

No.	種 種	ブ ラ ン	モ リ	規 模 (cm)			副 葵 品			備 考 (仮番号)
				長軸	短軸	深さ	鐵	銅	その他	
23	木蓋土塚墓	隅丸長方形	N-67'-W	114	55	(23)				(22)
24	*	長 方 形	N-19'-E	125	67	(50)				(25)
25	*	*	N-72'-W	128	60	(50)		1		(28)
26	*	*	N-9'-W	135	71	(50)				(29)
27	*	長 方 形	N-22'-E	121	81	(56)				(31)
28	*	椭円形	N-65'-E	100	61	(40)	1			(32)
29	*	長 方 形	N-45'-W	120	48	(23)				(33)
30	*	長 方 形	N-54'-E	162	88	(44)				—
31	*	隅丸長方形	N-53'-W	160	60	(58)				(35)
32	*	長 方 形	N-50'-E	102	56	(70)	1			(38)
33	*	長 方 形	N-64'-E	93	54	(32)				(39)
34	*	*	N-85'-E	132	62	44				木蓋用埋り込み有
35	*	長 方 形	N-75'-W	93	41	34				(42)
36	*	長 方 形	N-47'-E	113	51	40				木蓋用埋り込み有
37	*	長 方 形	N-11'-E	128	67	(54)				(40)
38	*	隅丸長方形	N-68'-W	155	80	(60)	1			(24)
39	*	長 方 形	N-50'-E	125	52	S2				木蓋用埋り込み有
40	*	隅丸長方形	N-76'-E	135	67	(52)	1~2			(45)
41	*	長 方 形	N-25'-E	(120)	66	46		1		(48)
42	*	*	N-33'-E	118	67	(64)				(49)
43	*	隅丸長方形	N-80'-W	100	53	(30)				(50)
44	*	長 方 形	N-13'-E	110	50	(16)				(51)
45	*	*	N-60'-W	123	72	(24)				(52)
46	*	長 方 形	N-40'-E	160	77	(40)				(53)
47	*	隅丸長方形	N-78'-E	125	40	(28)				(56)
48	*	長 方 形	N-63'-W	118	75	(15)	8~9			(60)
49	*	*	N-16'-E	146	66	(42)				(42)
50	*	—	(N-15'-E)	—	60	(26)				(47)
51	*	—	(N-25'-E)	—	71	(18)				(46)
52	*	—	N-49'-W	155	70	(48)				(27)
53	*	長 方 形	N-33'-E	183	82	(57)				—
54	*	隅丸長方形	N-80'-E	93	43~26	(27)				—
55	*	細長方形	N-75'-W	(192)	31	(26)				—
56	*	*	N-32'-W	198	35	(36)				—
57	*	椭円形	N-20'-W	164	74	(20~50)				—
58	*	円 形	—	74	62	(70)				—

表 8 地下式機穴墓 (ST) 一覧表(1)A 地区

No.	位置	主軸	支軸	支軸アラン	大井	支室距離 (cm)	山	土	品	骨	備	考
1001	横口系	S-45°-W	平入り	両袖	アラン	無井	幅	万才	刀	劍	鉢	(62)
1002	横口系	S-45°-W	*	*	*	*	*	70	160	(35)	*	(61)
1003	横口系	N-65°-W	*	*	*	*	*	85	155	(70)	3	(3)
1004	横口系	S-35°-W	*	*	*	*	*	90	180	(35)	*	(2)
1005	横口系	S-45°-W	*	*	*	*	*	110	135	(50)	1	長官室廻り壁?
1006	横口系	S-8°-W	*	*	*	*	*	85	126	(50)	*	(63)
1007	横門	S-25°-E	*	*	側円形	*	*	60	155	(45)	*	(59)
1008	横口系	S-15°-E	*	*	長方形	*	*	90	155	(80)	1	(64)
1009	横門	S-52°-E	*	*	*	*	*	80	150	(70)	*	(37)
1010	横門	N-35°-W	*	*	側円形	*	*	65	153	—	*	(1001)
1011	横門	S-65°-W	*	*	円形	*	*	123	150	65	1	(1002)
1012	横門	S-42°-W	*	*	側円形	*	*	132	176	32	1	(1003)
1013	横門	S-45°-W	*	*	*	*	*	139	169	—	*	(1004)
1014	横門	S-47°-E	*	*	長方形	*	*	95	145	56	2	(1005)
1015	横門	S-35°-W	*	*	側円形	*	*	137	182	—	5	(1006)
1016	横門	S-11°-E	*	*	*	*	*	110	153	56	1	(1007)
1017	横門	S-7°-W	*	*	*	*	*	129	166	68	3	(1008)
1018	横門	N-43°-W	*	*	*	*	*	84	166	—	*	(1009)
1019	横門	S-12°-W	*	*	*	*	*	110	173	66	1	(1010)
1020	横門	S-2°-E	*	*	*	*	*	146	169	—	1	4
1021	横門	S-8°-W	*	*	*	*	*	140	210	90	*	(1011)
1022	横門	S-25°-W	*	*	*	*	*	130	220	—	2	(1012)
1023	横門	S-21°-W	*	*	*	*	*	135	183	—	2	(1013)
1024	堅底	S-15°-W	*	*	*	*	*	144	194	—	*	(1014)
1025	堅底	S-17°-E	*	*	*	*	*	142	200	70	1	(1015)
1026	堅底	S-27°-E	*	*	*	*	*	160	200	—	4	(1016)

表9 地下式横穴墓(ST)一覧表(2)B地区

No.	前 墓	左 墓	右 墓	玄室アラシ	天井	支室横幅(cm)	出 口	土 壁	蓋
2001	埋 焼	S - 30° - E	平入り	両 壁	プララン	美琴形	切妻?	180	-
2002	埋 焼	S - 5° - W	+	*	長方形	切妻?	122	176	1
2003	埋 焼	S - 12° - E	+	*	斜円形	X	120	176	1
2004	埋 焼	S - 5° - E	+	*	斜円形	X	106	145	2
2005	埋 焼	S - 22° - W	+	*	斜円形	X	180	210	1
2006	埋 焼	S - 16° - W	+	*	斜円形	X	205	225	2
2007	埋 焼	S - 13° - W	+	*	斜円形	X	185	208	5
2008	埋 門	S - 71° - W	+	*	斜円形	X	134	171	6
2009	埋 焼	S - 18° - E	+	*	斜円形	X	80	144	1
2010	埋 門	S - 4° - W	+	*	斜円形	X	160	205	1
2011	埋 門	S - 86° - E	+	*	斜円形	X	122	210	1
2012	埋 焼	S - 1° - W	+	*	斜円形	X	88	164	1
2013	埋 焼	S - 6° - W	+	*	斜円形	X	164	217	1
2014	埋 焼	S - 3° - W	+	*	斜円形	X	200	238	5
2015	埋 焼	S - 14° - W	+	*	斜円形	X	146	214	7
2016	埋 門	S - 6° - W	+	*	斜円形	X	140	201	2
2017	埋 焼	S - 1° - W	+	*	斜円形	X	98~36	166	1
2018	埋 焼	S - 13° - W	+	*	斜円形	X	182	213	1
2019	埋 焼	S - 3° - W	+	*	斜円形	X	110	190	6
2020	埋 門	S - 14° - W	+	*	斜円形	X	150	210	4
2021	浅 門	S - 89° - E	+	*	不定形	X	128	200	1
2022	埋 門	S - 88° - E	+	*	斜円形	X	90	162	1
2023	堅 燃	S - 2° - E	片 壁	*	斜	X	190	176	1
2024	堅 燃	S - 8° - W	平入り	両 壁	*	X	120	175	1
2025	堅 燃	—	—	*	*	X	—	200	3
2026	堅 燃	S - 1° - E	*	*	*	X	150	180	10
2027	堅 燃	S - 10° - W	*	*	*	X	170	235	1
2028	堅 燃	S - 2° - W	*	*	*	X	160	194	4
2029	堅 燃	S - 19° - E	*	*	*	X	135	212	1
								10~	

表10 刀子、剣、刀、鉗一覧表(1)

固面 番号	通 標名	種類	全 長	刃 部			柄 部 及 葵 部			備 考
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	
4	S K 7	劍	(23.9)	(20.1)	2.9	0.5	柄 茎 3.8	2.0	0.4	
7	S K 16	*	(26.3)	(20.5)	2.6	0.6	柄 茎 5.8	2.0	(1.0)	
15	S K 26	*	(30.8)	27.8	2.4	0.6	柄 茎 (1.2)	2.0	0.5	
12	S K 49	*	(15.0)	(15.0)	3.0	0.4				
36	S T 1008	*	(31.9)	26.6	3.1	0.7	柄 茎 (8.3)	1.9	0.4	
37	S T 1011	*	(21.8)	(21.8)	2.7	0.4				
47	S T 1016	*	(43.0)	36.4	3.2	0.7	柄 (2.5) 茎 (6.6)	(3.1)	(2.0)	
51	S T 1023	*	29.7	20.5	2.6	0.6	柄 茎 9.2	1.5	0.5	
52	S T 1023	*	(25.2)	23.3	2.8	0.5	柄 茎 (1.9)	(2.1)	(0.7)	
54	S T 1020	*	24.5	18.4	3.8	0.6	柄 茎 6.1	1.0	0.3	
59	S T 1022	*	40.2	30.4	3.0	0.6	柄 茎 9.8	1.7	0.4	
60	S T 1022	*	(49.3)	(49.3)	3.4	0.6				
63	S T 1025	*	70.8	55.0	3.9	0.7	柄 茎 15.8	2.8	1.9	
64	S T 1026	*	47.5	35.9	3.0	0.3	柄 茎 11.6	1.7	0.6	
65	S T 1026	*	(22.5)	18.8	3.6	0.4	柄 茎 (3.7)			
66	S T 1026	*	(28.5)	18.4	3.4	0.5	柄 (10.1)	2.1	1.6	
67	S T 1026	*	(43.7)	(33.2)	2.9	0.5	柄 7.6 茎 (10.5)	4.0	1.2	
70	S T 2001	*	51.0	49.7	2.5	0.5	柄 (8.2) 茎 10.3	2.8	0.4	
75	S T 2002	*	69.3	53.8	4.2	0.8	柄 (7.0) 茎 15.5	(4.2)	(2.3)	
76	S T 2004	直刀	48.1	68.0	2.8	0.7	柄 (11) 茎 14.8	2.0	0.6	
77	S T 2004	劍		14.5	1.7	0.4	柄 (1.8) 茎 1.0	1.5	1.8	
78	S T 2004	刀子	(5.6)	(5.6)	2.1	0.5	柄 茎			
79	S T 2004	劍	54.4	4.3	3.7	0.7	柄 茎 13.2	1.8	0.7	
88	S T 2007	直刀	39.3	30.6	2.8	0.6	柄 (9.3) 茎 8.7	5.2	(2.9)	
90	S T 2007	鉗	23.1	8.5	2.2	0.9	柄 茎 16.6	3.0	2.7	
95	S T 2010	劍	66.1	55.4	3.6	0.8	柄 茎 10.7	1.7	0.6	施角:長さ(1.4) 幅 3.8 厚さ 2.7 木質:枝さ 1.1 幅 2.2 厚さ 1.1
96	S T 2010	直刀	85.0	71.2	3.1	0.8	柄 茎 14.6	2.2	0.7	
97	S T 2010	鉗	41.6	23.7	3.3	0.7	柄 茎 17.8	3.4	2.6	
98	S T 2010	刀子	12.0	9.0	2.0	0.5	柄 3.5 茎 2.5	2.3	1.8	
102	S T 2011	鉗	31.2	14.7	3.4	0.9	柄 茎 16.5	3.2	3.3	

表11 刀子、剣、刀、鉢一覽表(2)

番号	通 標 名	種類	全 長	刃 部			柄 部 及 直 部			備 考
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	
106	S T 2012	劍	(33.1)	33.1	2.9	0.5	柄 茎			
107	S T 2012	直刀	25.5	19.8	2.2		柄 5.8 茎 5.7	2.5	1.5 0.5	
116	S T 2013	劍	35.9	25.1	2.7	0.7	柄 2.0 茎 10.7	3.0	1.8	
117	S T 2013	*	62.4	49.0	3.5	0.5	柄 茎 13.4	1.8	0.4	鹿角部分：長さ 1.4 幅 3.9 厚さ 2.6 木質 *：長さ11.8 幅3.0 厚さ 1.9
118	S T 2013	*	73.4	55.9	3.6	0.6	柄 茎			鹿角部分：長さ 2.8 幅 5.5 厚さ 2.8 木質部分：長さ13.8 幅 3.8 厚さ 2.5
119	S T 2013	*	55.2	47.0	3.2	0.6	柄 5.6 茎 12.8	3.5 2.0	2.0 0.4	
130	S T 2014	*	59.3	48.8	3.5	0.7	茎 11.5	2.2	0.6	
131	S T 2014	*	40.8	33.5	3.0	0.6	柄 7.3 茎	4.5 1.1	1.8 0.2	
133	S T 2014	*	42.0	36.2	2.6	0.6	柄 茎 (5.9)	2.2	0.8	
136	S T 2014	*	27.1	21.0	3.3	0.5	柄 6.1 茎	3.8	1.1	
141	S T 2015	*	24.4	19.5	3.2	0.5	柄 茎 4.9	2.3	0.7	
142	S T 2015	*	(23.7)	(17.6)	2.4	0.5	柄 6.1 茎 6.1	2.5 2.1	1.1 0.5	
143	S T 2017	*	72.8	62.9	3.9	1.0	柄 9.9 茎	4.2	3.4	
146	S T 2018	*	(11.4)	(11.4)	1.8	0.4	柄 茎			
157	S T 2020	*	(38.5)	33.4	3.3	0.6	柄 (4.0) 茎 (5.1)	3.5 1.8	1.7 0.7	
158	S T 2026	*	(25.2)	(19.6)	4.4	0.6	茎 5.6	2.7	1.0	
166	S T 2025	*	58.6	49.5	3.1	0.7	柄 7.0 茎 9.0	2.0 1.5	1.0 0.4	
167	S T 2025	*	(48.1)	(48.1)	2.7	0.5	柄 茎			
170	S T 2025	*	42.2	31.2	3.7	0.5	柄 茎 11.0	2.4	0.6	
179	S T 2027	*	70.3	59.0	3.4	0.7	柄 茎 11.3	1.8	0.5	

表12 鉄錠一覧表(1)

回面 番号	機 構 名	鉄錠形式	全長(cm)	鍵 周			頭 部			茎 部			尖柄 径	重さ (kg)	備 考	
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ				
1	S I 102	M 1	3.1	3.1	2.1	0.2								3		
2	S I 102		(2.5)				(2.5)							(1)		
3	S I 103	K 3	6.6	2.5	2.5	0.3				3.0	0.5	0.4		9.5		
5	S K 7	R 1	8.8	4.3	1.7	0.3				4.5	0.8	0.8	0.8	8.5		
6	S K 7	K 3	5.6	2.8	2.2	0.2				2.1	0.7	0.2		5.5		
8	S K 19	K 2	9.3	5.8	(1.9)	0.3				3.4	0.6	0.4		11.0		
9	S K 19	R 1	6.4	3.7	1.6	0.2				2.6	0.5	3.5	0.8	6.5		
10	S K 19	K 3	5.1	2.5	1.8	0.3				2.6	0.6	0.5	0.8	5.5		
11	S K 38	M 3	6.2	4.9	2.4	0.1								1.1	8	
13	S K 32	R 1	9.8	6.1	2.0	0.3				3.6	0.6	0.4	0.8	11.5		
14	S K 28	—	(7.0)	(3.1)	2.2	0.3				3.8	0.6			(10.0)		
16	S K 40	K 2	(11.0)	7.5	3.3	0.3				(3.5)	(0.6)	(0.4)	1.1	(22.5)		
17	S K 40	—	(4.8)							2.9			1.0	(13.5)		
18	S K 5	Y r 3	16.1	12.0	2.2	0.4				3.7	0.7	0.4	0.9	36.0	頭部不明	
19	S K 5	R 3	12.3	7.8	2.0	0.2				4.6	(0.5)	(0.5)	0.8	14.0		
20	S K 5	R 3	(8.2)	8.2	2.0	0.2								(11.0)		
21	S K 5	R 3	(9.1)	8.9	2.0	0.3								(14.0)		
22	S K 48	Y s 1	(7.7)	(4.3)	(2.5)	0.4	1.6	1.0		2.9	0.9	0.45	0.9	(12.0)		
23	S K 48	K 3	7.8	4.4	2.3	0.3				3.5	0.6	0.5		8.0		
24	S K 48	Y s 1	(4.9)	4.3	1.6	0.3	1.4	0.8	0.3					(12)	重き、別個体 分類	
25	S K 48	K 2	8.2	5.2	2.6	0.4				2.9	0.4	0.4	1.0	11.5		
26	S K 48	K 2	9.3	5.4	3.2	0.3				3.8	0.6	0.5	0.9	9.3		
27	S K 48	K 3	6.6	3.3	2.2	0.2				3.3	0.5	0.4	8.5	9.0		
28	S K 48	R 2	(5.0)	4.7	1.9	(0.6)							0.5	(8.0)		
29	S K 48	—	(6.0)	(3.1)	1.3	0.2				2.9	0.6	0.5		(6.0)		
30	S K 48	—	(5.2)								0.5	0.5	0.9	(3.5)	軸だけ	
31	S K 1	K 3	6.8	3.4	2.5	0.2				2.4	0.6	0.3	0.9	6.0		
32	S K 2	Y s 1	(3.5)										0.8	(3.0)		
33	S T 1003	Y s 1	(5.9)	4.0	2.2	0.3	1.0	0.6	0.3	1.9	0.6	0.5	0.6	(8.5)	重き 右付番	
34	S T 1003	Y s 1	5.9	(3.3)	2.2	0.3	0.7	0.8	0.6	1.6	0.5	0.4	0.6	(8.0)		

表13 鉄錠一覧表(2)

回転番号	機構名	鉄錠形式	全長	錠身		頭部		基部		矢柄	重さ	備考	
				長さ	幅	厚さ	幅	厚さ	幅				
35	S T1003	—	5.5	4.0	2.2	0.3	1.1	0.7	0.5	1.3	0.4	0.4	0.6 8.0
38	S T1011	Y r 3	13.0	4.6	2.3	0.4	2.4	1.9	0.5	2.4	0.8	0.5	0.9 22.0 開部幅 2.2
39	S T1012	K 2	9.5	6.2	3.3	0.4				3.3	0.6	0.4	0.9 26.5
40	S T1014	K 3	6.1	4.0	1.9	0.3				2.1	0.6	0.4	0.6 (10.0)
41	S T1014	K 3	(3.0)	(3.0)	1.9	0.2							(3.0)
42	S T1015	M 2	7.3	7.3	3.2	0.4						1.2	18.0
43	S T1015	M 2	7.4	7.4	3.0	0.4						2.1	21.0
44	S T1015	Y r 2	(7.4)	(5.5)	2.0	0.3	0.7	0.7	0.2	2.7	0.6	0.4	0.8 (10.0)
45	S T1015	M 2	7.0	7.0	2.5	0.3							11.5
46	S T1015	M 2	6.4	6.4	3.0	0.3						1.0	11.5
48	S T1017	R 2	(6.1)	(6.1)	3.0	(1.0)							(26)
49	S T1017	M 2	(7.1)	7.1	2.5	0.5							(15)
50	S T1017	M 2	(6.8)	6.8	2.1	0.4							(15)
53	S T1019	K 1	(15.5)	11.6	3.5	0.4				4.0	1.1	0.4	1.1 (40.0)
55	S T1020	K 3	9.7	6.2	2.3	0.3				2.5		1.0	18.5 石付錠
56	S T1020	K 3	9.3	4.8	2.1	0.3				3.4		0.4	1.0 (20.0) 石付錠
57	S T1020	K 3	8.1	4.3	2.2	0.3				3.7	(0.6)	0.4	1.0 11.0
58	S T1020	K 3	6.8	4.4	2.5	0.3				2.4	0.6	0.4	9.0
61	S T1025	K 1	(17.0)	12.0	3.8	0.6							
62	S T1025	K 1	(18.3)	12.3	4.0	0.5						1.5	
68	S T2001	K 1	15.1	11.2	(4.0)	0.4						1.0	(38.0)
69	S T2001	K 1	14.7	11.0	(2.7)	0.5				3.6	0.7	0.6	1.0 (38.0)
71	S T2001	K 1	(10.8)	10.8	(4.0)	(0.5)							(26.0)
72	S T2002	K 1	15.4	11.8	3.5	0.5				3.5	(0.7)	0.6	1.1 52.0
73	S T2002	Y r 3	16.4	8.6	2.1	0.4	1.9	1.2	0.7	7.4	0.7	0.5	(39.5) 開部幅 1.8
74	S T2002	K 4	(13.8)	(10.0)	2.7	0.4				3.7	0.7	0.7	(39.5)
80	S T2002	Y r 1	(9.5)	8.1	2.3	0.5	2.6	2.2	0.5	1.2	0.8	0.4	(24.0) 開部幅 1.6
81	S T2002	Y r 1	11.4	7.0	2.0	0.5	1.9	1.1	(0.5)	(4.6)	0.6	0.5	1.1 30.0
82	S T2002	K 1	16.2	11.3	(3.6)	0.5				4.9	0.7	0.5	1.1 51.0
83	S T2002	K 1	(14.1)	(6.0)	(2.8)	0.6	3.5			0.5	6.1	0.7	0.5 1.0 51.0 開部幅 1.5

表14 鉄錠一覧表(3)

图面 番号	重 量	規格名	形状形式	全 長	筋 身			頭 部			基 部			欠柄 性	重 さ	備 考
					長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ			
84	S T2004	K 1		15.1	10.7	3.6	0.6				4.4	0.7	0.5	1.1	(51.3)	
85	S T2004	K 1		15.7	10.9	4.0	0.5				4.8	0.8	0.6	1.1	(51.3)	
86	S T2003	K 2		9.7	7.4	2.9	0.4				2.6	0.6	0.4	1.0	(27.5)	
87	S T2003	K 2	(12.0)	8.3	2.4	0.5					2.8	0.7	0.4	1.2	(27.5)	
88	S T2007	K 1		19.0	11.0	4.0	0.4				7.4	1.3		1.1	52.0	
91	S T2007	K 2		15.9	6.3	2.8	0.4				3.8	0.6		1.1	21.5	
92	S T2007	K 2		16.9	5.9	2.3	0.35				11.0	0.6		1.1	21.5	
93	S T2007	—	(15.5)	(7.3)	(3.0)	0.14					8.1			1.1	(28.0)	
94	S T2009	Y r 1		10.6	6.7	1.9	0.35	0.9	1.1	0.4	3.9	0.4	0.5	17.5	開部幅 1.4	
99	S T2010	K 1		16.5	11.7	4.0	0.4				4.8	0.5	0.4	1.1	47.5	
100	S T2010	T 2		13.7	2.8	1.3	0.3	3.6	0.6	0.4	6.3			1.1	17.0	
101	S T2010	R 4		11.0	6.0	1.4	0.3	1.1	1.1	0.4	3.9	0.5	0.5	15.0		
103	S T2011	K 2	(12.2)	(6.4)	3.0	0.4					4.4			1.0	(32.2)	
104	S T2011	K 2		13.5	10.0	3.1	0.5				3.5	0.6	0.4	1.0	(32.2)	
105	S T2011	K 1		14.8	8.7	3.5	0.4				4.3	0.6	0.4	1.0	31.0	
108	S T2012	K 1		17.1	12.2	4.0	0.4				4.9	0.5	0.5	1.1	65.0	
109	S T2012	K 1	(14.6)	16.0	3.7	0.5					(1.9)	0.6	0.6	1.1	(49.0)	
110	S T2012	Y r 1	(8.5)	5.8	1.6	0.3	2.1	0.7	0.4	(1.6)	0.6	0.4		(33.5)	開部幅 1.2	
111	S T2012	Y r 1		16.8	13.0	3.0	0.5	2.5	1.0	0.5	6.5	0.8	0.4	1.1	55.5	開部幅 2.1
112	S T2012	Y r 1	(12.5)	12.0	2.4	0.4	1.8	1.0	0.8	(1.9)	0.4	0.6		(42.5)	開部幅 1.4	
113	S T2013	K 3	(5.8)	(5.8)	(2.2)	0.4										
114	S T2013	Y r 1	(9.2)	9.2	2.3	0.4	1.8	0.9	0.5						開部幅 1.4	
115	S T2013	K 2	11.5	7.0	3.0	0.6					3.9			1.1		
120	S T2013	K 1	14.8	12.3	4.2	0.4					2.5	0.6	0.5	1.1	67.5	
121	S T2013	K 1	19.3	14.5	4.7	0.5					4.6	0.7	0.6	1.1	94.0	
122	S T2013	K 1	12.6	10.5	3.5	0.6					(2.1)	0.5	0.3	1.0	45.5	
123	S T2013	—	(9.2)	(4.5)	(0.7)	(0.4)					4.7	0.5	0.4	0.9	(30.0)	
124	S T2013	Y r 1	(10.7)	9.2	2.3	0.6	2.4	1.3	0.6	(1.5)	0.7	0.6		(30.1)	開部幅 1.6	
125	S T2013	Y r 1		12.3	7.1	2.1	0.5	2.0	0.9	0.4	5.4	0.5	0.4	1.0	23.0	開部幅 1.3
126	S T2013	Y r 1	(9.8)	8.3	2.4	0.3	1.5	1.0	0.4	(1.0)	0.9	0.4		(31.0)	開部幅 1.6	

表15 鉄錠一覧表(4)

図面 番号	造 構 名	鉄錠形式	全 長	腰 分			腰 部			茎 部			尖端 重さ	輪 周
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ		
127	S T2013	Y r 1	12.9	6.2	3.1	0.5	2.0	1.1	0.6	5.6			1.0	29.0 間部幅 1.5
128	S T2013	- -	(7.4)	(3.9)	(1.3)	(0.5)				3.1	0.5	0.5	1.1	(14.0)
129	S T2013	—	(4.6)							(4.6)	0.6	0.6		(5.0)
132	S T2014	K 1	17.9	13.4	3.8	0.5				4.5	0.7	0.6	1.1	78.0
134	S T2014	T 2	11.9	2.4	1.4	0.3	3.8	0.7	0.5	5.4			0.9	15.5
135	S T2014	T 2	11.3	2.3	1.7	0.4	4.7	0.8	0.7	4.3	0.4	0.5	1.0	24.5
137	S T2014	T 3	12.6	2.4	1.0	0.3	4.2	0.8	0.8	5.4			1.0	20.0
138	S T2014	T 3	8.5	2.6	1.1	0.4	2.4	0.9	0.6	3.4	1.1		1.0	18.0
139	S T2014		(5.4)	(0.6)	(1.0)	0.4				3.9	0.6		1.0	(9.5)
140	S T2014	—	(4.1)	(0.5)	(1.0)	0.6				3.6	0.8	0.6	1.0	(8.5)
144	S T2017	K 1	14.7	9.4	2.5	0.4				5.3	0.5	0.5	1.0	29.0
145	S T2017	T 1	(15.0)	2.0	0.9	0.3	(8.1)	0.8	0.5	4.9	0.8			(31.5)
147	S T2018	K 2	9.8	5.8	(2.4)	0.3				4.0	0.4	0.3	0.8	15.5
148	S T2018	K 2	(7.3)	6.6	2.6	0.2				(0.7)	0.6	0.4	0.9	(15.5)
149	S T2018	K 2	9.6	5.3	2.3	0.4				3.0			0.9	15.6
150	S T2018	K 2	11.5	7.6	2.9	0.4				3.9	0.6	0.4	1.1	28.5
151	S T2019	Y r 2	(8.45)	8.0	2.1	0.4	(3.7)	0.8	0.4					(21.5)
152	S T2019	—	(12.2)		(2.9)	0.5					0.7	0.6		(21.5)
153	S T2019	K 2	(6.9)	(6.9)	2.4	(0.6)								(26.0)
154	S T2019	K 4	(13.1)		2.7	0.5					0.8	0.5		(43.0)
135	S T2018	K 2	(6.8)	(6.8)	2.3	0.5								(13.0)
136	S T2018	K 2	(12.4)	(18.8)	1.7	0.3	2.4	0.8	0.5	3.6			0.9	(13.0)
159	S T2026	K 2	11.0	6.2	2.1	0.4				4.4			1.1	20.0
160	S T2026		(6.6)	1.5	1.2	0.3	1.9	0.7	0.4	(3.2)	(0.4)			(9.0)
161	S T2026	- -	(6.4)		1.3	0.3				0.6	0.3			(6.5)
164-1	S T2029	T 3	18.1	3.5	1.0	0.4	9.6	0.7	0.4	5.0			1.0	
164-2	S T2029	T 3	19.7	3.2	1.1	0.4	14.5	0.9	0.4	4.1			1.0	
164-3	S T2029	T 3	(16.8)	(1.6)	1.0	0.3	10.3	0.7	0.5	4.6		0.3	0.9	
164-4	S T2029	T 3	(9.7)				(5.7)	0.6	0.4	4.0	0.4	0.4	0.9	
164-5	S T2029	T 3	(17.0)				(13.5)	0.7	0.4	4.6	0.5	0.5	1.1	

表16 鉄鍔一覧表(5)

番号	造構名	鉄鍔形式	全 身	鐵 分			頭 部			玉 部			矢柄 座	監 査	備 考			
				長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ	長さ	幅	厚さ						
165-6	S T2029	T 3	(17.5)				(13.1)	1.0	0.5	4.4		0.5	0.9					
165-1	S T2029	T 3	(16.5)	3.0	1.5	0.6												
165-2	S T2029	T 3	(18.1)															
165-3	S T2029	T 3	15.3	2.7	1.3		7.2	0.6	0.4	5.2	0.4	0.3	0.9					
168	S T2025	K 1	(12.0)	(12.0)	4.2	0.4								(52.5)				
169	S T2025	K 1	(10.1)	(10.1)	4.3	(0.7)								(61.2)				
171	S T2025	K 1	(13.5)		3.6	0.3					0.7	0.6						
172	S T2025	K 1	(8.7)	(8.7)	3.5	0.5												
173	S T2025	K 2	10.5	7.4	2.5	0.4				3.0	0.5	0.4	1.0	23.5				
174	S T2025	K 2	7.8	7.3	2.6	0.4				2.5	0.5	0.5	0.9	21.0				
175	S T2025	—	(9.5)	(5.1)	(2.1)	0.4				4.4	0.6	0.4		(35.0)				
176	S T2025	—	(5.7)	(5.7)	(1.9)	0.4								(30.5)				
177	S T2025	—	(13.5)	(7.1)	2.0	0.5				6.4	0.8	0.6		(31.5)				
178	S T2025	T 3	(6.6)	4.2	1.3	0.4				(2.3)	0.9	0.6		(11.5)				
180	S T2027	K 1	15.7	11.3	4.0	0.5				4.2		0.5	1.0	64.5				
181	S T2027	K 1	(13.4)	(13.4)	4.1	0.4								(56.0)				
182	S T2027	K 1	16.5	12.2	4.3	0.5				4.3	0.6	0.5	1.0	78.5				
183	S T2027	K 1	18.9	11.0	4.4	0.5				7.7			1.1	62.0				
184	S T2028	K 1	(8.6)	(8.6)	2.8	0.5								(39.0)				
185	S T2028	—	(6.7)	(2.1)	(1.1)	0.3				4.2		1.1		(11.5)				

表17 土器観察表(1)

図面番号	遺物番号	遺物名	器種	文 織 お よ び 漆 塗			焼成	外 色	内 色	底	著者
				外 面	内 面	底					
99	1 a・b	4・5 漆	口縁 脚部 脚部	口縁...ナデ 脚部...ナデ? 脚部	ナデ	角化の角質層不明	* 漆 漆	漆層 (5 YR 8/4) (10 Y R 8/6)	漆質 (10 Y R 8/4)	白・赤・透明な性を含む 1mm内の板を多く含む。	
*	2	*	*	口縁 脚部	口縁...変形 脚部	ナデ?	*	漆 (5 YR 7/8)	漆 (7.5 YR 7/6)	白・赤・透明な板を含む 2~3mmの板を含む。 1mm以内を多く含む。	
100	3	*	*	口縁 脚部	口縁...変形 脚部...工具によるナデ	ナデ	*	漆 (7.5 YR 7/6)	漆質 (7.5 YR 8/3)	ガラスの膜が黒い色を含む 0.15~1mm厚 (漆・漆の 膜を含む)。 漆を含む。 Japon et al.	
*	4	*	*	口縁 脚部	口縁...変形 脚部	ナデ?	*	に赤い斑 (2.5 YR 2/3) 無	漆 (10 Y R 7/4)	3mmの板を含む 0.5mmの板を多く含む。	
101	5	*	*	口縁 脚部	口縁...ヨコナデ 脚部...ナデ	山根...ナデ	*	に赤い斑	漆 (10 Y R 7/4)	白・赤・透明な板を含む 0.5mmの板を多く含む。	
*	6	*	*	口縁 脚部	口縁...ヨコナデ	黒化の角質層不明	*	に赤い斑 (5 YR 7/4)	漆 (10 Y R 7/4)	2mmの板 0.5mmの板を含む。	
*	7	*	*	口縁 脚部	口縁...ナデ 脚部...板のひきものによ るナデ	ナデ	*	漆 (10 Y R 8/4)	漆質 (7.5 YR 7/8)	白・赤・透明な板を含む 0.5mmの板を多く含む。	
*	8	*	*	口縁 脚部	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	*	に赤い斑 (5 YR 5/4)	漆 (10 Y R 6/6)	透明な板を多く含む。	
*	9	*	*	口縁 ハケ口	ヨコナデ ハケ口	ヨコナデ、ナデ	*	に赤い斑	漆 (10 Y R 7/4)	透明な板を多く含む。 1~3mmの白・黒・赤の 斑を含む。	
*	10	*	*	口縁 タテガタ	ヨコナデ	ヨコナデ タテガタのハケ口	*	に赤い斑	漆 (10 Y R 6/4)	透明な板を多く含む。 1mm以下の茶・黒・透明 の板を含む。	
*	11	*	*	口縁	ヨコナデ、ハケ口	黒化の角質層不明	*	に赤い斑 (5 YR 6/4)	漆 (10 Y R 5/2)	白・赤・透明な板を含む。	
*	12	*	*	口縁	ヨコナデ タテガタのハケ口	ナデ	*	に赤い斑 (7.5 YR 5/4)	漆 (10 Y R 6/4)	1~5mm以下の白・黒・透明 の板を含む。	
*	13	*	*	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ ナデ	*	に赤い斑 (7.5 YR 5/6) 漆質 (10 Y R 7/2)	漆 (10 Y R 6/4)	1~4mmの板を含む。 0.5mmの板を多く含む。 1mm以下の茶・黒・灰色 の板を含む。	
				ハケ口				に赤い斑 (10 Y R 7/2)	漆 (10 Y R 6/4)	透明で光るもの の板を含む。	

表18 土器観察表(2)

試験番号	植物	通称名	品種	特徴	外 色		内 色		調 外 色		調 内 色		解 説
					外 色	内 色	外 色	内 色	外 色	内 色	外 色	内 色	
101	14	4 - 5 a - b	茎	口縁 網形・斜・ 網形	金物的に輝く が白い が白い	金物的に輝く が白い が白い	に古い痕跡 所白 (2.5Y R 7/4) 所白 (2.5Y R 5/2)	に古い痕跡 所白 (2.5Y R 5/3)	5白色 (5Y R 7/4) 5白色 (5Y R 6/3)	ガラス質のものと見らるる 最も、0.5~1mmの薄いIK, 最も、0.5~2mm ガラス質のものと見らるる 最も、0.5~2mm 多くの場合、ガラス質を 多く含む、(harm少々含む)			
+	15	*	*	茎部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
102	16	*	*	茎部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	17	1015	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	18	4 - 5 a - b	*	茎部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	19	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	20	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	21	*	*	茎部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
103	22	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	23	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	24	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	25	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	26	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	
+	27	*	*	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	斜部 斜部 斜部 斜部	

表19 土器観察表(3)

序番	遺物 番号	遺物名	石器	文様おもとび調査			地 面	胎 土	備 考
				外 面	内 面	底板			
103	25	4・5 n・b	新石 器時代 ヨコナデ	風化の為調査不明	良好	にい黄土 (10Y R 7/4) 灰青色 (10Y R 5/2)	にい黄土 (10Y R 7/4) 灰青色 (10Y R 5/2)	1~3 mmの灰・茶・褐 白等の砂粒。薄く解く性 能。透明に光る粒を含む。	
*	29	*	網状 ナデ	ナデ	*	にい黄土 (10Y R 7/4)	にい黄土 (10Y R 7/4)	1~3 mmの灰・茶・褐・綠 白等の砂粒。薄く解く性 能。透明に光る粒を含む。	
*	30	*	網狀 ヨコナデ	ナデ	*	明黄褐色 (10Y R 7/6)	明黄褐色 (10Y R 7/6)	1~3 mmの灰・茶・褐・綠 白等の砂粒。薄く解く性 能。透明に光る粒を含む。	
*	31	*	網狀 ヨコナデ	ハケ目	*	灰青色 (10Y R 6/2) (2.5 Y G 2)	にい黄土 (10Y R 6/2)	にい黄土 (10Y R 6/2)	Saxifrageの特徴。 底の砂粒が少く、表面はより 粗い。表面は薄く解く性 能。透明に光る粒を含む。
*	32	*	網狀 ナデ	風化の為調査不明	*	黑 (12.5 Y 2/1)	にい黄土 (10Y R 6/2)	にい黄土 (10Y R 6/2)	1 mm後の赤茶、白、灰 褐色の砂粒。及び火 燒痕を含む。
*	33	*	網狀 ヨコナデ	ナデ	*	浅灰 (2.5 Y 7/5)	にい黄土 (10Y R 7/4)	にい黄土 (10Y R 7/4)	1 mm後の赤茶、白、灰 褐色の砂粒。及び火 燒痕を含む。
*	34	*	網狀 斜方角のハケ目	風化の為調査不明	*	にい黄土 (10Y R 7/3)	にい黄土 (10Y R 7/3)	1 mm後の赤茶、白、灰 褐色の砂粒。及び火 燒痕を含む。	
*	35	*	網狀 ヨコナデ 斜方角のハケ目の上を ナデ	風化の為調査不明	*	浅灰 (2.5 Y 7/3)	にい黄土 (7.5 Y R 7/4)	1 mm後の赤茶、白、灰 褐色の砂粒。及び火 燒痕を含む。	
*	36	6・d n	口縁 網狀 ヨコナデ 斜方角のナデ	板状のものによる好 条件のナデ	*	灰 (7.5 Y R 6/6)	にい黄土 (5 Y R 5/4)	1 mmの粒を多く含む 黒灰色のもの。黒い砂粒を 含む。	
104	37	1008	長縫形 網狀 完形 ナデ	ナデ、ハケ目 折縫底面が残る ヨコナデ ナデ	*	灰青色 (10Y R 7/2) 灰 (10Y R 5/4) 灰 (10Y R 2/2)	にい黄土 (10Y R 7/3) 灰 (2.5 Y)	ガラス質のもの。黒い砂 粒を含む。1 mmの粒を 含む。	
*	38	4・5 n・b	口縁 網狀 ナデ ハケ目	ナデ	*	軟青色 (10Y R 6/4)	软青色 (10Y R 6/6)	1 mmの粒を多く含む 黒い砂粒を含む。	
*	39	1003	1 網狀 網狀 ナデ	ナデ	*	灰白 (10Y R 7/1)	にい黄土 (10Y R 6/4)	1 mmの粒を多く含む 黒い砂粒を含む。	
*	40	4・5 n・b	口縁 網狀 ナデ	ハケによるナデ ナデ	*	浅灰 (2.5 Y 7/3)	浅灰 (10Y R 6/3)	黒い光沢のガラス質の 砂粒を含む。	
*	41	*	口縁 網狀 ナデ	斜方角の一部の下部 新規…ミガキ…一部残る 底筋…ミガキ…	*	MC (5 Y G 1) 浅灰 (10Y R 6/3)	浅灰 (10Y R 8/3)	黒く光る粒・1 mmの粒 を含む。	一部黒色 の砂粒を多く含む。

表20 土器觀察表(4)

区分	遺物番号	遺物名	石器	文様		焼成	他	調査		著者
				外 面	内 面			外 面	内 面	
104	42 a・b	1・5 壺	先端 山形 口縁 「口縁上部ヨコナヂ、口 縁下部ヨコナヂ、斜部指揮 輪及び側面傾斜がある 壺」の文様	山形 口縁 「口縁上部ヨコナヂ、斜部指 輪及び側面傾斜がある 壺」の文様	山形 口縁 「口縁上部ヨコナヂ、斜部指 輪及び側面傾斜がある 壺」の文様	良好	他 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	43	*	口縁 「口縁上部ヨコナヂ、 その他のナヂ」	口縁 「口縁上部ヨコナヂ、 その他のナヂ」	口縁 「口縁上部ヨコナヂ、 その他のナヂ」	*	に古い焼成 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	に古い焼成 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	に古い焼成 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	44	*	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	*	明赤地 (5 YR 5/6) 灰白 (10 YR 8/2)	に古い焼成 (5 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	に古い焼成 (5 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	45	*	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜がある 壺」の文様	口縁 斜部 輪及び側面傾斜がある 壺	口縁 斜部 輪及び側面傾斜がある 壺	*	に古い焼成 (5 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	に古い焼成 (5 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	に古い焼成 (5 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	復 (5 YR 6/6) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	46	*	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	*	浅黄 (2.5Y 7/4) 灰白 (2.5Y 7/1)	浅黄 (2.5Y 7/4) 灰白 (2.5Y 7/1)	浅黄 (2.5Y 7/4) 灰白 (2.5Y 7/1)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2)
*	47	*	口縁 残る	口縁 残る	口縁 残る	*	灰白 (10 YR 7/4) 1mmの粒を含む	灰白 (10 YR 7/4) 1mmの粒を含む	灰白 (10 YR 7/4) 1mmの粒を含む	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	48	*	口縁 輪部	口縁 輪部	口縁 輪部	*	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (10 YR 6/1)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	49	1013	*	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	*	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	浅黄 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	50	4・5 a・b	口縁 灰白	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	*	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	51		口縁 灰白	口縁 ナヂ	口縁 ナヂ	*	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	灰白 (10 YR 7/4) 灰白 (7.5Y R 7/8)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
105	62	1001	灰白	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	*	浅黄 (5 YR 4/6) 灰白 (5 YR 6/8)	浅黄 (5 YR 4/6) 灰白 (5 YR 6/8)	浅黄 (5 YR 4/6) 灰白 (5 YR 6/8)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	52	4・5 a・b	口縁 ナヂ	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	*	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	54	*	口縁 ナヂ	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	*	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	灰白 (5 YR 6/6) 灰白 (5 YR 6/6)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)
*	55	*	口縁 ナヂ	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	口縁 「口縁 斜部 輪及び側面傾斜 がある」と書かれた 壺」の文様	*	浅黄 (2.5Y 8/3) 灰白 (5 YR 6/6)	浅黄 (2.5Y 8/3) 灰白 (5 YR 6/6)	浅黄 (2.5Y 8/3) 灰白 (5 YR 6/6)	復 (5 YR 6/1) 灰白 (10 YR 8/2) 灰黑 (10 YR 4/1)

表21 土器觀察表(5)

剖面番号	遺物番号	形状	器種	底部	外 面	文様および構造	内 面	焼成	外 面	内 面	施 工	土 質	備 考	
165	56	1015	环形 不規則	口唇部ナデ、裏面の角 底部の上部にある 縫隙	ナデ	兔形	浅黃褐色 (10 YR 6/4)	浅黃褐色 (10 YR 6/4)	灰白 (2.5 YR 8/2)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/4)	1~ 2mm水の蒸気を もたらす 透明・白の釉をもつ 細粒を多く含む	2mm 人、3mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部が多くさむ。		
*	57	1015	輪形 一	内側 ナデ、外側 ナデ、その下にコナデ 基部 底	ナデ	輪形 ナデ	に似た黄褐色 (10 YR 6/4)	に似た黄褐色 (10 YR 6/4)	灰白 (2.5 YR 8/2)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/4)	2mm 人、3mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	2mm以下 の茶褐色 (10 YR 6/2) 半透明。黒や光沢をも 含む。		
*	58	4-5 4-6	*	輪部 内部 不規則	*	ナデ ナデ ナデ	ナデ ナデ ナデ	輪部上部転化の為不明 輪部ナデ 輪部上部に横ギ ナギ ナギ ナギ	*	浅黃褐色 (10 YR 6/4)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/6)	1cm 大的の茶褐色 底で光沢をも 含む。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	59	*	环形 基部 上部	*	輪部 基部 上部	ナデ ナデ ナデ	ナデ ナデ ナデ	輪部上部～脚部上部に横ギ ナギ ナギ ナギ ナギ ナギ	*	浅黃褐色 (10 YR 6/4)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/6)	1cm 大的の茶褐色 底で光沢をも 含む。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	60	*	轮部 上部	*	輪部 上部	ナデ ナデ	*	上部による断続? 輪部 転化・削鍛のため不明 完全的に風化	*	浅黃褐色 (10 YR 6/6)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/6)	1cm 大的の茶褐色 底で光沢をも 含む。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	61	*	輪部 上部	*	輪部 上部	ナデ ナデ	*	輪部 転化・削鍛のため不明 完全的に風化	*	浅黃褐色 (10 YR 6/6)	浅黃褐色 (7.5 YR 8/6)	1cm 大的の茶褐色 底で光沢をも 含む。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	62	*	*	輪部 上部	*	ナギ ナギ	*	ナギ ナギ	*	明赤色 (5 YR 5/6)	に似た赤褐色 (5 YR 5/6)	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	63	*	*	輪部 上部	*	ナギ ナギ	*	ナギ ナギ	*	浅黃褐色 (10 YR 6/3.5/4)	浅黃褐色 (10 YR 6/3.5/4)	1cm 大的の茶褐色 底で光沢をも 含む。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	
*	64	*	*	輪部 上部	*	ナギ ナギ	*	ナギ ナギ	*	に似た赤褐色 (10 Y R 5/4)	に似た赤褐色 (10 Y R 5/4)	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	2mm 人、5mmの粒。 1cm 大的の茶褐色。自・割裂 条状、細部多くさむ。	

表22 土師器・陶磁器観察表(1)

回 番号	植物 名	通稱名	器形	法 量 (cm)	色		刷 毛	焼成	内 面		外 面		備 考	
					上 部	底 部			内 面	外 面	内 面	外 面		
121 1	12-C	土師 壺	尖形 「T」脚 1	(11.6) 8.5 (12.0) (9.6) 3.3	10YR 5/16 2.5YR 5/16	黑色 黑色	良好 良好	ヨコナデ ヘタナデ	半分以上残 存	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 2	*	*	「T」脚 絆	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
* 3	*	*	—	(11.3) (7.7) 3.25	2.5YR 5/16	—	—	—	—	—	—	—	—	
* 4	*	*	*	(11.4) —	—	7.5Y R 5/16 7.5Y R 5/16	10YR 5/16 黄 7.5Y R 5/16	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 5	12-C c-d	*	絆	—	(8.5) —	7.5YR 5/16	7.5Y R 5/16 7.5Y R 5/16	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 6	*	*	*	—	(7.4) —	10YR 5/16 黄 10YR 5/16 黄	5 YR 5/16 黄 10YR 5/16 黄	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 7	12-C c-d	尖形 絆	—	(8.5) 7.0	1.9	10YR 5/16 10YR 5/16	10YR 5/16 2.5Y 5/16 白	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 8	12-C c-d	*	*	8.9	6.5	1.5	10YR 5/16 黄 10YR 5/16 黄	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 9	*	*	*	(6.8) (6.2) (1.4)	10YR 5/16 に近い黄 10YR 5/16 に近い黄	—	10YR 5/16 に近い黄 10YR 5/16 に近い黄	ヨコナデ ヘタナデ	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 10	*	*	「T」脚 1 絆	(7.5) (6.2) 1.7	10YR 5/16 10YR 5/16	10YR 5/16 に近い黄 10YR 5/16 に近い黄	10YR 5/16 10YR 5/16	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 11	12-C	*	*	(7.65) (6.0) 1.5	7.5Y R 5/16 に近い黄 7.5Y R 5/16 に近い黄	7.5Y R 5/16 に近い黄 7.5Y R 5/16 に近い黄	10YR 5/16 黄 10YR 5/16 黄	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	
* 12	12-C c-d	*	*	(8.2) (7.65) 1.36	7.5Y R 5/16 7.5Y R 5/16	—	7.5Y R 5/16 7.5Y R 5/16	2mm程の白垢 の白垢、底、口部 及び内部を含む	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り
* 13	*	*	*	(8.5) (7.1) 1.5	10YR 5/16 に近い黄 10YR 5/16 に近い黄	同左	同左	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	未切 り	

表23 土器・陶磁器観察表(2)

番号	動物	遺物番号	器種	器形	口径	底形	高さ	基盤	内面	外面	調査	整備		備考		
												法量(cm)	法量(cm)	内面	外面	
121	14	12・a	土瓶	直筒	—	—	(6.8)	—	2.5Y5%淡黄	同片	無色の光る微粒を含む	無好	ナダ	不明	系切り 与留焼存	
*	15	*	口錐	直筒	—	—	—	—	1.4 2.5Y5%淡黄 7.5YR5%淡黃	2.5Y5%淡黄 2.5Y5%灰白	1cm以下の茶・白・灰 色の颗粒及び無粒 物を含む	*	*	ヨコナダ	*	ヨコナダ
122	21	5・a	土瓶	格子	*	(11.25)	(8.45)	4.0	10YR5%淡黄 10YR5%淡黄	10YR5%淡黄 10YR5%淡黄	1mm前後の茶・黑・灰 色・チサテ色を含む 及び光る微粒を含む	*	*	ヨコナダ	*	ヨコナダ
*	22	4・d	直筒	直筒	—	(8.4)	—	—	2.5Y5%淡黄	同左	1mm前後の茶・黑・灰 色・チサテ色を含む 及び光る微粒を含む	*	*	ナダ	*	ナダ
*	23	5・b	直筒	直筒	*	—	6.65	—	10YR5%淡黄	*	1mm前後の茶・黑・灰 色・チサテ色を含む 及び光る微粒を含む	*	*	ナダ	*	ナダ
*	24	5・a	直筒	直筒	*	—	(6.1)	—	2.5Y5%淡黄	*	1mm前後の茶・黑・灰 色・チサテ色を含む	*	*	ナダ	*	ナダ
*	25	5・b	直筒	直筒	*	—	5.8	—	7.5YR5%5%淡黄	*	茶色の細粒及び光る微 粒を含む	*	*	ナダ	*	ナダ
剖面																
		番号	遺物名	器種	器形	口径	法量(cm)	色	調査	内面	外面	剖面・成形板法の特徴				
121	16	12・a	直筒	直筒	—	—	外 10Y5%灰白	内 7.5GY5% 細灰	—	外 10Y5%灰白	内 7.5GY5% 細灰	口縁部は丸返り、外面に轍を有する選升、施釉、光沢がある				
*	17	12・e	直筒	直筒	*	—	外 10Y5%灰白	内 7.5GY5% 細灰	—	外 10Y5%灰白	内 7.5GY5% 細灰	口縁部は丸返り、外面に轍を有す、施釉・光沢がある				
*	18	12・13	直筒	直筒	—	—	口径(7.9) 底 基盤(1.55)	内 2.5GY5% オリーブ灰 外 7.5GY5% 灰白	—	外 10Y5% オリーブ灰 内 10Y5% 灰白	内 2.5GY5% オリーブ灰 外 7.5GY5% 灰白	外縁に大粒有り細花、底部第一部内面端部、内面突起部及び外縁 施釉				
122	26	5・b	直筒	直筒	—	—	—	内 10Y5% オリーブ灰 外 10Y5% 灰白	—	外 10Y5% オリーブ灰 内 10Y5% 灰白	内 10Y5% オリーブ灰 外 10Y5% 灰白	外縁に施釉、施釉、光沢がある、買入がある				
*	27	4・e	直筒	直筒	*	—	底 基盤(5.6)	内 5G5% オリーブ灰 外 5G5% 灰白	—	外 2.5GY5% 灰白 内 2.5GY5% 灰白	内 2.5GY5% 灰白 外 2.5GY5% 灰白	底部へ繋り中心に轍・突起があるが鋸歯状、施釉、光沢がある、 一部光白、表面大部分、釉面部分漏出				
*	28	5・b	直筒	直筒	*	底 基盤(5.4)	内 5G5% オリーブ灰 外 5G5% 灰白	—	内 10YR5% にかい青 外 5G5% 明オーラー灰	—	内 10YR5% にかい青 外 5G5% 明オーラー灰	—	底部へ繋り中心に轍・突起があるが鋸歯状、施釉、光沢がある、 一部光白一面部、底面一部、底面一面部			

表24 土師器・陶磁器観察表(3)

回数	遺構名	石	磚	瓦	土	調査	形態・成形技法の特徴	
番号	番号							
122	29 5-b	磨削部 口縁部 裏	口縁部 —	内 5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 オリーブ灰 1.5 YR 5/6 褐灰 底 1.5 YR 5/6 黒	5 YR 5/6 キーピング層 7.5 YR 5/6 灰とこだら7.5 YR 5/6 灰 10 YR 5/6 白 10 YR 5/6 白	内面 5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 オリーブ灰 1.5 YR 5/6 褐灰 底 10 YR 5/6 白	ナガ、外壁及び内面に下光沢のある施釉、以下光沢のある施釉、以下光沢のある 施釉	
+	30 5-a	*	*	—	内 10 YR 5/6 白 外 2.5 G 5/6 黑 （注：よい光沢あり）	2.5 YR 5/6 黑 （注：よい光沢あり）	内面ヨコナギ、その他のナゲ、口縫部外面上によい光沢のある施釉	
+	31 5-b	磨削部 底部	—	内 2.5 YR 5/6 黑 外 2.5 G 5/6 黑 （注：よい光沢あり）	10 YR 5/6 白 外 7.5 YR 5/6 白 （注：よい光沢あり）	2.5 YR 5/6 黑 （注：よい光沢あり）	内面ヨコナギ、6本の糸状を持つ滑水層、外水ナゲ、深い溝	
+	32 5-a	*	底部	—	内 10 YR 5/6 白 外 7.5 YR 5/6 白 （注：よい光沢あり）	7.5 YR 5/6 白 （注：よい光沢あり）	内面ヨコナギ、内縫ヨコナギ口縫一層入り付白、壁厚1.5cmの滑 水層	
+	33 5-b	*	*	—	内 5 YR 5/6 しない層 外 5 YR 5/6 しない層	5 YR 5/6 しない層 外 5 YR 5/6 しない層	内面ヨコナギ、壁厚2cmの滑水層を7本もつ直ヨコナギ、1.5cm スリット	
+	34 2-c	滑削部 裏	*	底径12.8 外 5 YR 5/6 黑	内 5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 滑水層 （注：よい光沢あり）	5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 黑	内面ヨコナギ、外面ヨコナギのない施釉、表面のない施釉、明 るい施釉、外水ナゲ	
+	35 3-d	*	*	底径5.5 外 5 YR 5/6 黑	内 5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 滑水層 （注：よい光沢あり）	5 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 黑	内面ヨコナギ、外面ヨコナギのない施釉にこの施釉がみられる 部分ナガ、外水ナゲ	
123	36 5-b	底付 皿	*	底径(6.2) 外 10 G YR 5/6 明鏡灰	内 10 YR 5/6 滑水層 外 5 YR 5/6 黑	10 YR 5/6 白	光沢のある施釉、質もあり、内面ヨコナギ、という施型あり、高台 部ノハリ削ぎ、底部中心一部光沢のある施釉質入	
+	37 2-c	染付 小鉢	口縁(5.8)	内 7.5 G YR 5/6 明鏡灰 外 5 YR 5/6 黑	内 10 YR 5/6 白 外 5 YR 5/6 白	NV 白	内・外壁染付、光沢のある施釉	
+	38 4-d	磨削部 底部	底径4.1 外 5 YR 5/6 黑	内 10 YR 5/6 白 外 5 YR 5/6 白	7.5 YR 5/6 白 5 YR 5/6 白	内・外壁光沢のある施釉、高台及び一部既剥落	内・外壁光沢のある施釉、高台一筋、底部剥落	
+	39 5-b	*	*	底径(4.6) 外 5 YR 5/6 黑	内 10 YR 5/6 白 外 5 YR 5/6 白	7.5 YR 5/6 白 7.5 YR 5/6 白	内・外壁光沢のある施釉、脚部ノハリ削ぎ、外側光沢のある施釉質付さ ず	内・外壁光沢のある施釉、脚部ノハリ削ぎ、外側光沢のある施釉質付さ ず
+	40 2-c	*	*	底径4.4 外 5 YR 5/6 黑	内 10 YR 5/6 白 外 5 YR 5/6 白	10 YR 5/6 白 （注：よい光澤）	内面光沢のある施釉、外側光沢のある施釉質付さ ず	内・外壁光沢のある施釉、質もあり、塗付一筋、底部剥落
+	41 5-b	*	*	底径4.6 外 5 YR 5/6 黑	内 2.5 YR 5/6 しない層 外 5 YR 5/6 黑	5 YR 5/6 明鏡灰 5 YR 5/6 しない層 外 5 YR 5/6 黑	内・外壁光沢のある施釉、質もあり、塗付一筋、底部剥落	内・外壁光沢のある施釉、質もあり、塗付一筋、底部剥落
+	42 1-k	石鍋	口縁 底付 ～底部(2.8)	内 2.5 YR 5/6 黑 内 2.5 YR 5/6 黑 Nv 底 5 YR 5/6 黑	10 YR 5/6 白 外 2.5 YR 5/6 黑 内 2.5 YR 5/6 黑 Nv 底 5 YR 5/6 黑	2.5 YR 5/6 黑 2.5 YR 5/6 黑 5 YR 5/6 黑	内・外壁光沢のある施釉、質もあり、塗付一筋、底部剥落	内・外壁光沢のある施釉、質もあり、塗付一筋、底部剥落

表25 土師器・陶磁器観察表(4)

測定番号	測定名	器種	部位	法量(cm)	色		形態・成形技術の特徴	
					内	外	内	外
123. 43 2-f	輪郭焼 裏	灰陶	底径(14.2)	内 10YR 5% 黄褐 外 2.5YY 黑褐	内 10YR 5% 黄褐 外 2.5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面がほとんどつらぬか、外面が底にあらわら物が残る。内に古い光沢をもつて底部、外面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 44 *	底部焼 底	灰陶	底径 4.8	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 45 *	*	底部	底径 5.0	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 46 *	*	底部	底径 4.6	内 5YY 黑褐 外 7.5YY 黑褐	内 5YY 黑褐 外 7.5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 47 2-e	*	底部	底径 4.6	内 7.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 7.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 48 *	*	先形	底径 4.4 底高 5.95 口徑(11.5)	内 5YY 黑褐 外 7.5YY 白 底部	内 5YY 黑褐 外 7.5YY 白 底部	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 49 *	*	底部	底径 4.4	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 50 2-f	*	口縁焼 裏	底径 4.2 底高 2.15 口徑(11.3)	内 7.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 7.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 51 *	*	先形	點綴 7.7 器高 2.85	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	内 2.5YY 黑褐 外 5YY 黑褐	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 52 3-i	*	輪郭焼 裏	底径 4.4	内 10YR 4% 黑 外 10YR 4% 黑	内 10YR 4% 黑 外 10YR 4% 黑	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 53 *	*	輪郭焼 裏	口縁部	—	—	—	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 54 *	*	輪郭焼 裏	底径 9.3	内 7.5GY 5% 粉紅 外 10YR 4% 黑	内 7.5GY 5% 粉紅 外 10YR 4% 黑	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。
* 55 10-i	青釉陶	底部	底径 9.3	内 10YR 4% 粉紅 外 7.5GY 5% 粉紅	内 10YR 4% 粉紅 外 7.5GY 5% 粉紅	底部、先端部なし	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。内面が底にあらわら物が残る。	内面ナゲ、外面が底にあらわら物が残る。底の中心から2.5cm離れたところに複数の凹溝がある。



A地区北西造構群遠景（南東から）



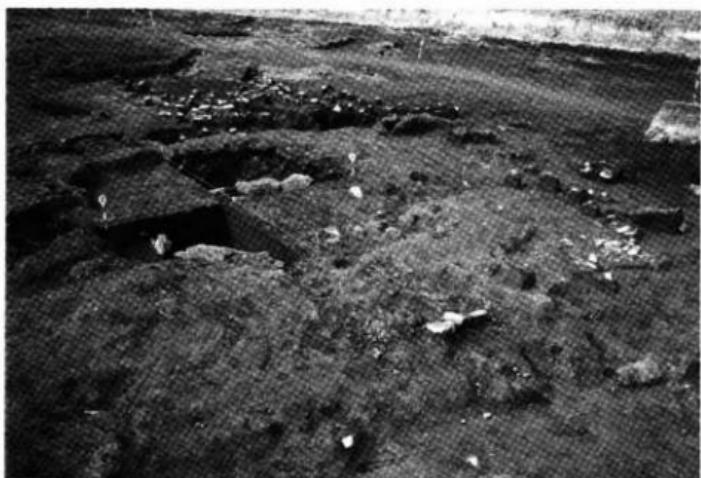
A地区北西造構群遠景（東から）



A地区北東遺構群 (12・13-c・d区)



A地区北東遺構群 (12・13-e・f区)



A地区北西遺構群 - SI 103および周辺検出状況（南から）



A地区北西遺構群 - SI 103および周辺検出状況（東から）

図版
4



A地区北西遺構群 (SK 6, SI 103・105周辺)



A地区北西遺構群北側全景



A 地區北西遺構群北西側全景



A 地區北西遺構群北東側全景



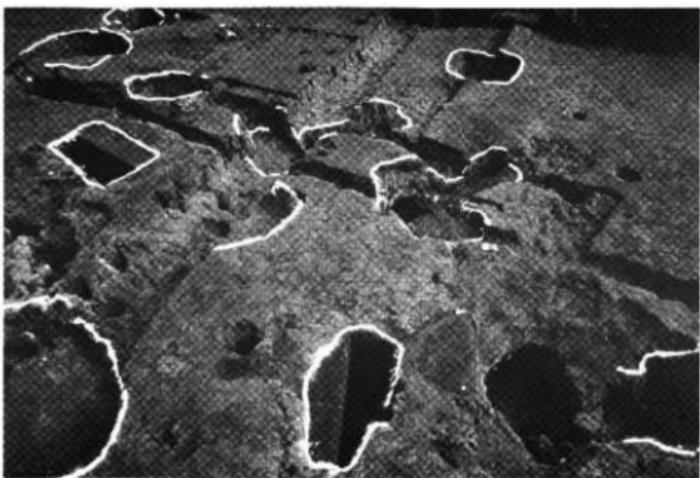
A地区北西遺構群東側全景



A地区北西遺構群東側全景



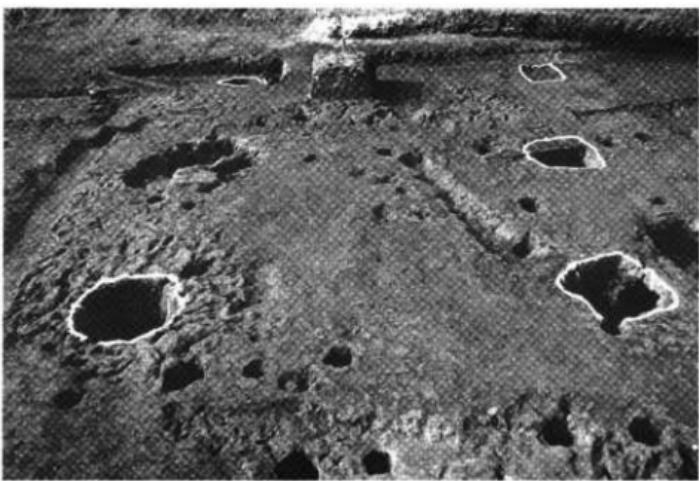
A 地区北西遺構群南西侧全景



A 地区北西遺構群南東側全景

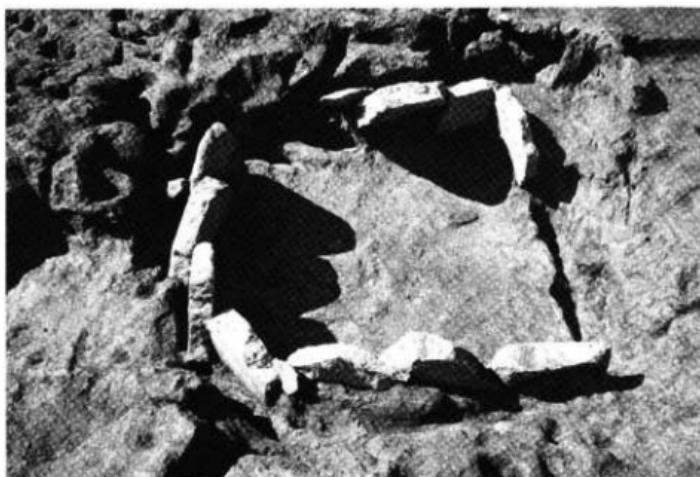


A 地区北西造構群南侧全景

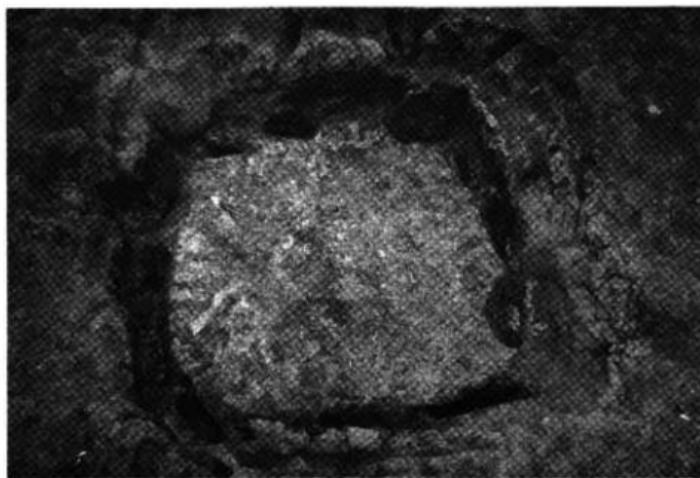


A 地区西造構群北侧全景

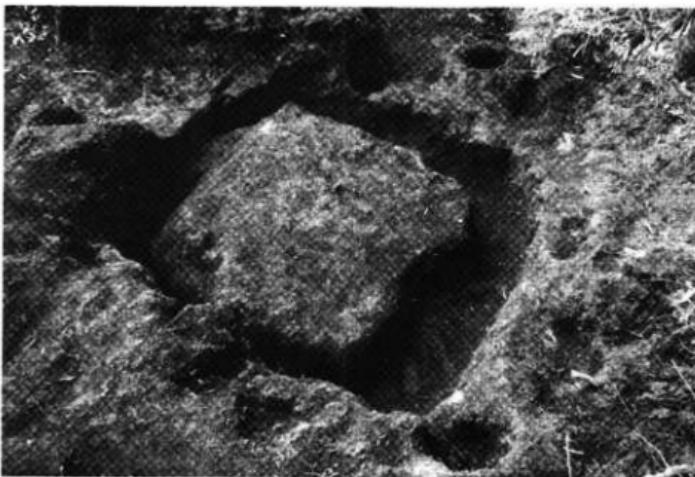
図版
9



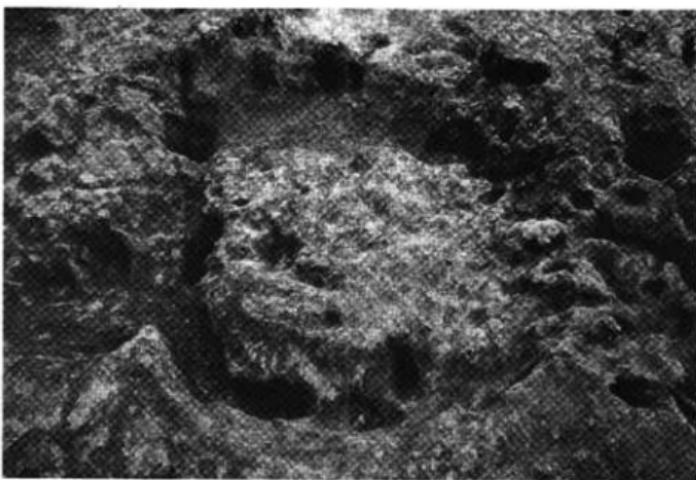
S I 1 0 5



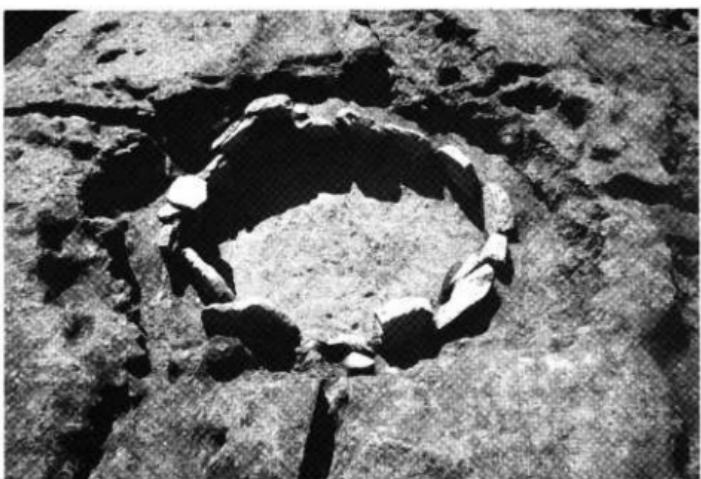
S I 1 0 5 (完掘)



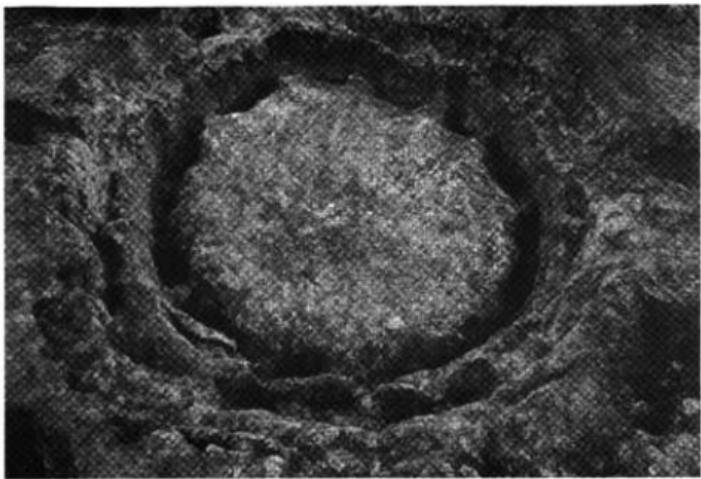
SI 103



SI 103 (完掘)



SI 108

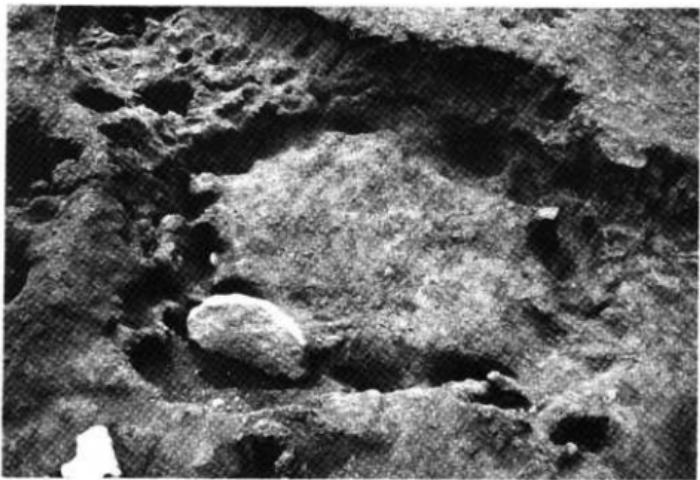


SI 107

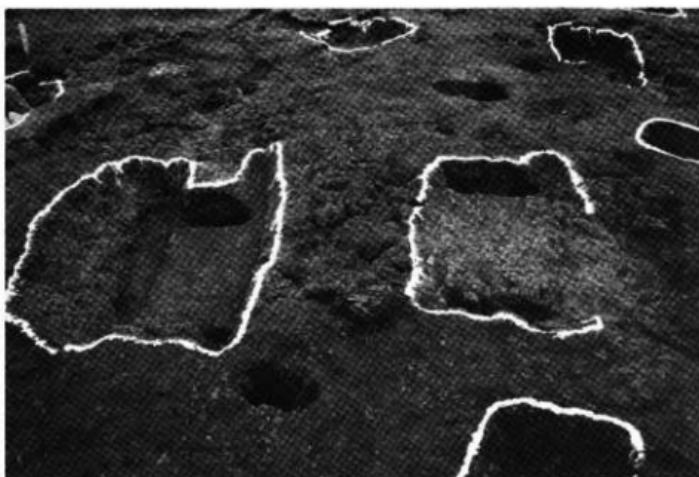
図版
12



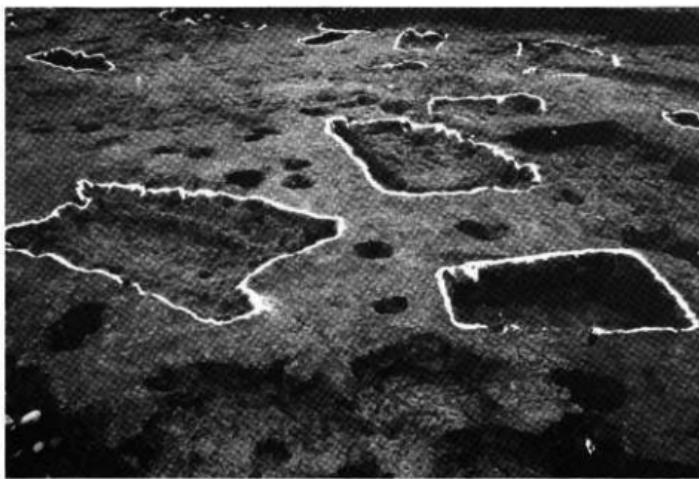
S I 1 0 2



S I 1 0 4

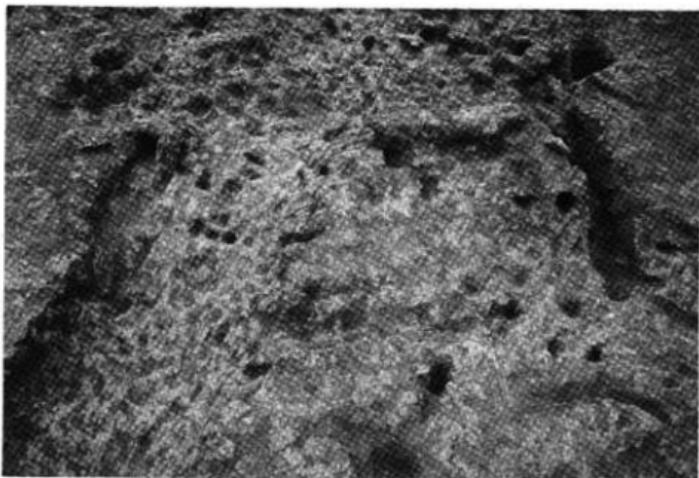


SK 5・6



SK 1・2

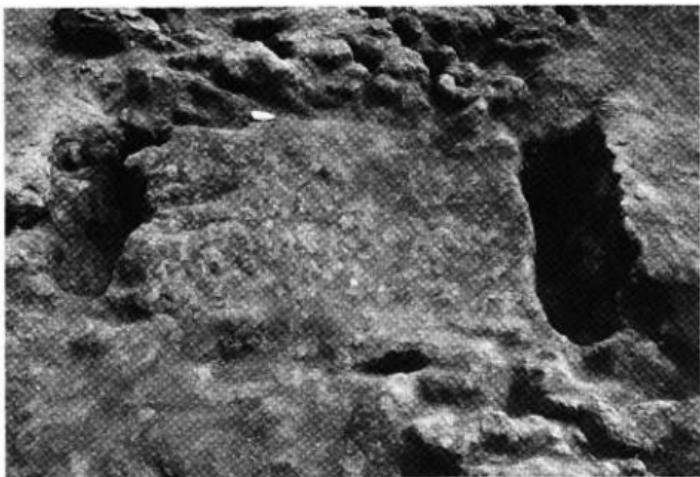
圖版
14



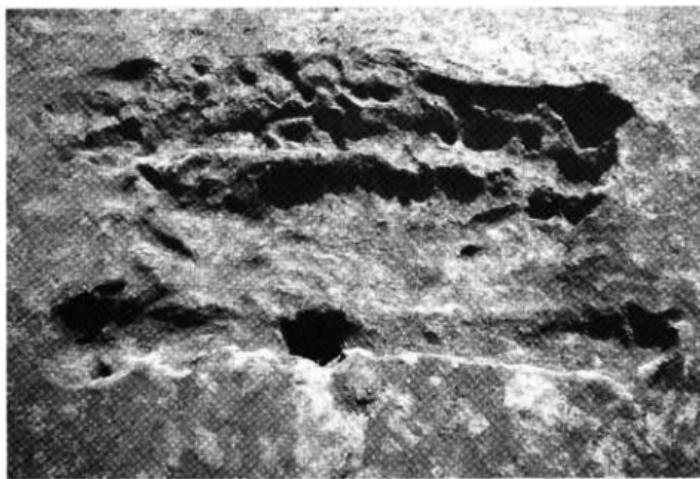
SK 4



SK 6

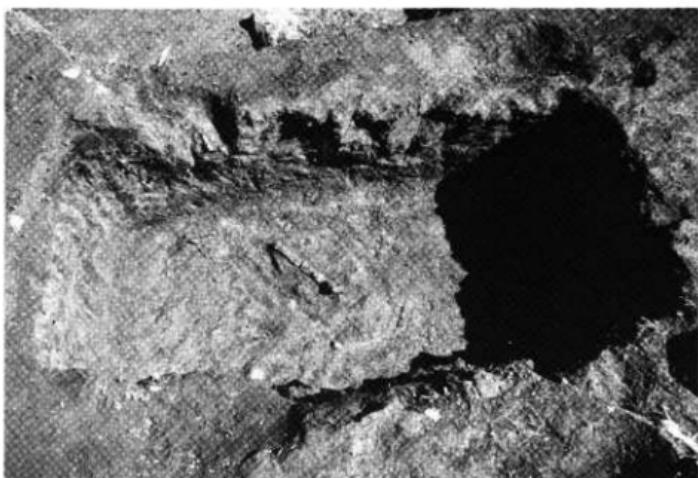


SK 5

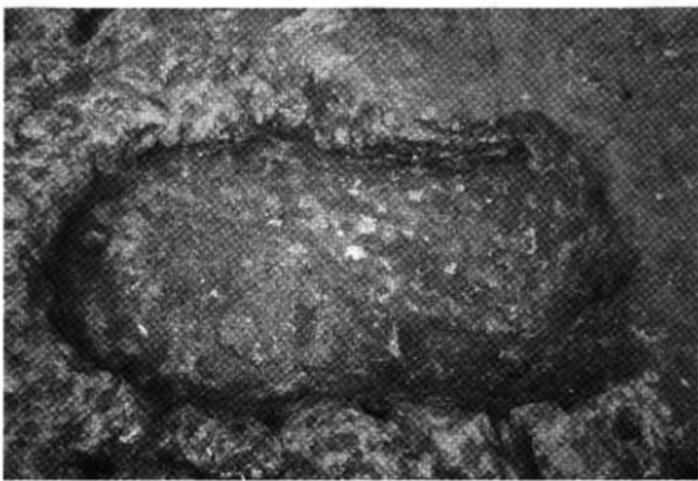


SK 2

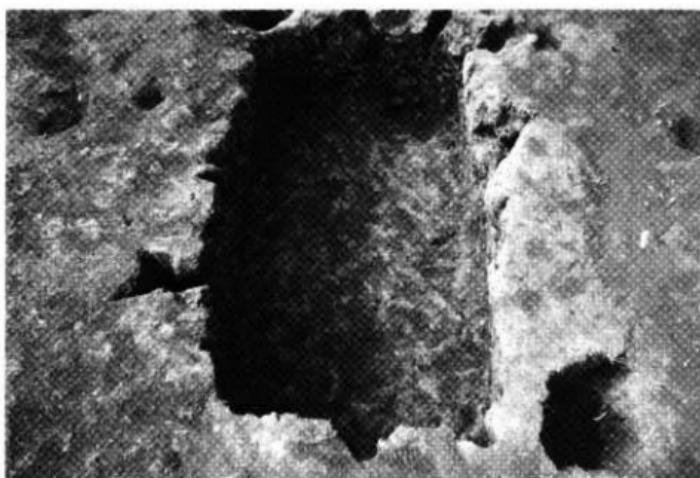
圖版
16



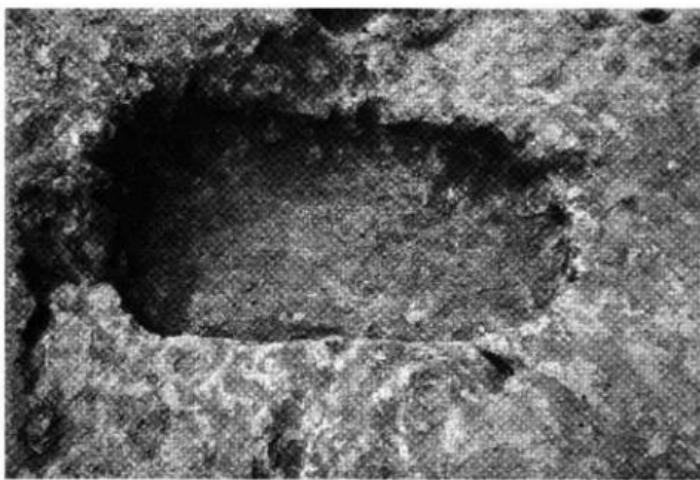
SK 7



SK 8

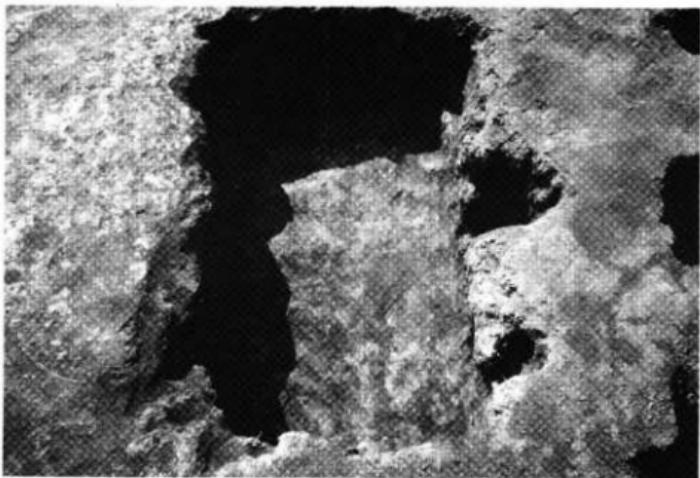


SK12



SK14

図版
18



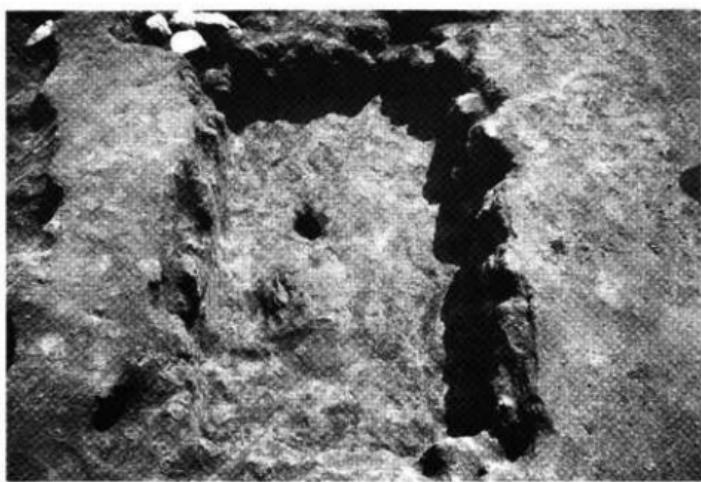
SK15



SK16

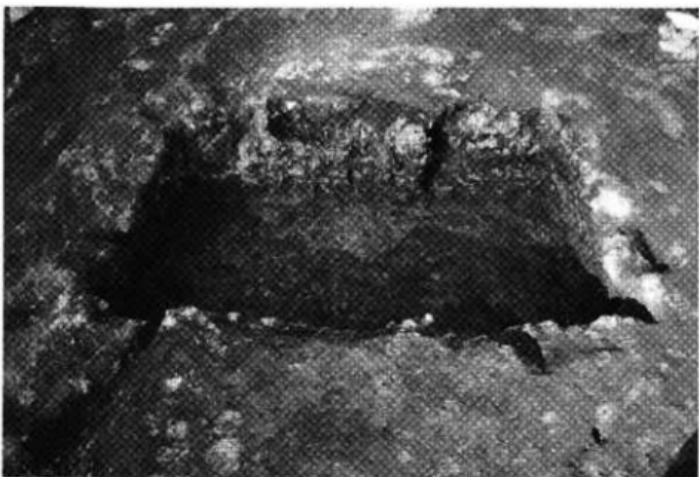


SK17



SK19

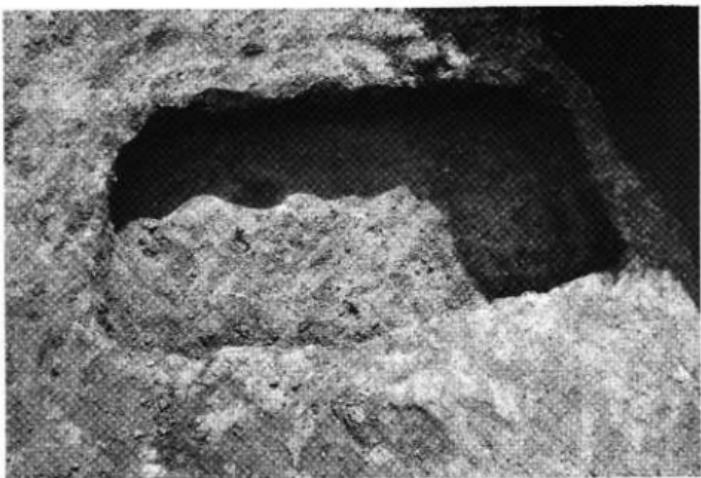
図版
20



S K 20



S K 21



S K 22

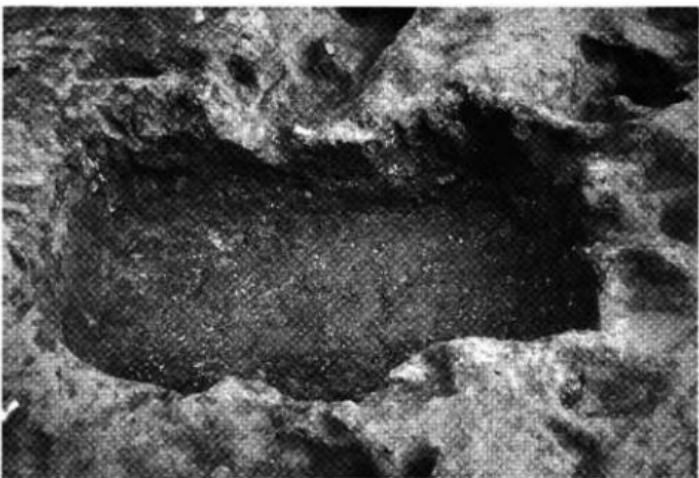


S K 23

図版
22



SK 16・25・57



SK 24



S K 33



S K 26